

楽天証券FXセミナー

# 円安 ヤバい 転換局面

フェイント、兆し、インパクト

2024年7月19日

当資料は情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。当資料は作成時点において合理的な範囲で入手可能な情報に基づいて作成されていますが、正確性、合理性、完全性、十分性、妥当性について、いかなる保証をするものではありません。当資料の掲載情報は、将来のパフォーマンスを保証するものではなく、リスクや不確実性を内在するものです。当該情報は一定の前提条件および予測を内在するものであり、当資料の作成者はこれを随時変更する権利を留保しますが、アップデートする義務は負いません。当資料の内容を使用することにより生ずる直接または間接のいかなる種類の損失に対しても、株式会社田中泰輔リサーチは一切の責任を負いません。当資料に掲載されたデータ、記事、画像等のすべての著作権は、株式会社田中泰輔リサーチに帰属します。© 2024 株式会社田中泰輔リサーチ

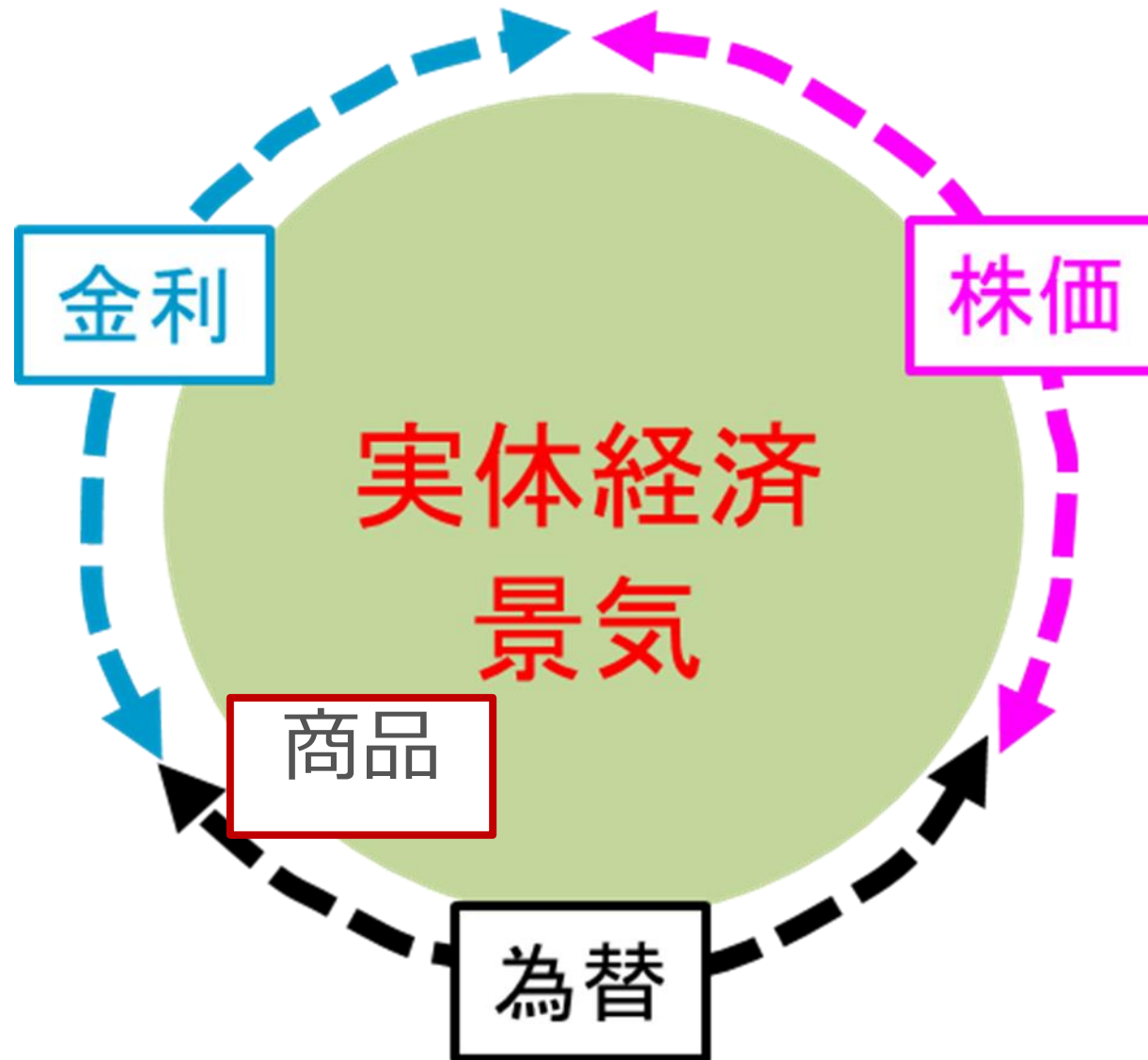
# お話すること

- 1 ドル円を軸に 現状評価と構造理解
- 2 ドル円を軸に 将来展望と投資展開
- 3 ドル円を軸に 大転換期のリスク把握とポジティブ思考

## 【ポイント】

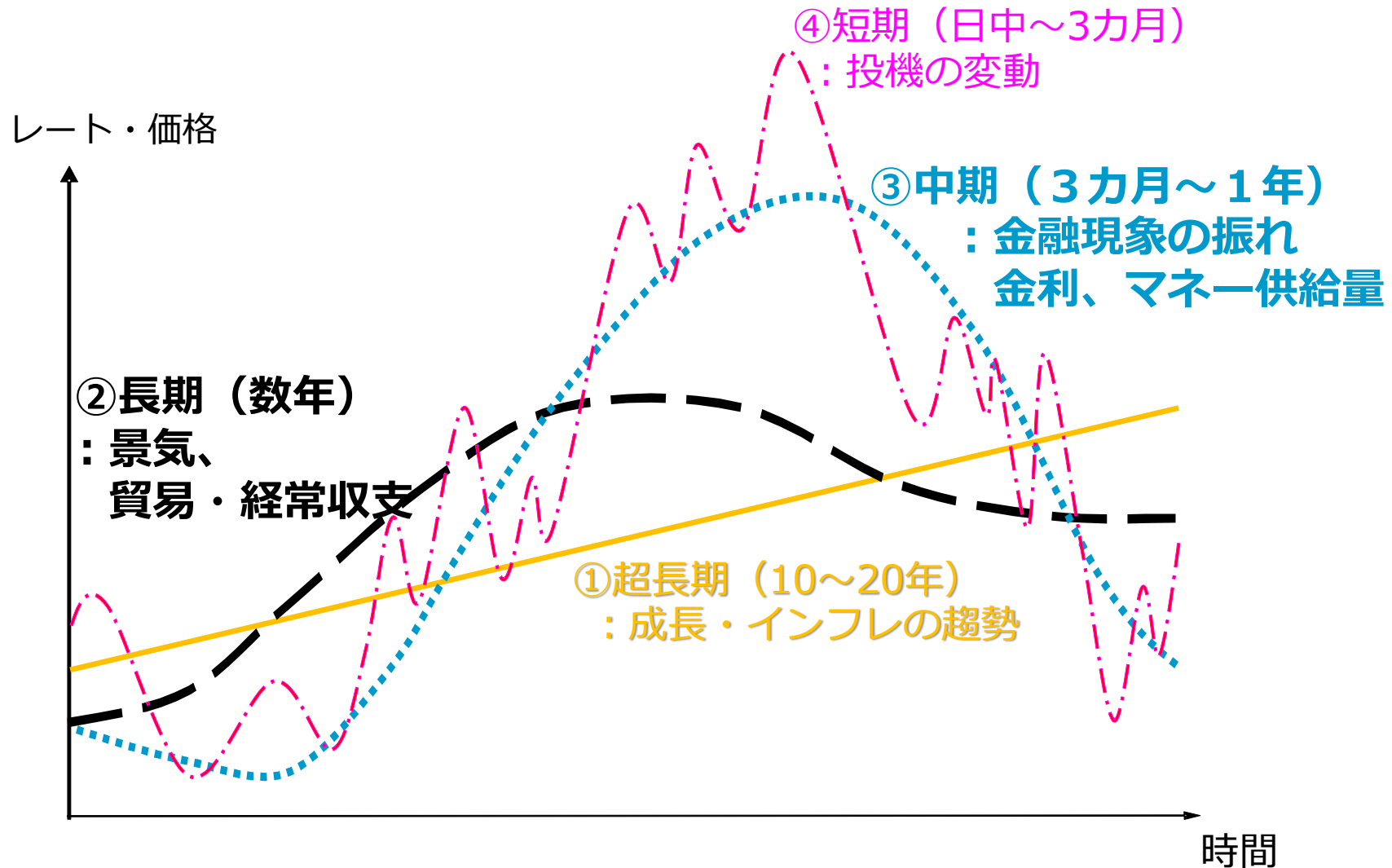
- A 相場要因の軽重を意識する ⇒使えない正論あり
  - B 別の時間軸で考える ⇒短視眼注意
  - C 円だけで考えない ⇒国際比較する
  - D 情報は偏向が常態 ⇒逆手に取る
- ⇒予想より、予想のロジックで対応する

# 基本 I 経済と市場のリンク



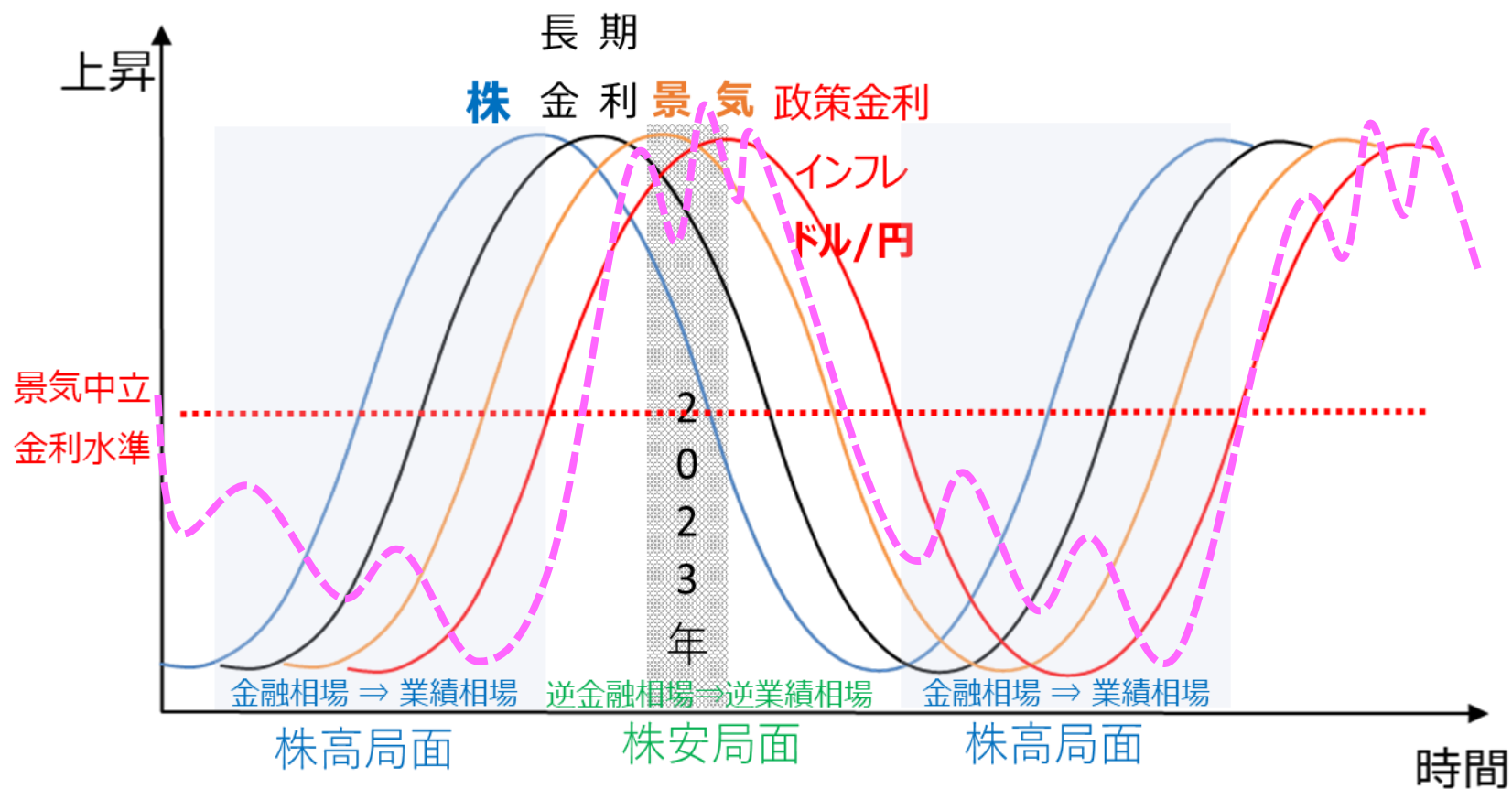
# 基本Ⅱ 相場の時間軸

相場の超長期・長期・中期・短期の階層



# 基本Ⅲ サイクル

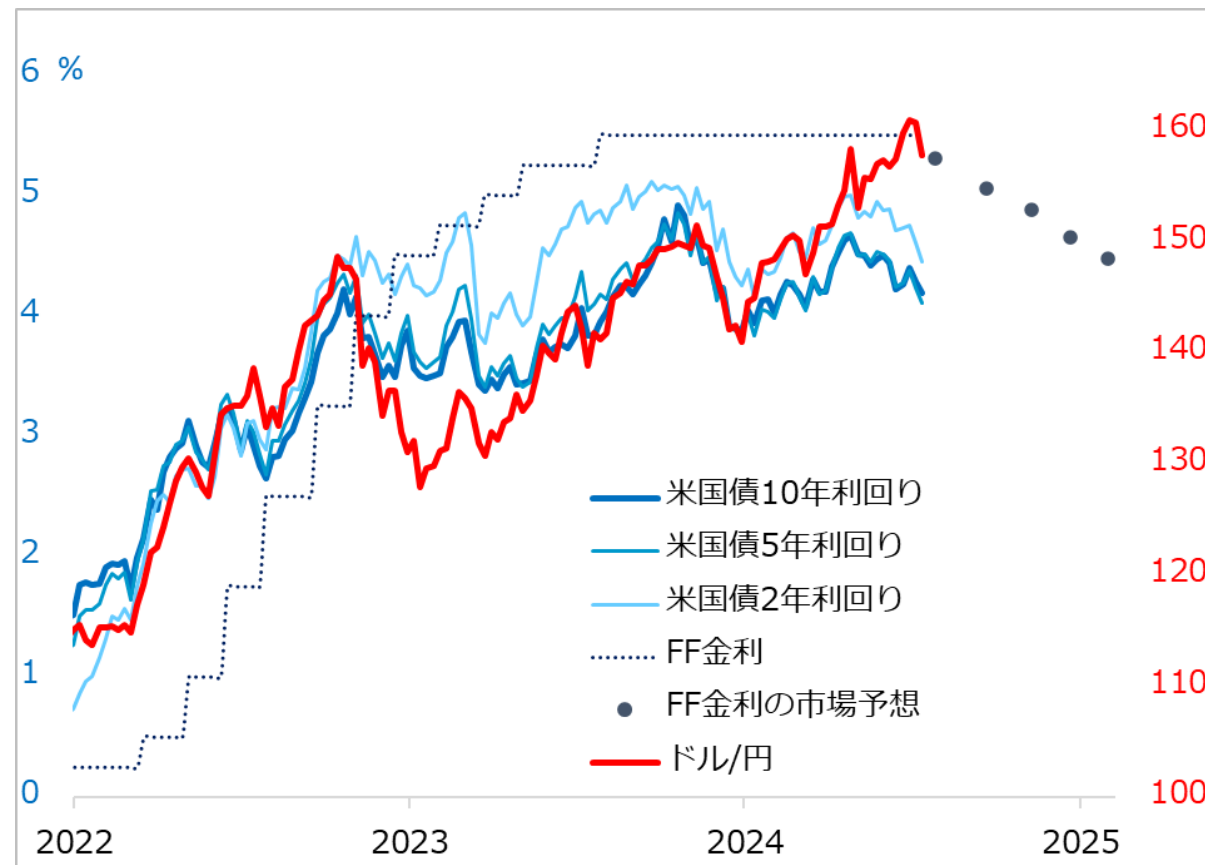
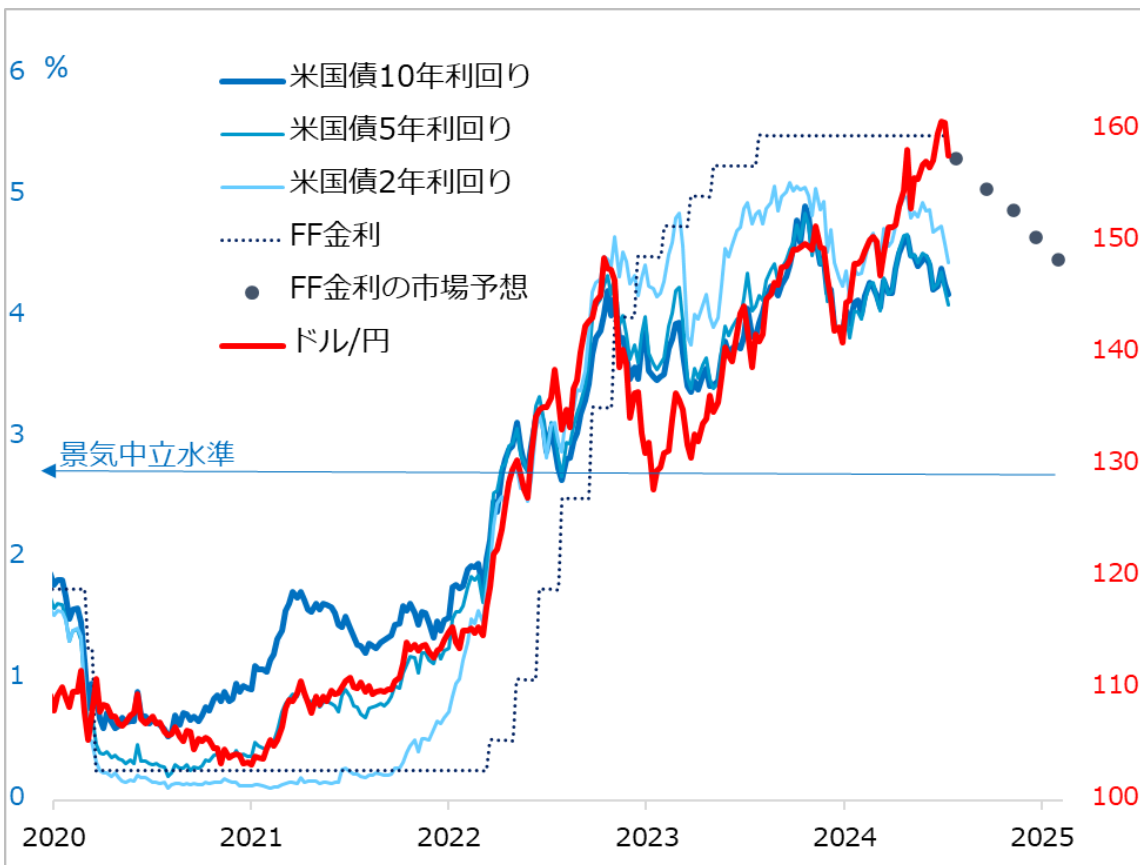
## ドル円サイクルのイメージ



● サイクルの時間差序列：株 ⇒ 長期金利 ⇒ 景気 ⇒ インフレ・政策金利・ドル円

# 米金利（1）ドル円と金利

## ドル円相場はまず米金利次第

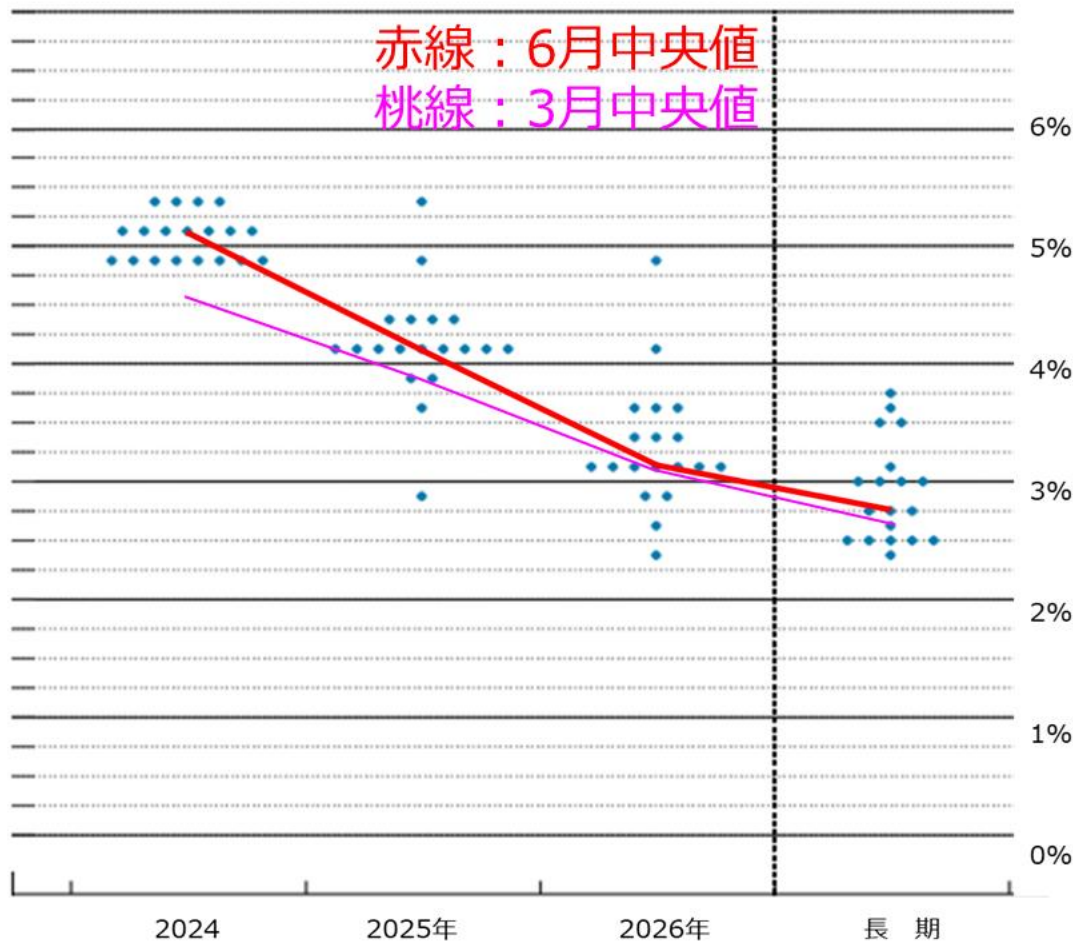


### ● 円安進行の背景

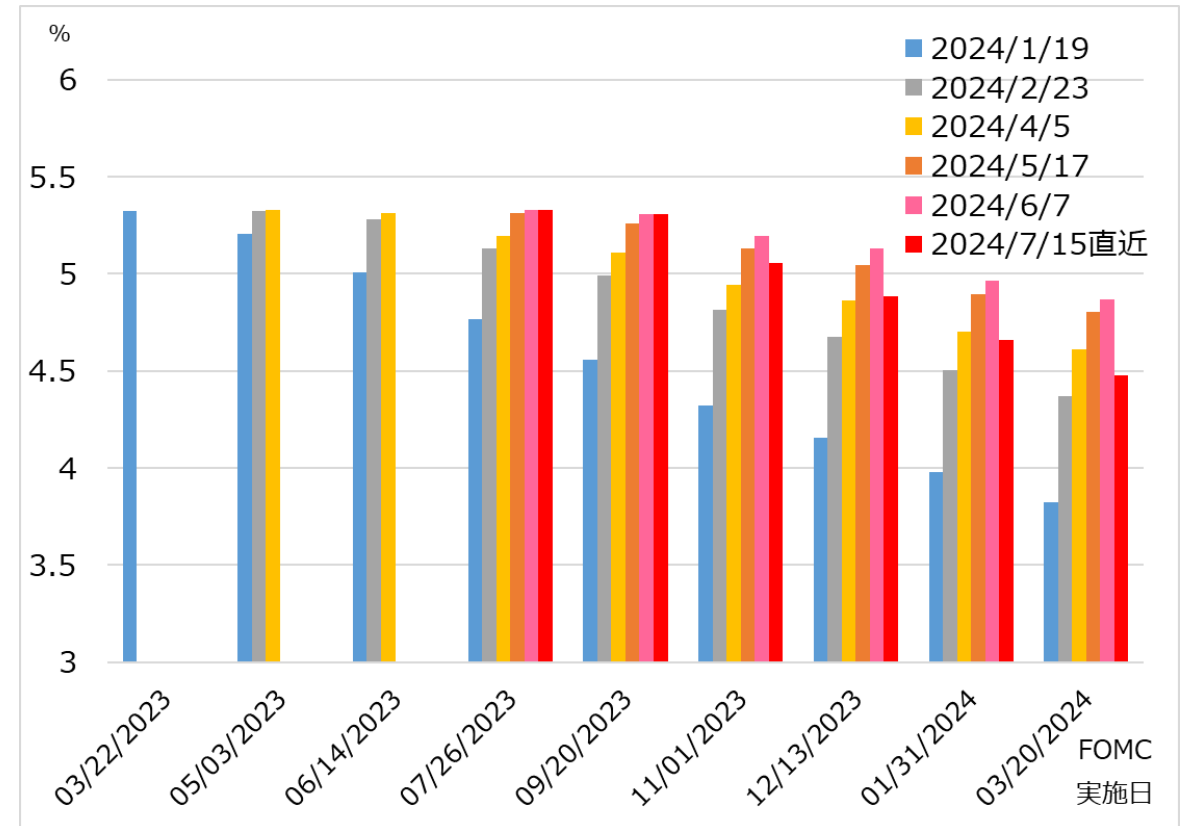
- 基本は米金利で見る ⇒ 利上げ局面は中長期金利 ⇒ 政策金利天井圏では短期金利差

# 米金利 (2) FOMCと市場

## FOMCドットチャート (2024年6月時点)



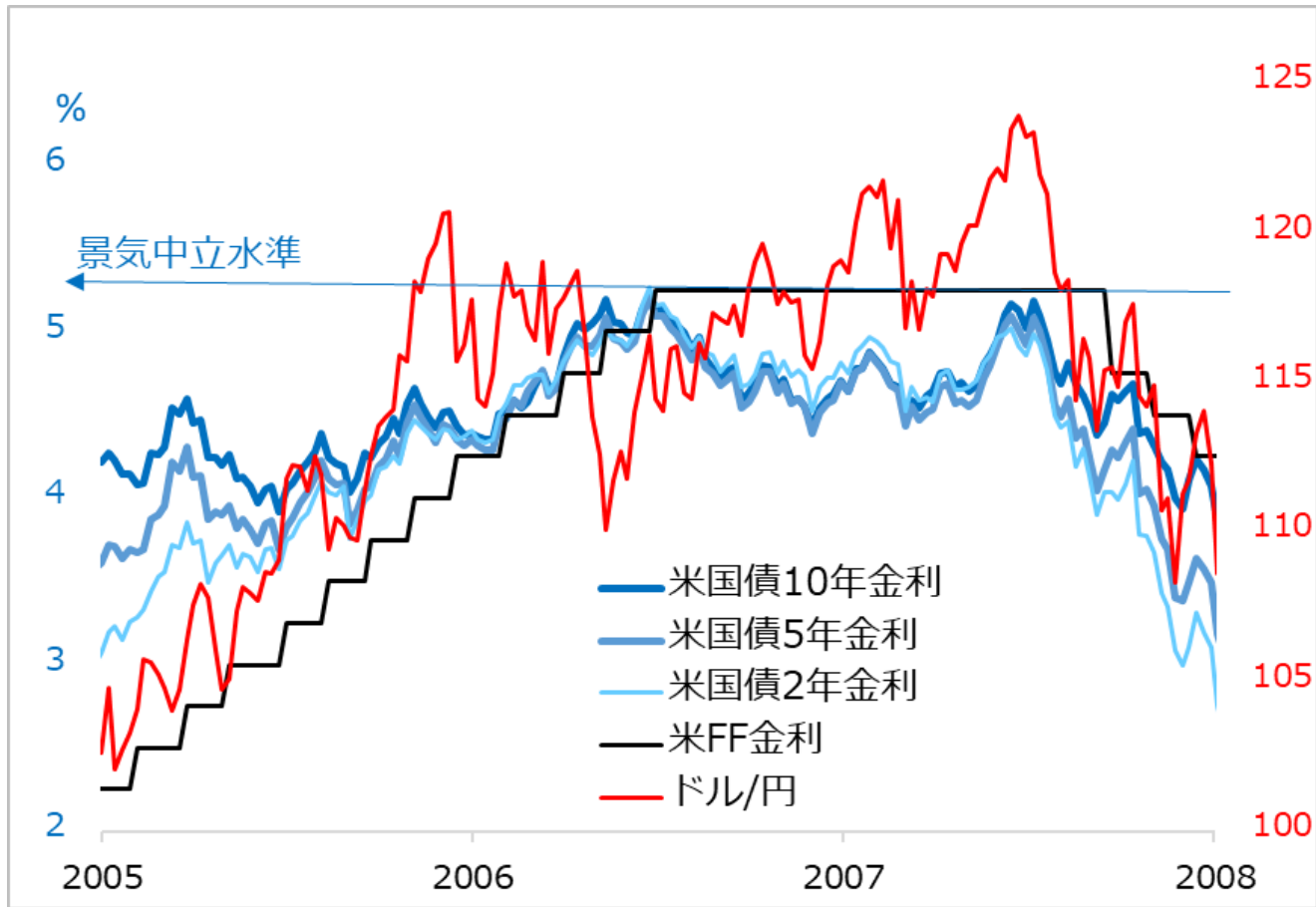
## 市場のFF金利見通しの推移



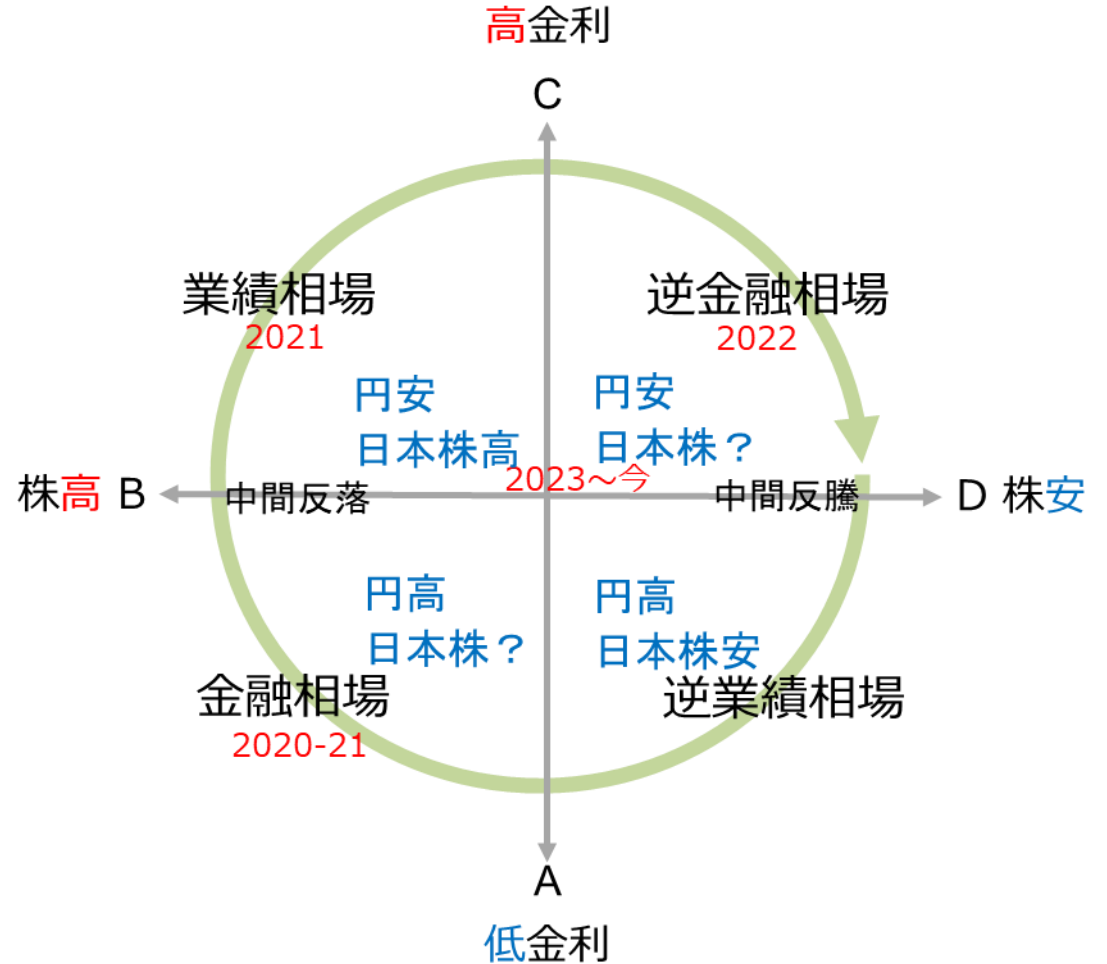
● 2024年の米利下げ：6月FOMC後の織り込みは2024年1回 ⇒直近は2回に増加

# 米金利 (3) 米利上げ終了後

金利サイクル天井圏でのドル円：2006～2008年



## 米金利・株式サイクルとドル円・日本株



- 米金融引き締め終盤：円キャリーの投機が先鋭化  
⇒ いざ利下げとなると、金利低下観測が強まることもしばしば



# マクロ (1) FRB見通し

## FOMCドットチャート (2024年3月時点)

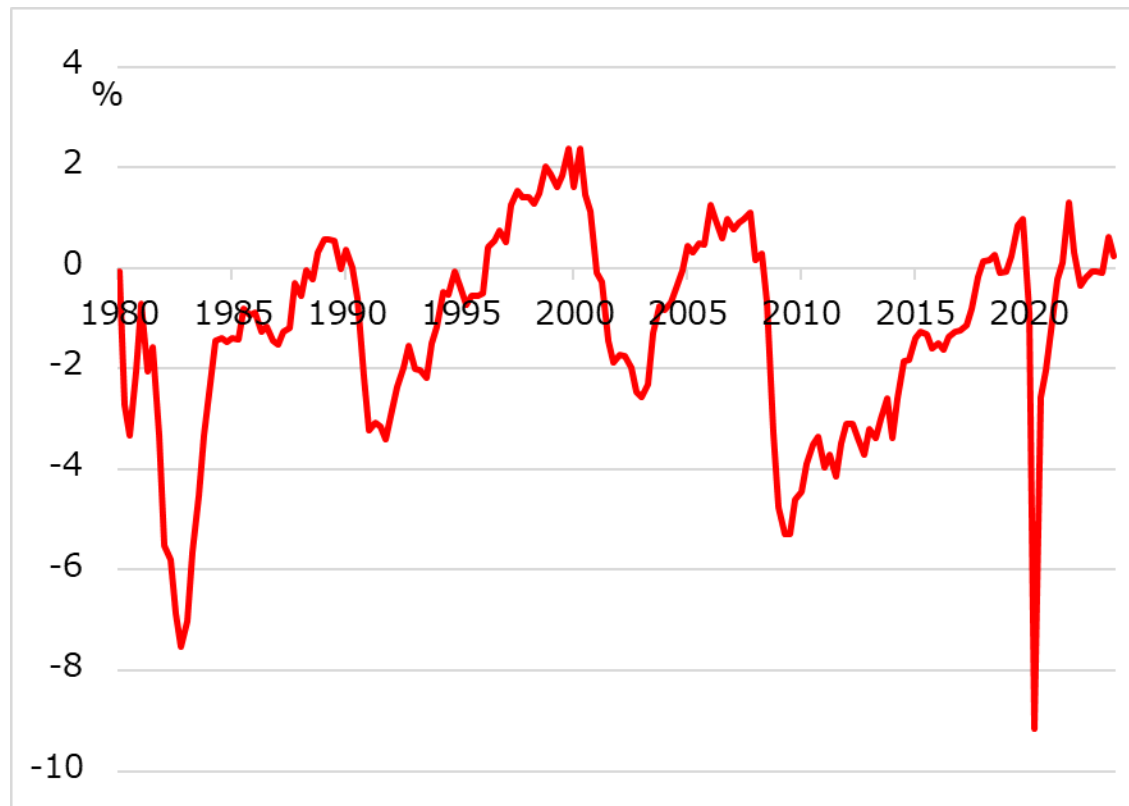
2024年6月12日時点 赤文字部分は修正

	2024年	2025年	2026年	長期
実質GDP成長率	+2.1%	+2.0%	+2.0%	<b>+1.8%</b>
失業率	4.0%	4.2%	4.1%	<b>4.2%</b>
PCEインフレ率	<b>+2.6%</b>	<b>+2.3%</b>	+2.0%	<b>+2.0%</b>
コア	<b>+2.8%</b>	<b>+2.2%</b>	+2.0%	
FF金利	<b>5.1%</b>	<b>4.1%</b>	3.1%	<b>2.8%</b>

2024年3月20日時点

	2024年	2025年	2026年	長期
実質GDP成長率	+2.1%	+2.0%	+2.0%	<b>+1.8%</b>
失業率	4.0%	4.1%	4.0%	<b>4.1%</b>
PCEインフレ率	<b>+2.4%</b>	<b>+2.2%</b>	+2.0%	<b>+2.0%</b>
コア	<b>+2.6%</b>	<b>+2.2%</b>	+2.0%	
FF金利	<b>4.6%</b>	<b>3.9%</b>	3.1%	<b>2.6%</b>

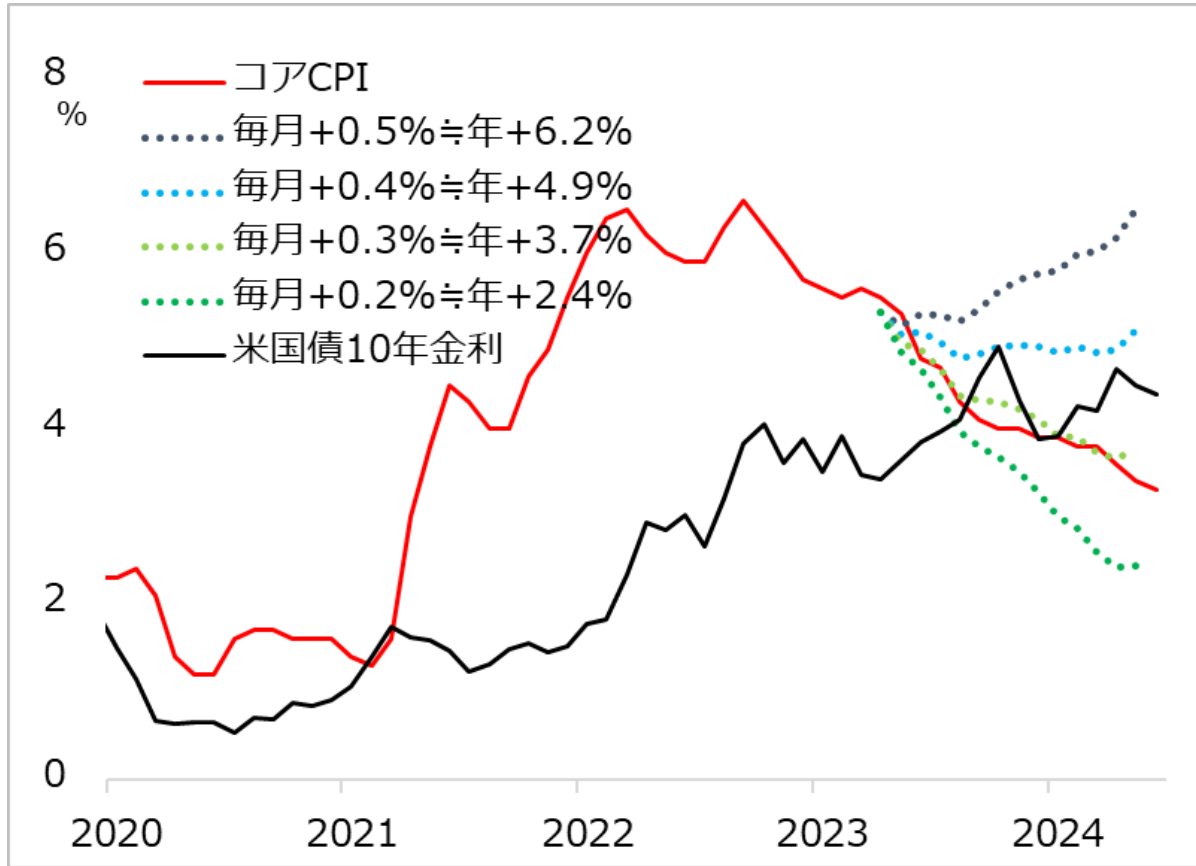
## 米GDPギャップ



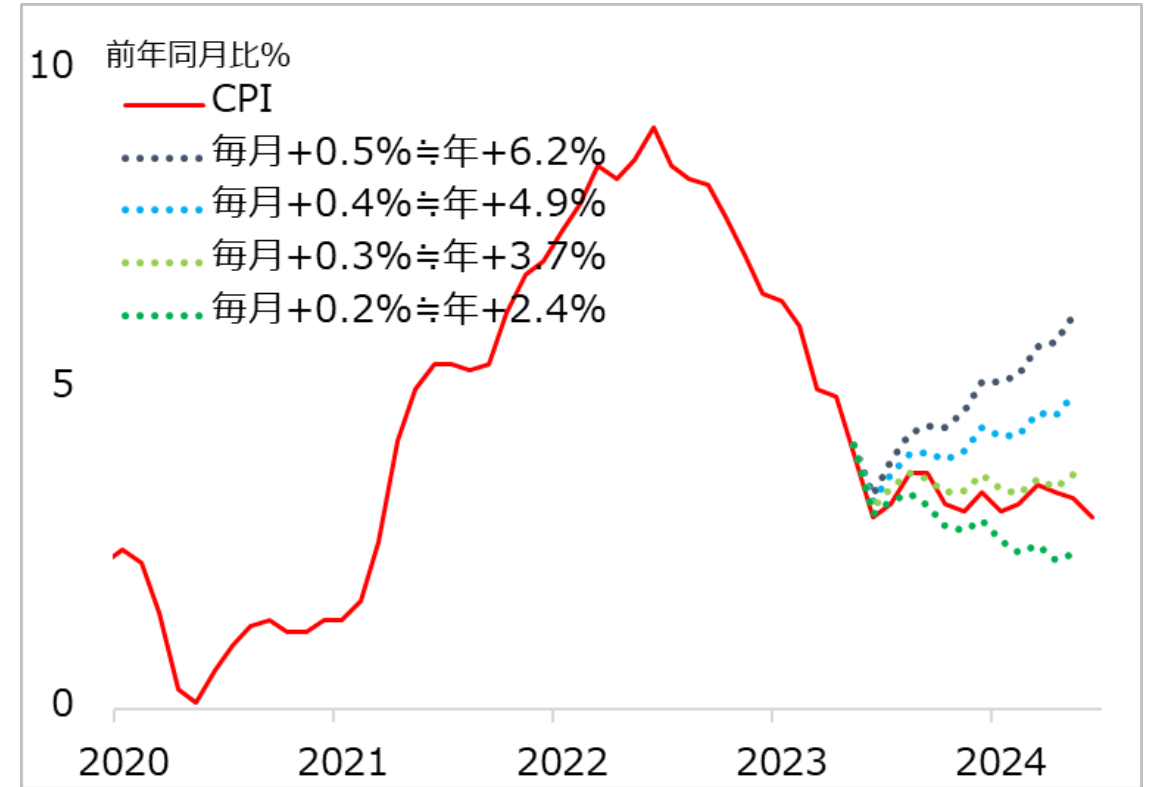
- **米景気堅調** ⇒ GDPギャップはプラス ⇒ 景気堅調なら、インフレ継続、利下げ先送りだが…
- ⇒ 連続して景気・物価指標が弱振れ ⇒ 足元で利下げ観測を再強化

# マクロ (2) 米インフレ

景気堅調でもコアCPI鈍化で金利にピーク感

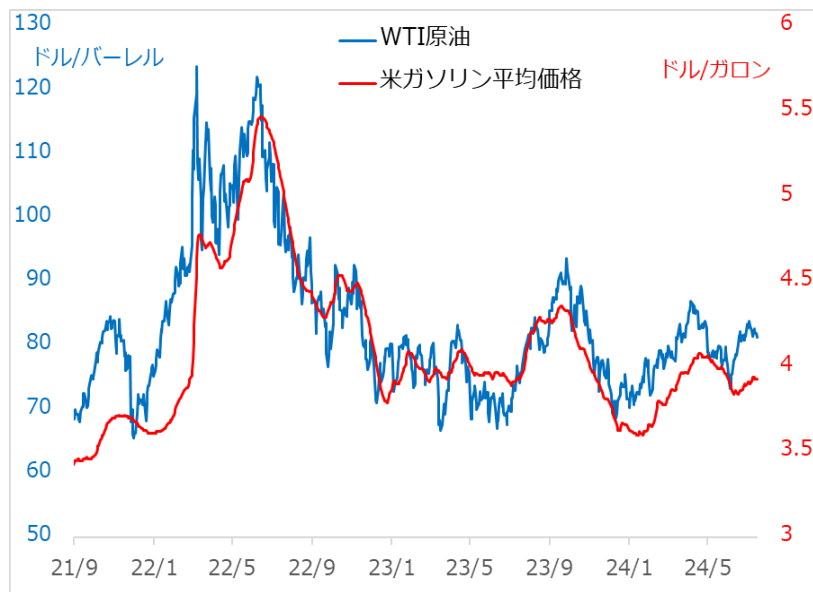
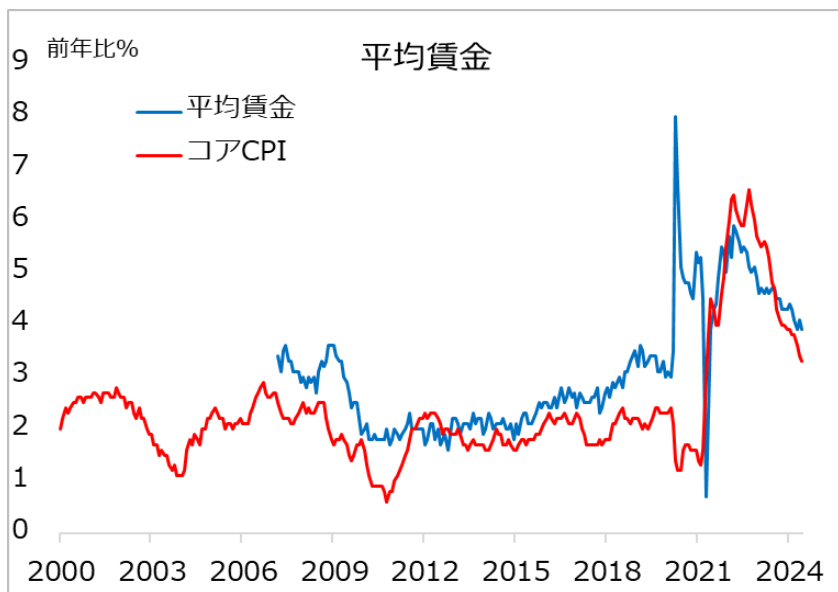
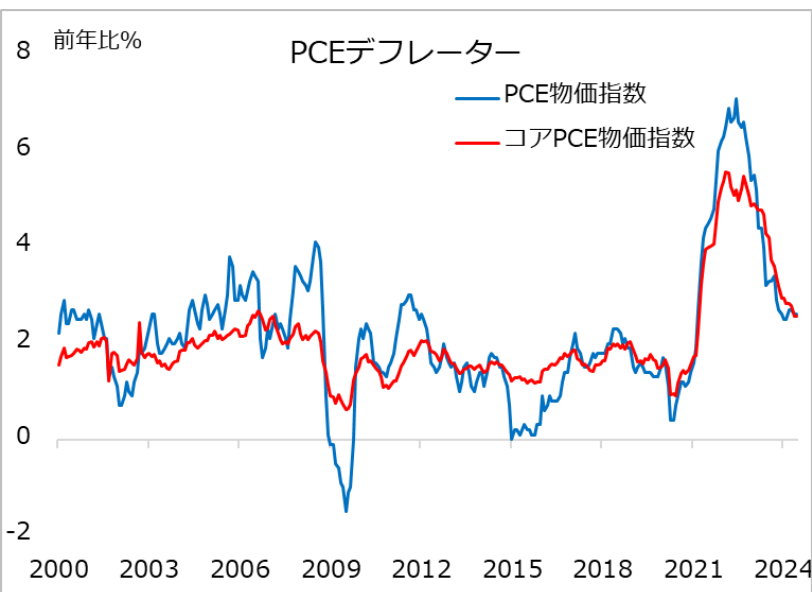
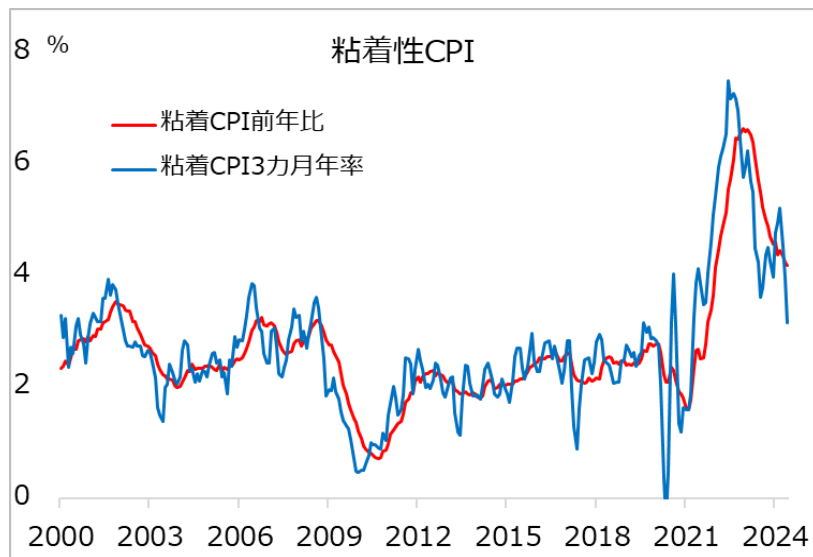
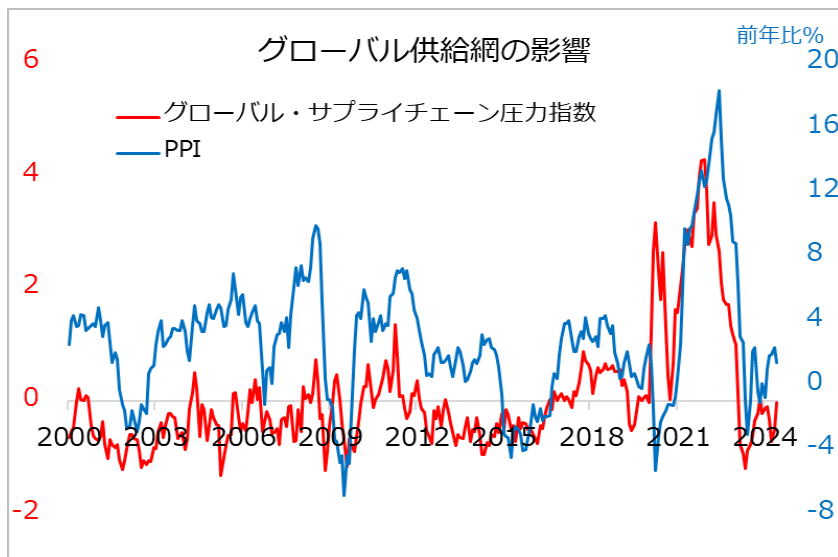
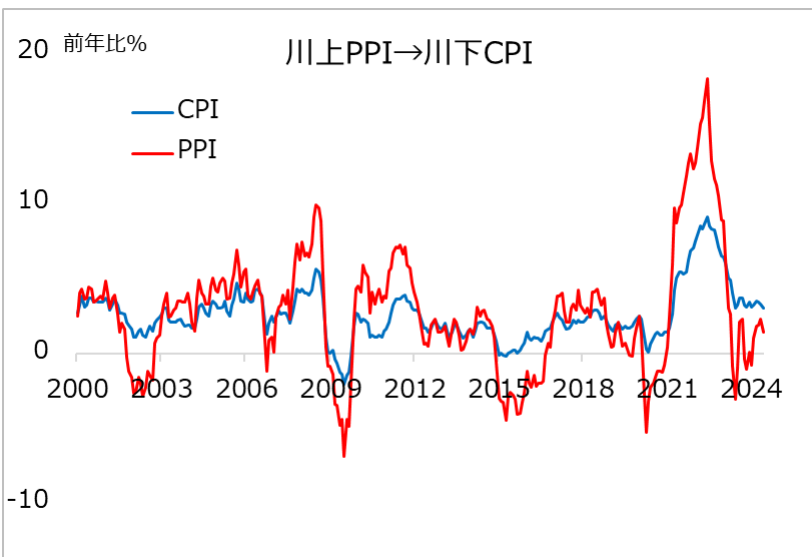


全体CPI鈍化も、2%目標に届かず下げ渋り

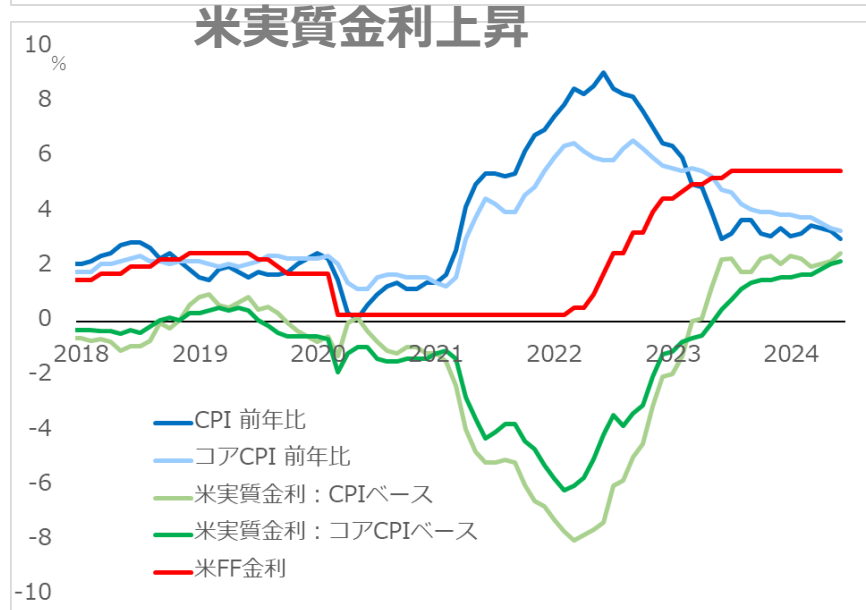
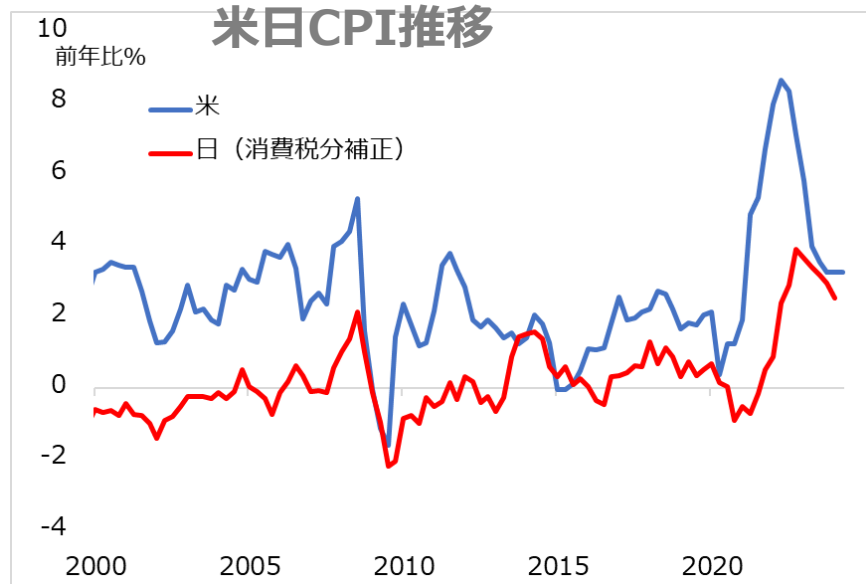


●5~7月、インフレ指標鈍化 ⇒再び利下げ観測 ⇒持続性チェック

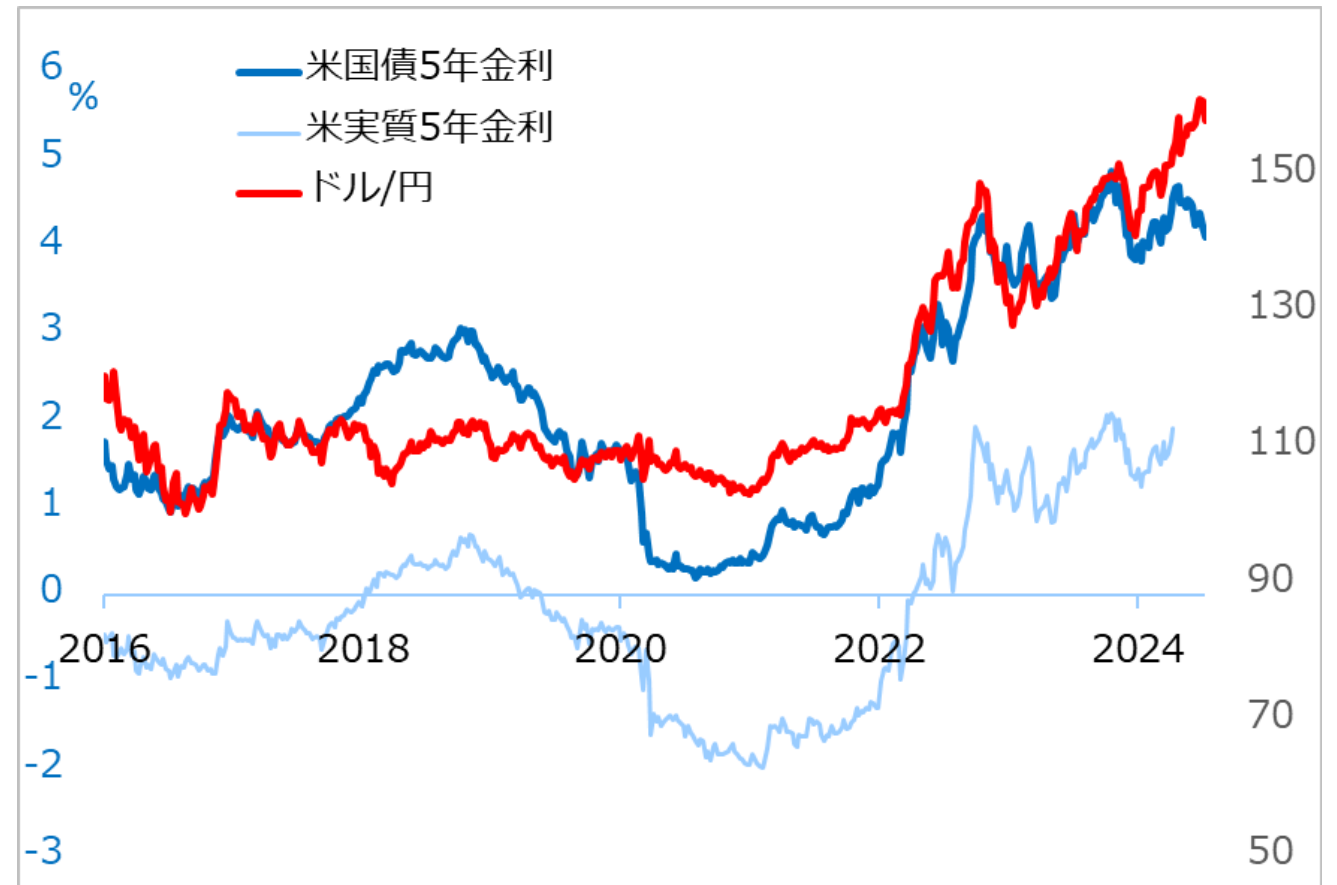
# マクロ (3) インフレの多角チェック



# マクロ (4) 実質金利



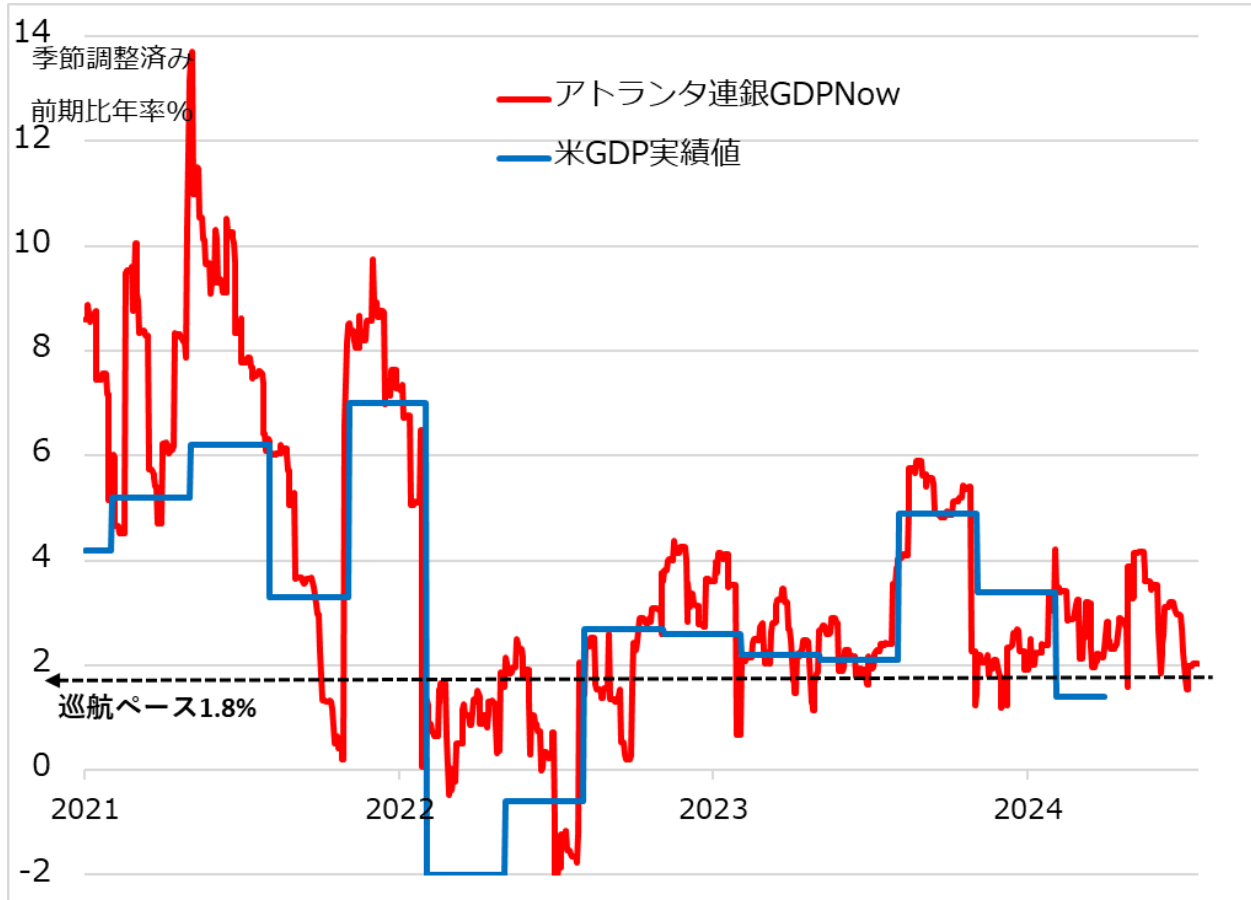
### 米日実質金利とドル円



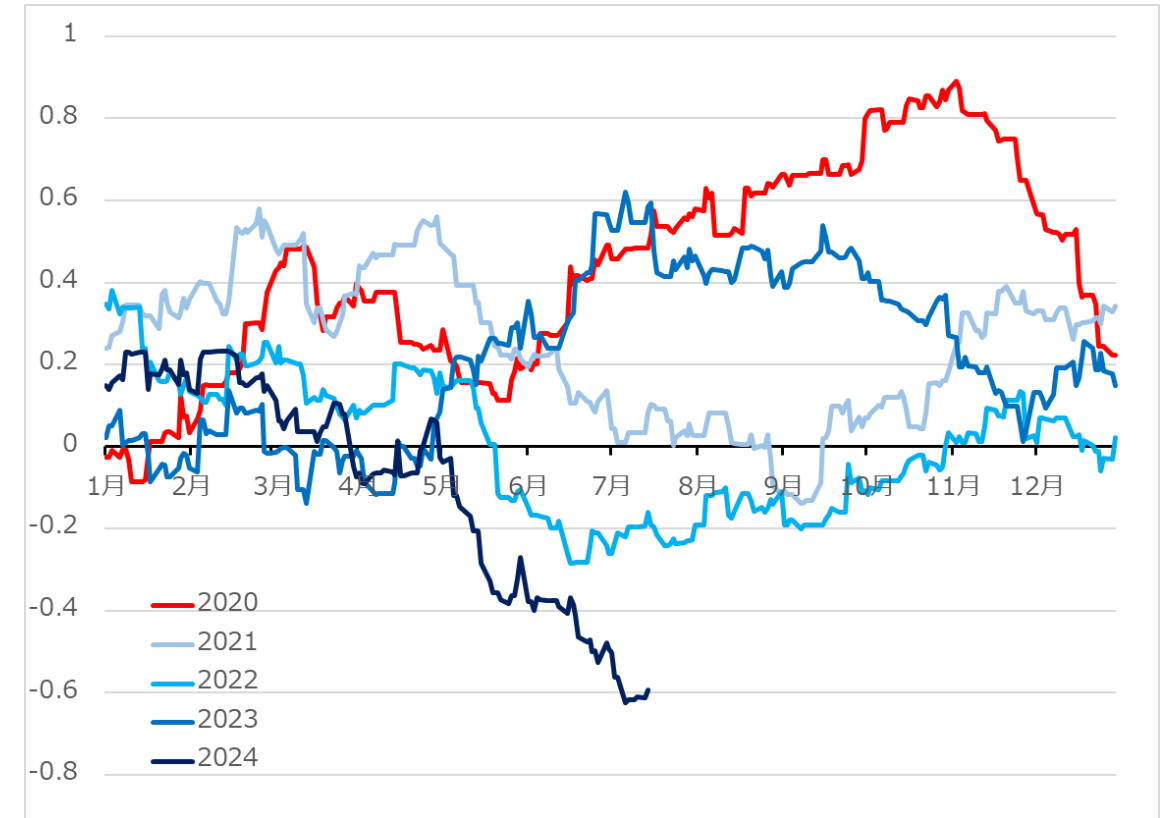
- 米国：インフレ鈍化 ⇒ 実質金利上昇
- 日本：インフレ高止まり ⇒ 実質金利 大幅マイナス

# マクロ (5) 米GDP

米GDPは第1四半期+1.6%とNowより弱振れ



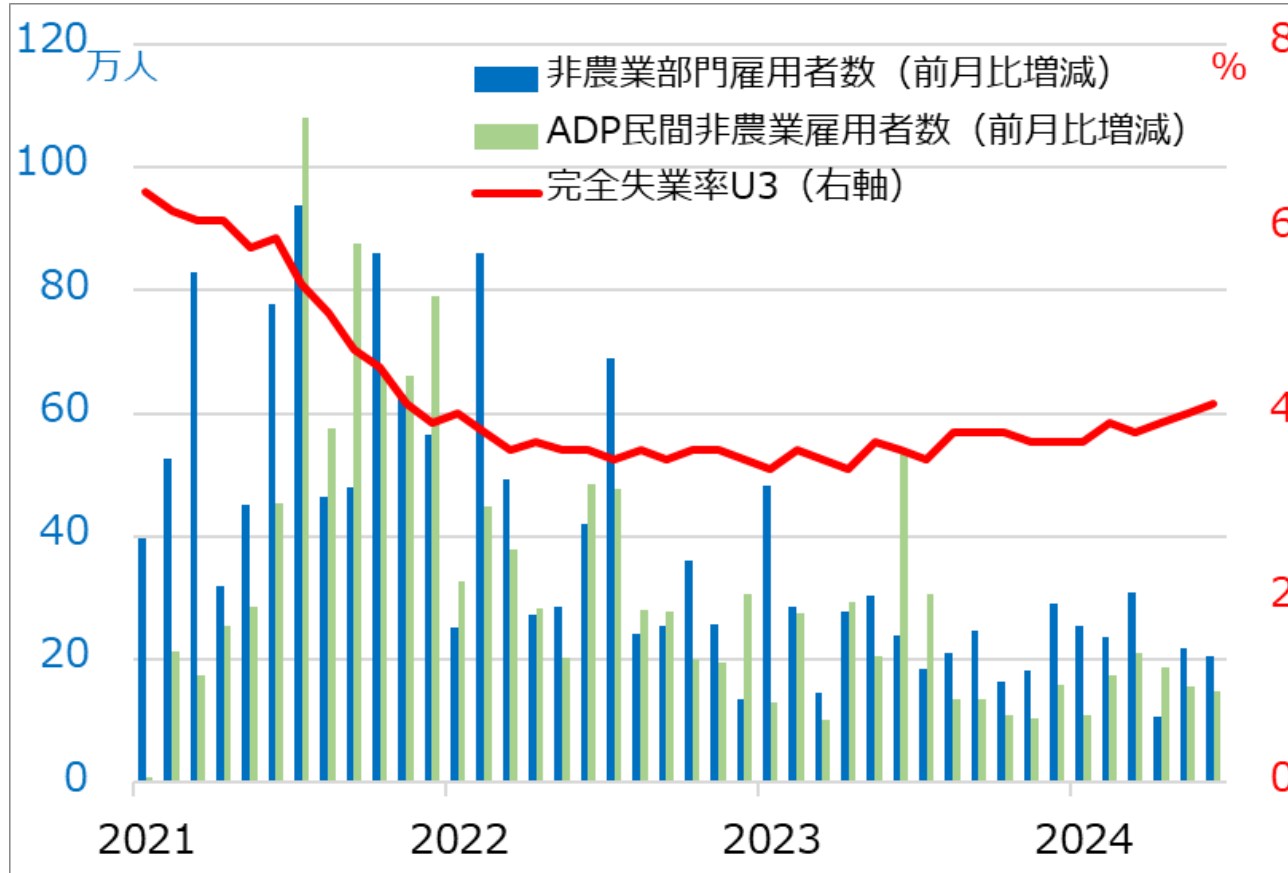
## 米経済サプライズ指数



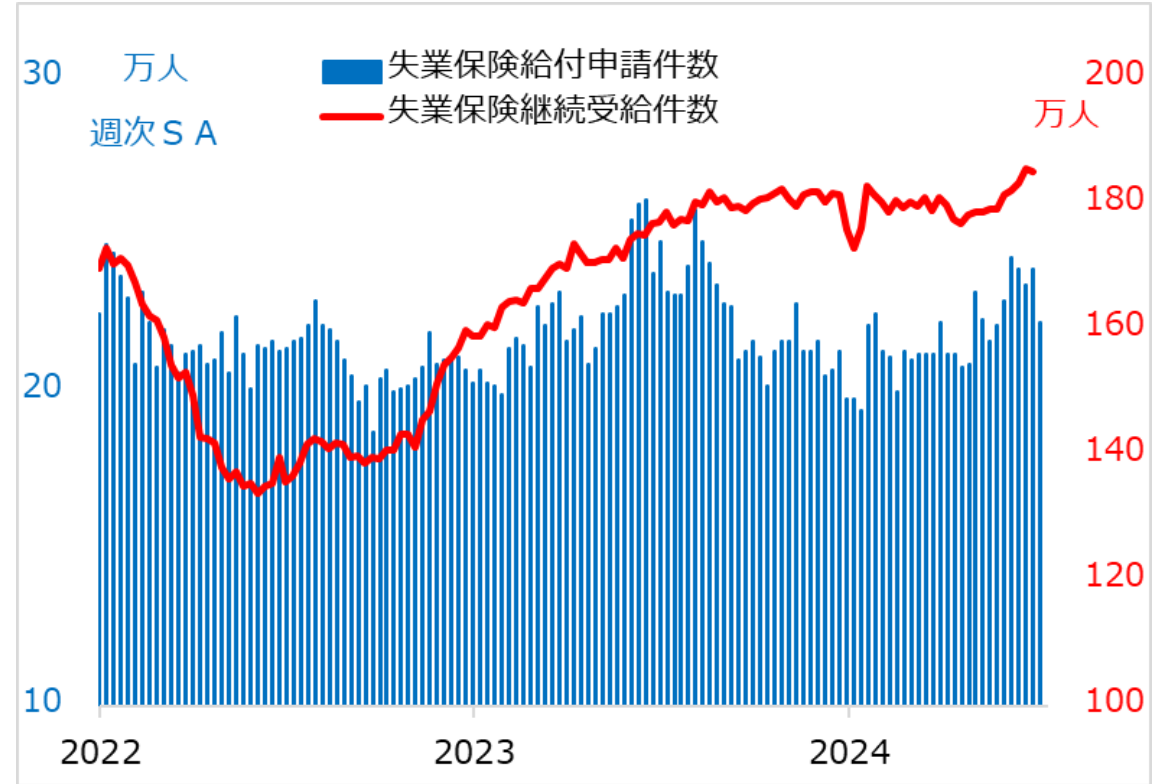
● 5月以降、米景気に陰り ⇒ 3度目の正直か、「データ次第」で持続性をチェック

# マクロ (6) 米雇用

## 雇用者数の月次変化と失業率



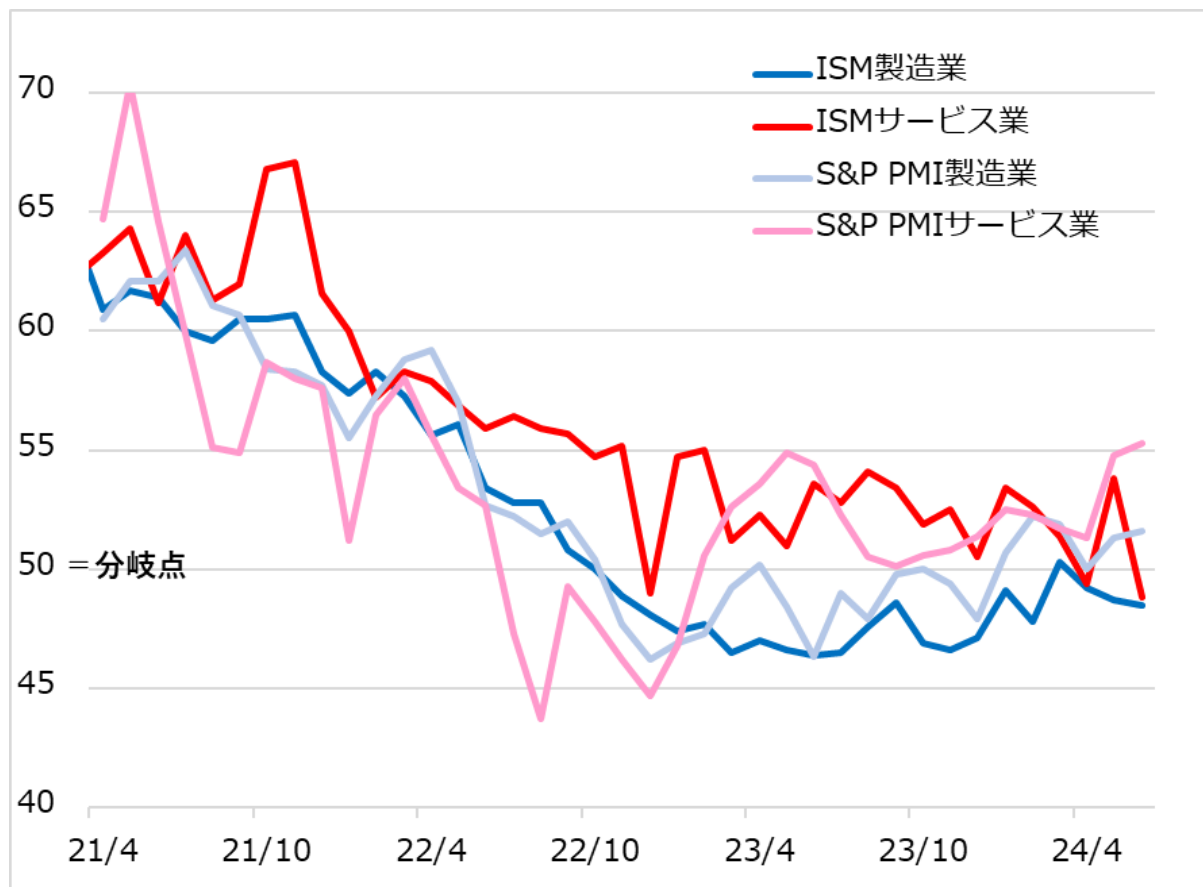
## 失業保険申請・給付件数



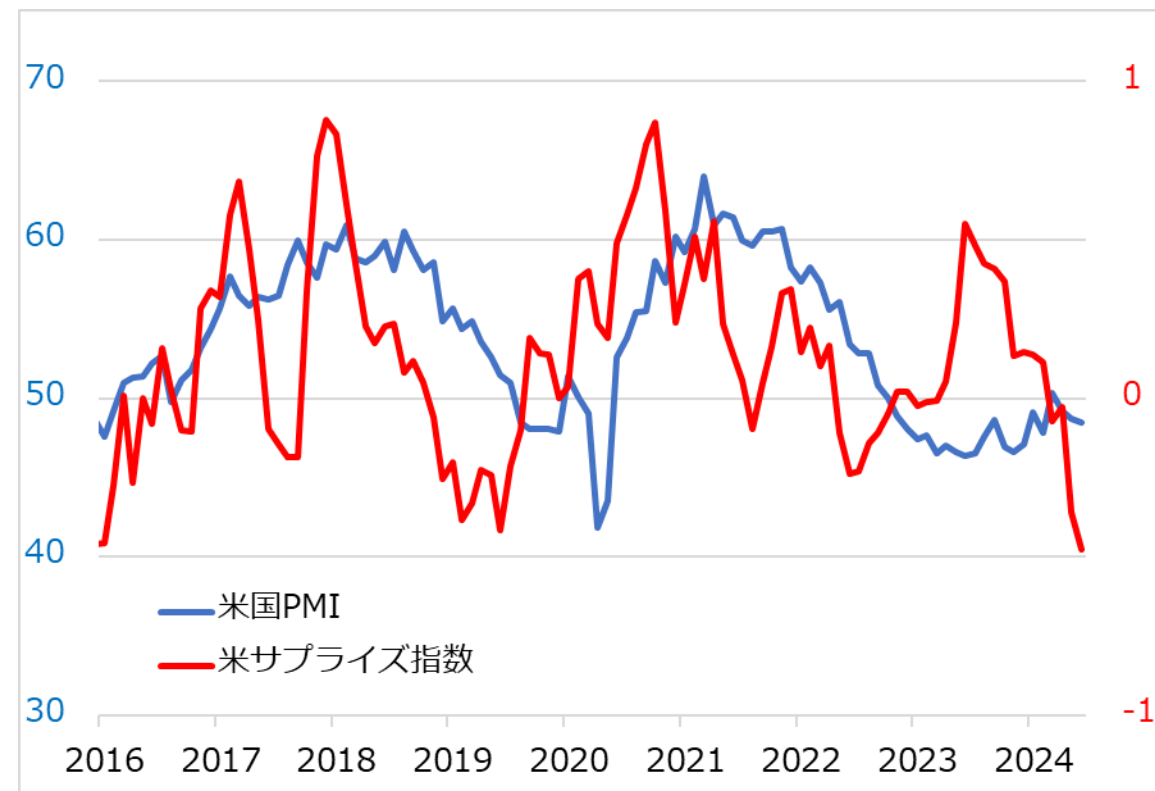
●雇用は依然底堅くも、完全雇用のボーダー線上で鈍化 ⇒賃金も鈍化

# マクロ (7) 企業景況

## 企業景況感



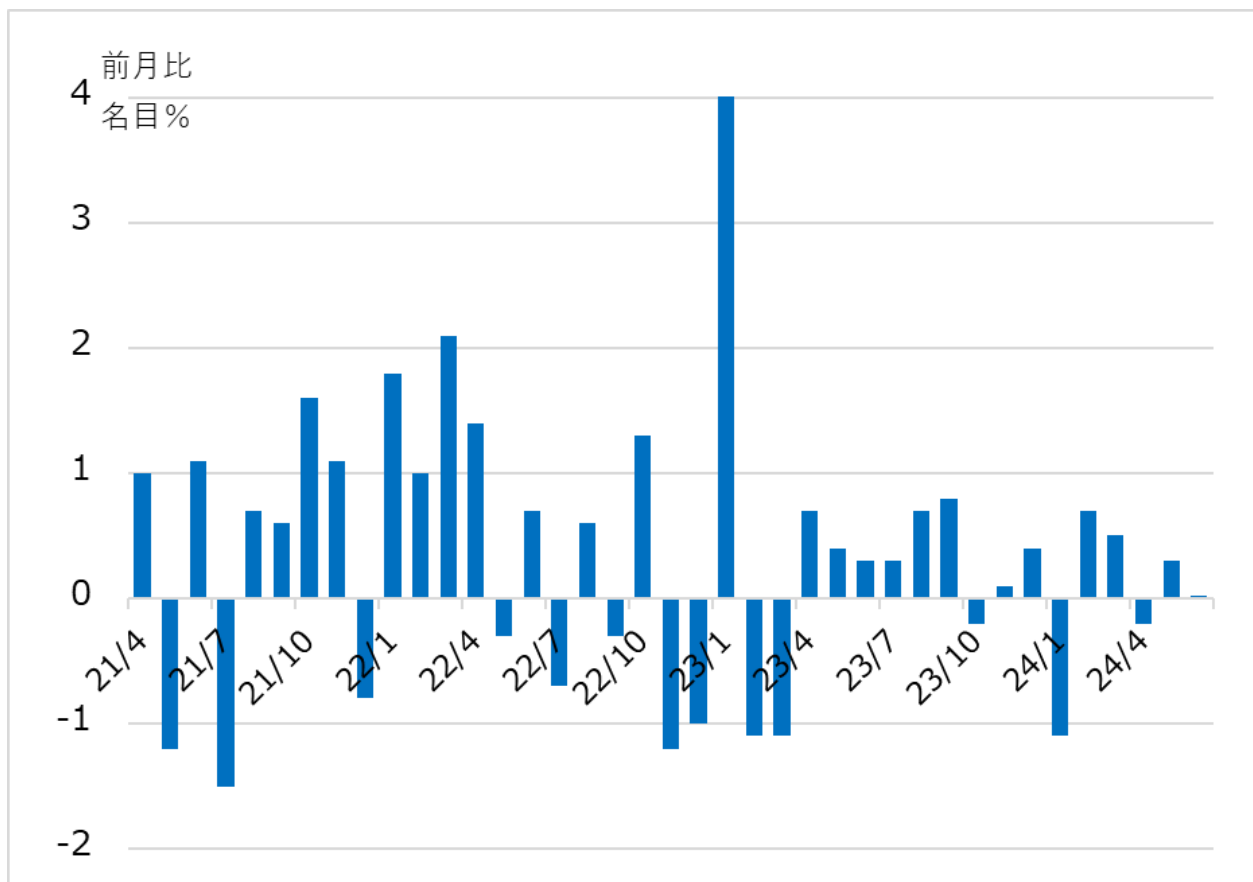
## PMIとサプライズ



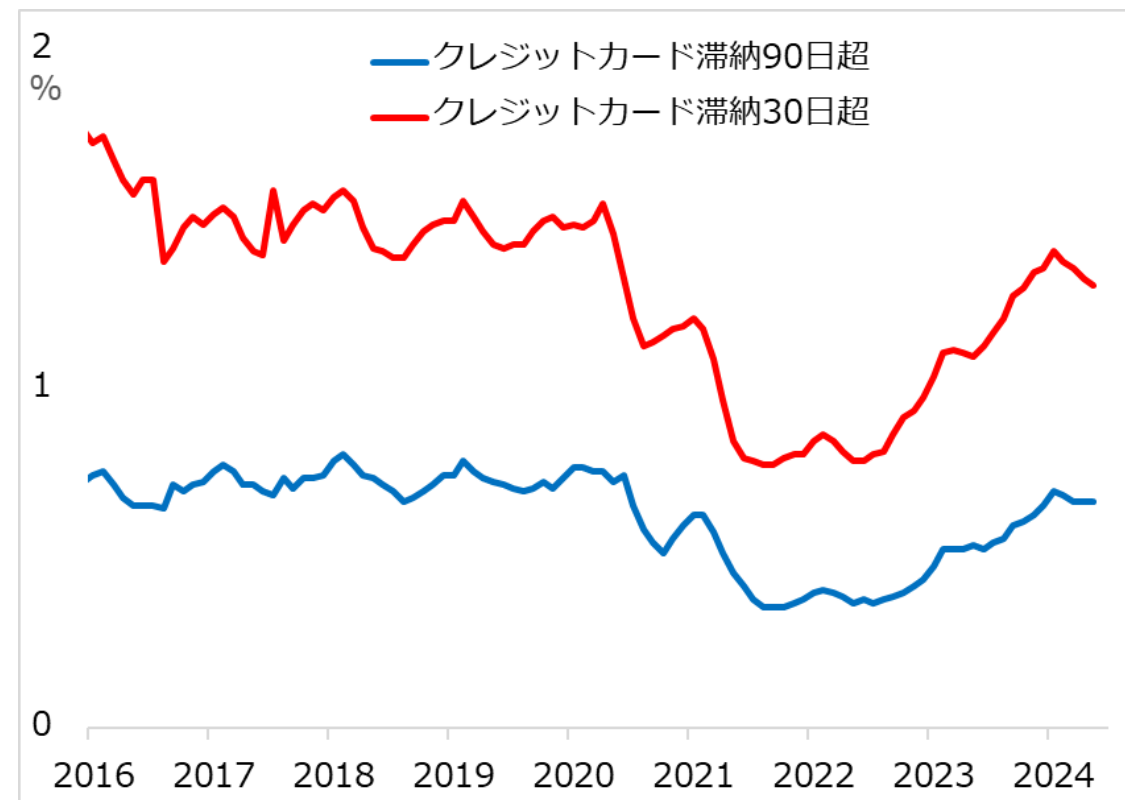
● ISM製造業・サービス業も鈍化の兆し ⇒持続性チェック

# マクロ (8) 個人消費

小売売上：給付金使い切り、学生ローン返済の影響は？



## クレジットカード延滞率じわり上昇



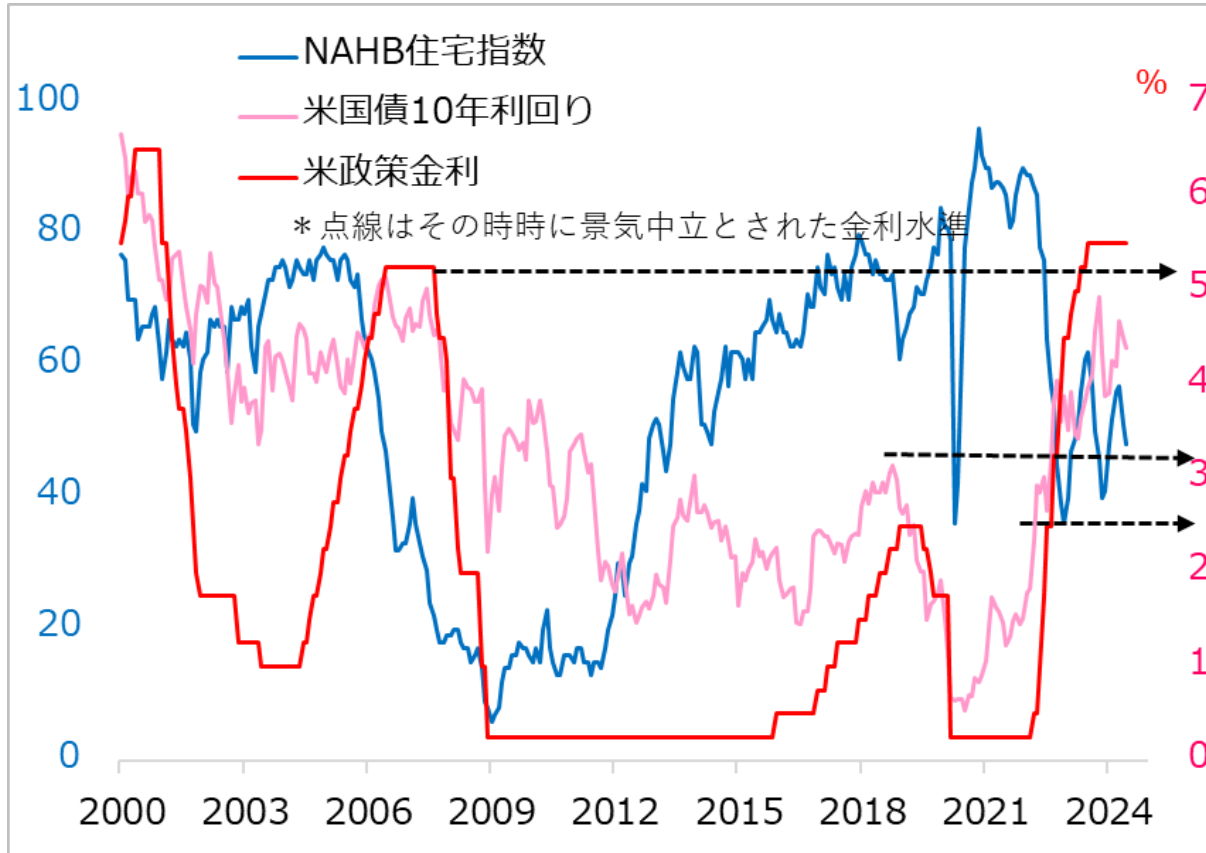
● GDPの7割強を占める個人消費から陰り

⇒小売売上の前月比は、過去1年平均 0.19%、2023年10月以降 0.05%

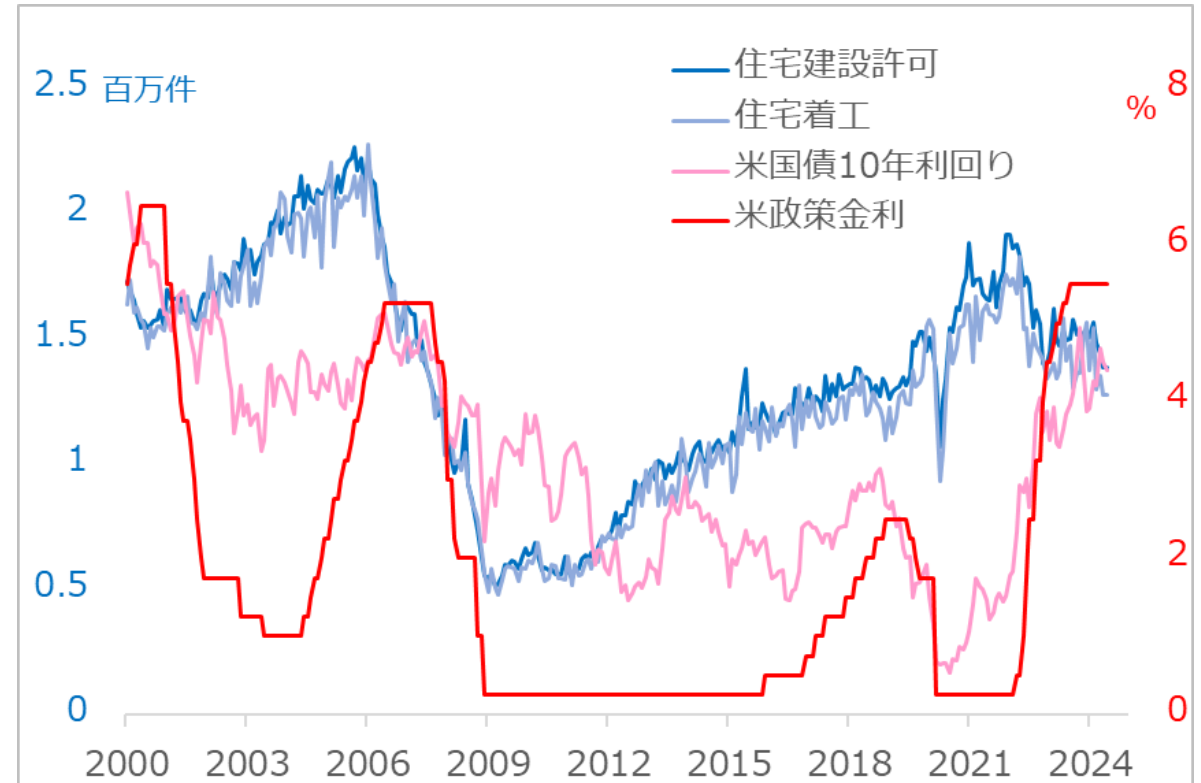


# マクロ (9) 住宅

## 住宅市況は鈍化するも底堅い



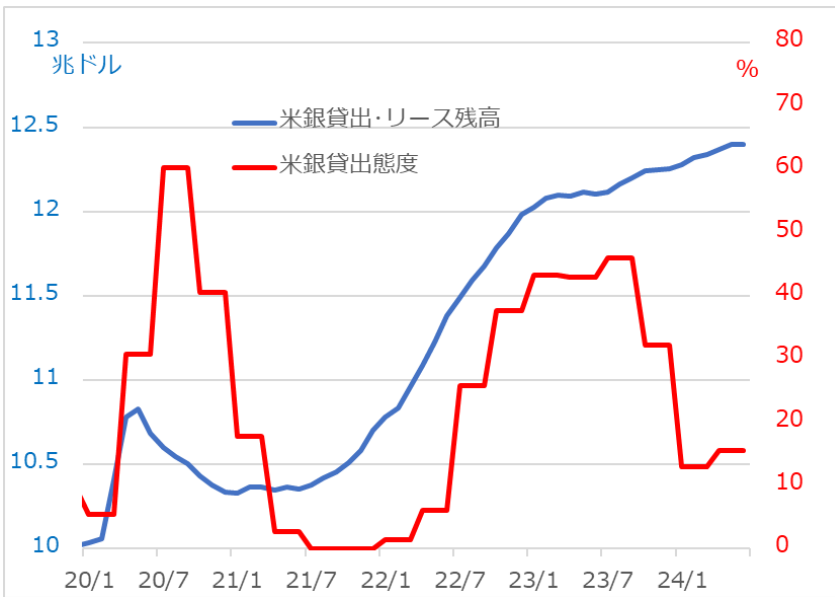
## 米住宅建設は2022年減少後は底堅い



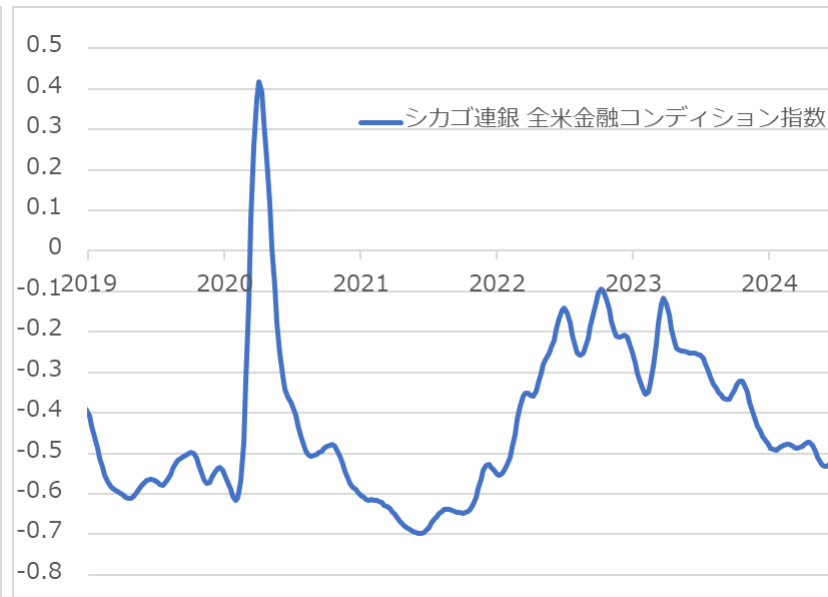
- 住宅は本来金利敏感 ⇒ コロナ禍下で超低金利固定借入 ⇒ 利上げの家計ダメージ限定 ⇒ しかし増進する局面ではない

# マクロ (10) 金融引き締め指標

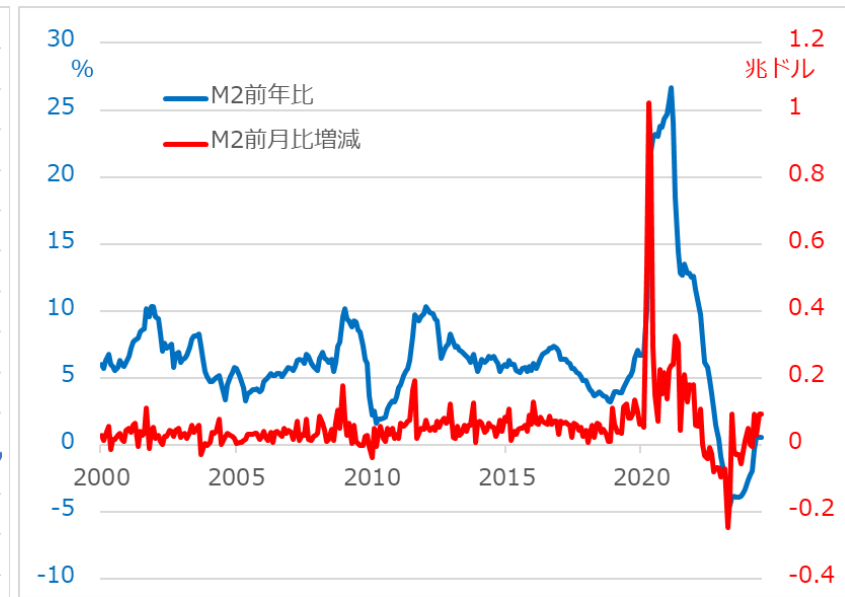
## 米銀貸出の引き締め一旦緩和



## 米金融条件も緩和 (シカゴ連銀)



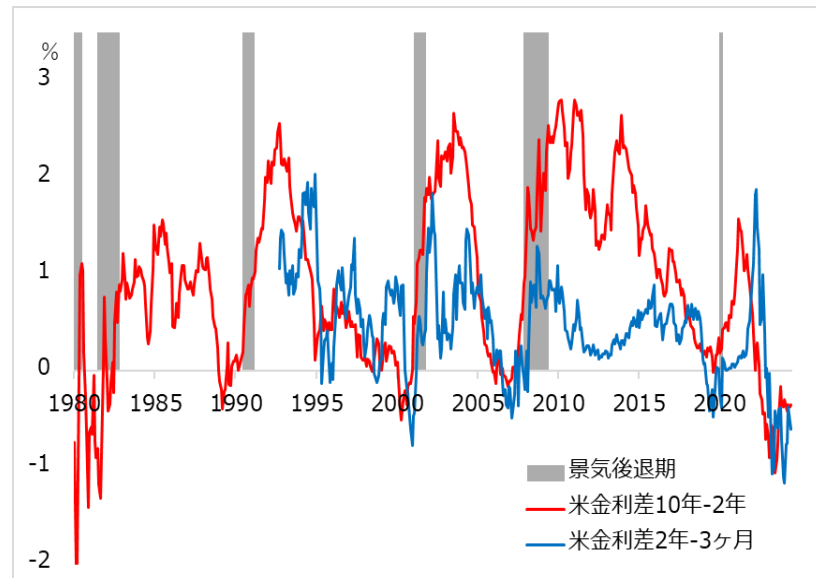
## M2低下も一服



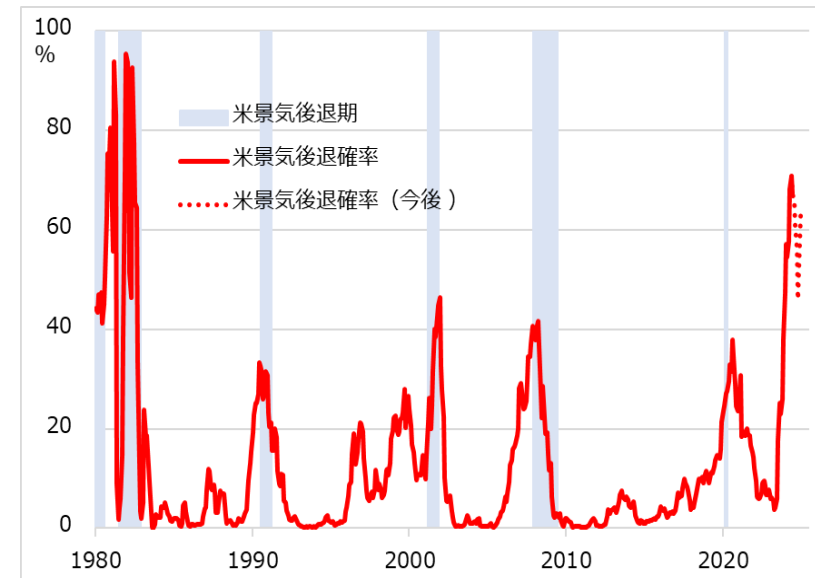
● 金融引き締め指標は一頃より後退 ⇒ 深刻な景気後退には至らない？

# マクロ (11) 金融不安

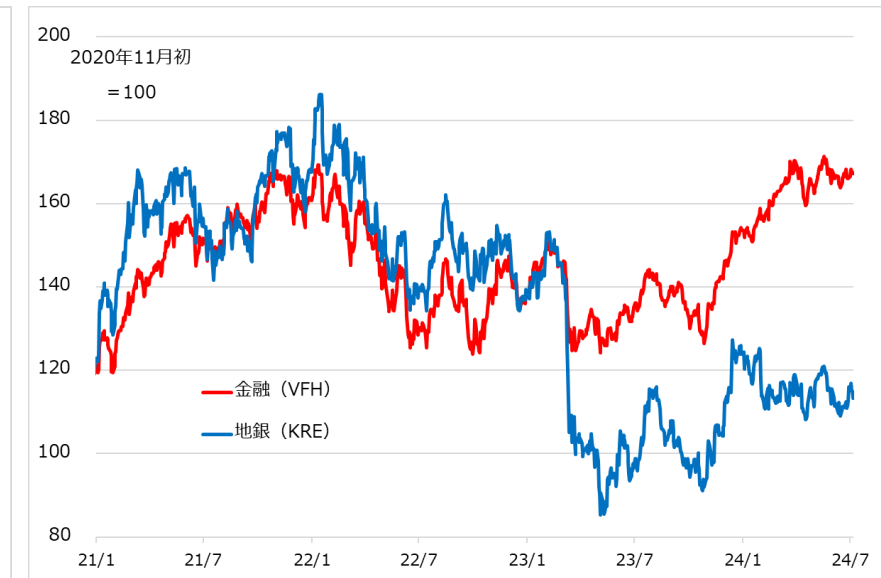
## 逆イールドの景気後退示唆



## 景気後退確率 (NY連銀算出)



## 地銀、商業用不動産への警戒



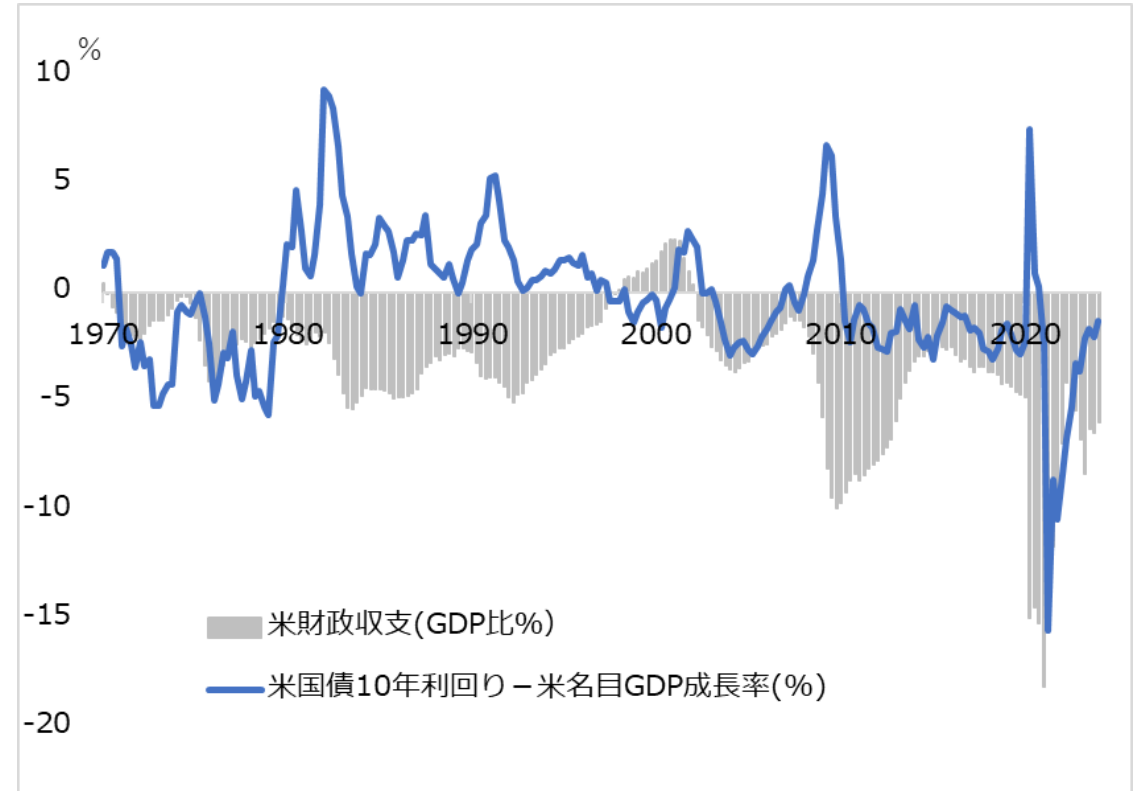
- 逆イールドの景気後退シグナルは引き続き点滅
- 地銀と商業用不動産、個人信用、企業のローン・社債借り換えを2024～25年は警戒継続

# マクロ (12) 財政赤字

米財政赤字拡大への懸念のはずが…

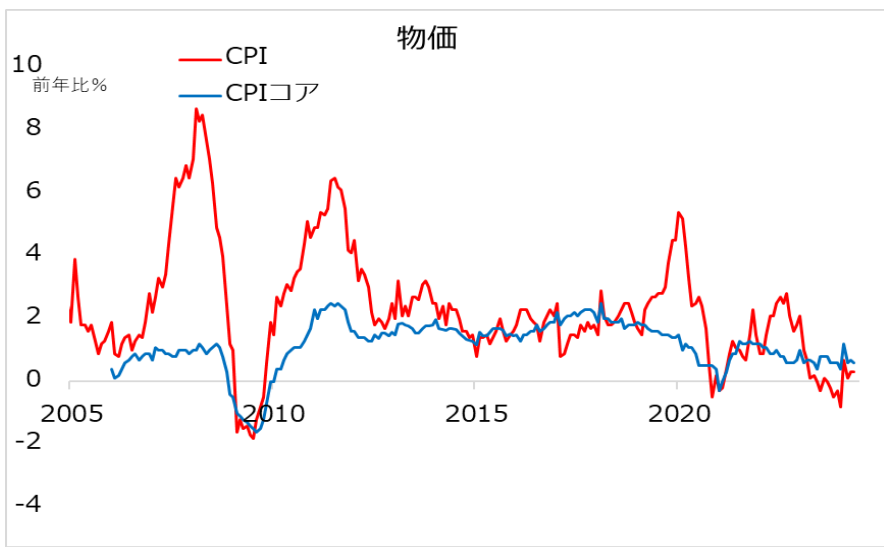
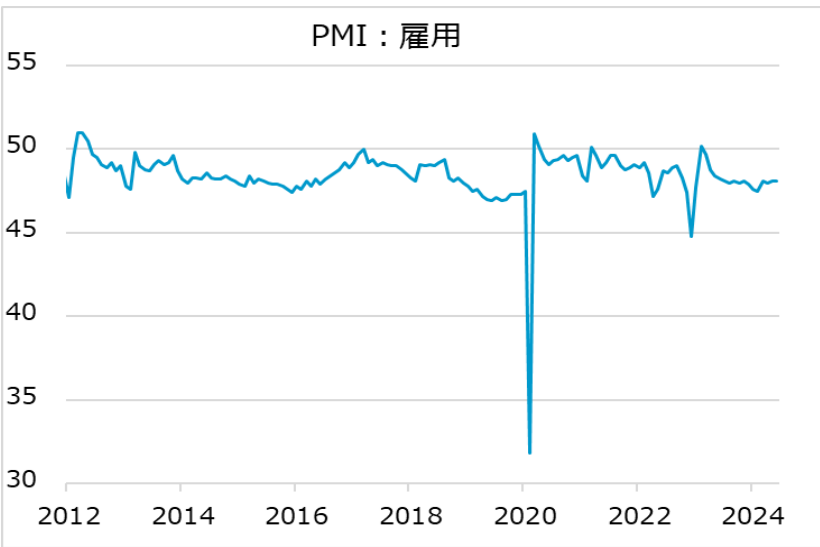
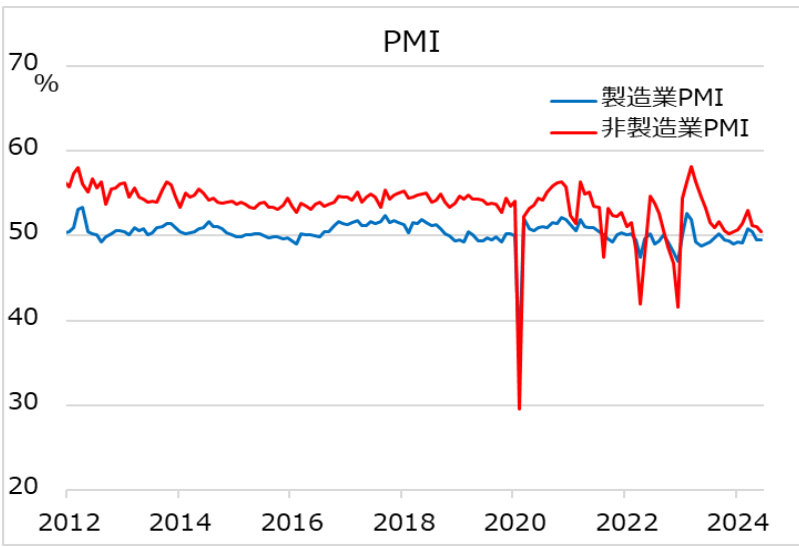
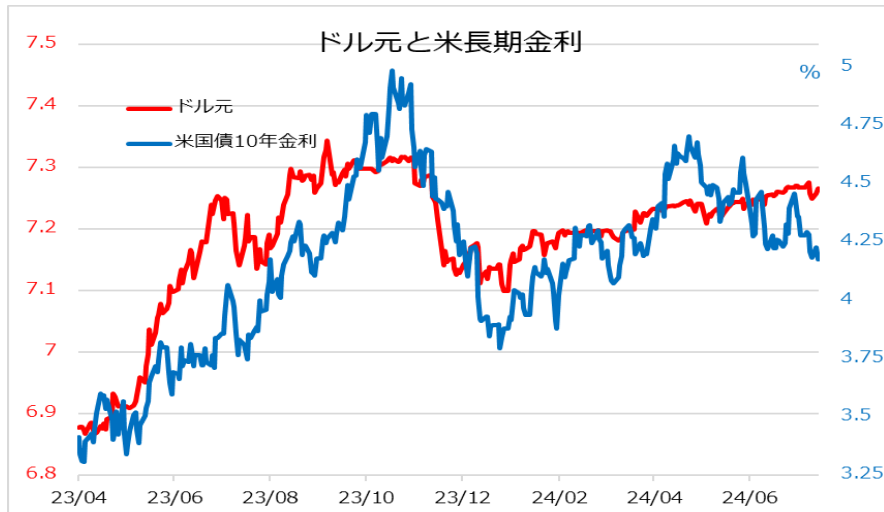
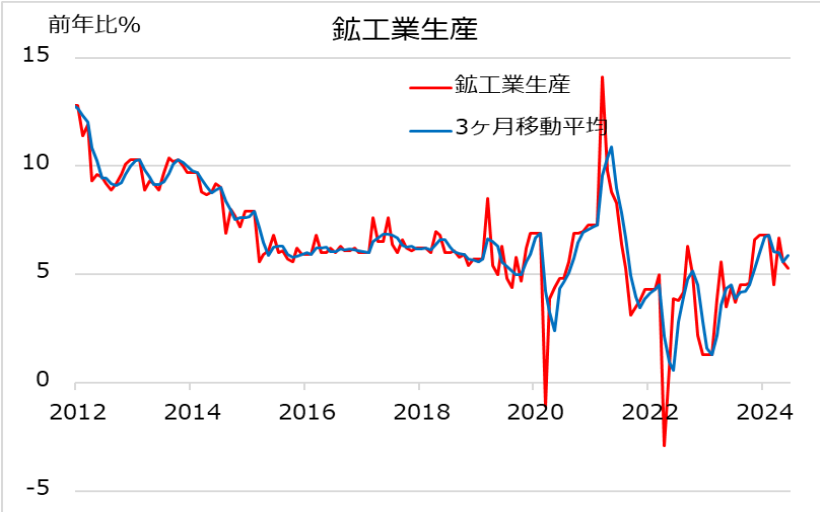
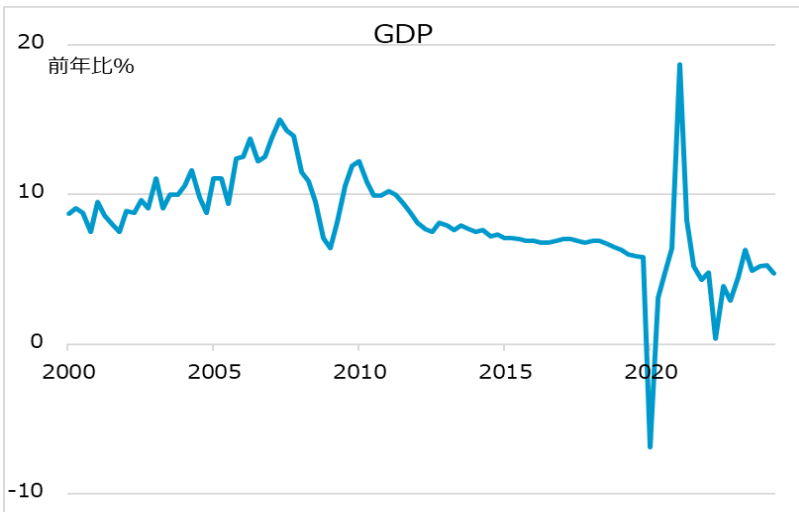


米経済は財政赤字を賄えるか



- コロナ禍対応の大盤振る舞いで財政赤字拡大  
⇒ 景気堅調とインフレ名目経済成長が高く、税収が遅行的に高水準

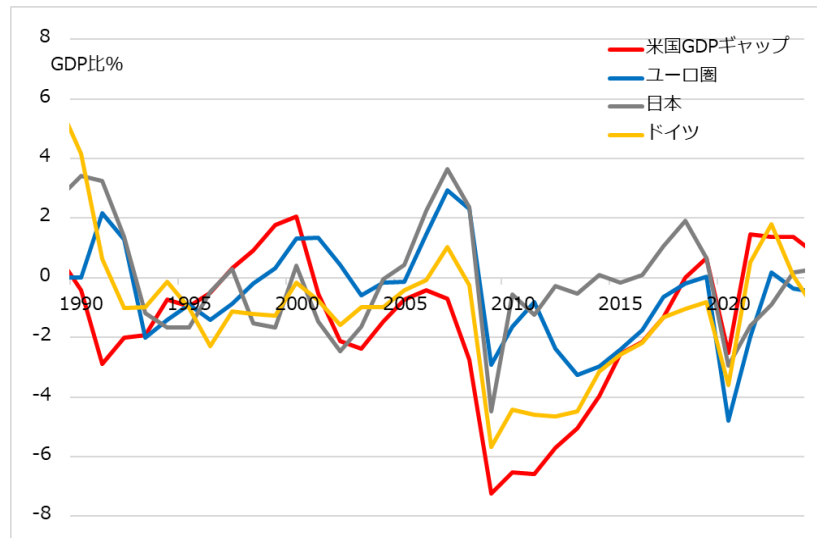
# マクロ (13) 中国



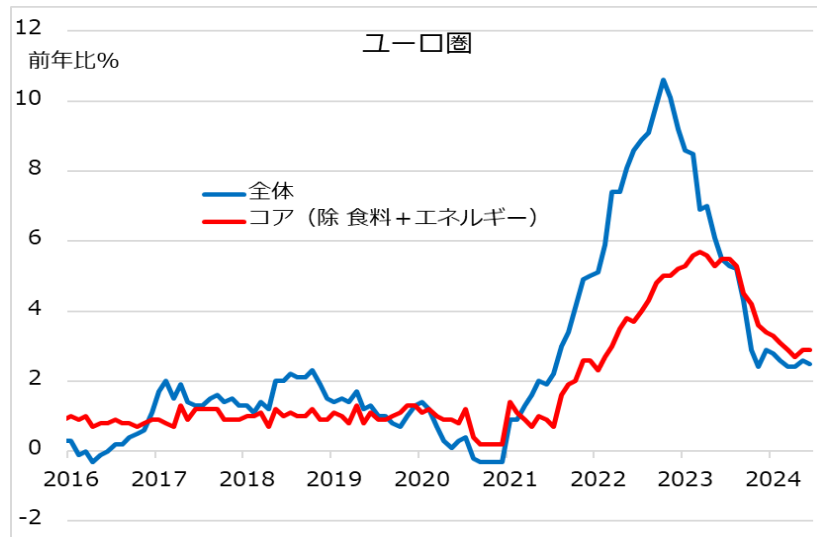
● 経済指標の信ぴょう性に疑問符 ⇒ 不良債権問題を抱えていても、短命の循環的回復はあり

# マクロ (14) 欧州

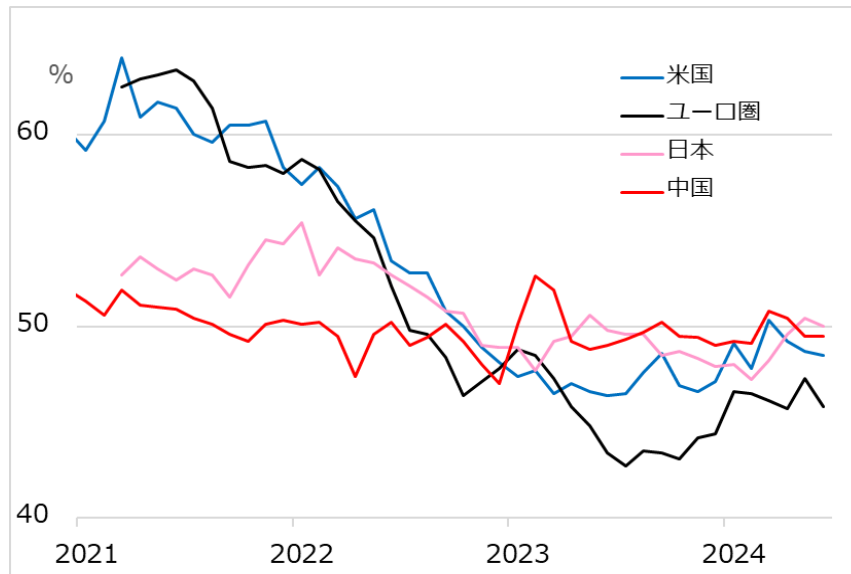
## 米欧日 GDPギャップ (IMF算出)



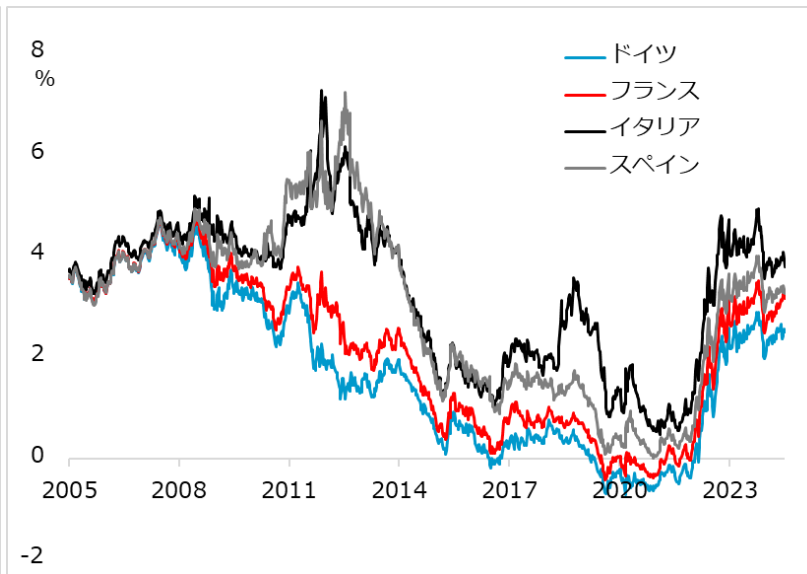
## ユーロ圏CPI



## 米欧日中 製造業景況感



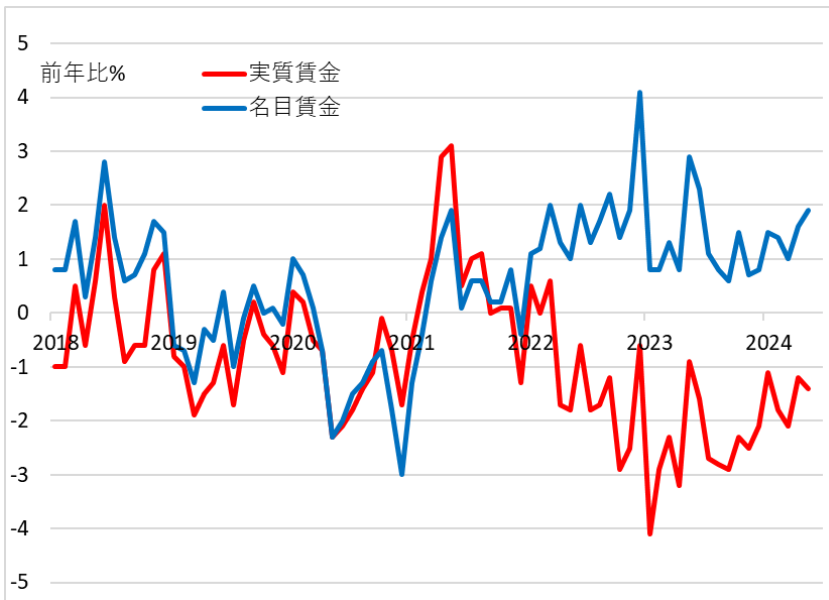
## ユーロ圏主要国長期金利



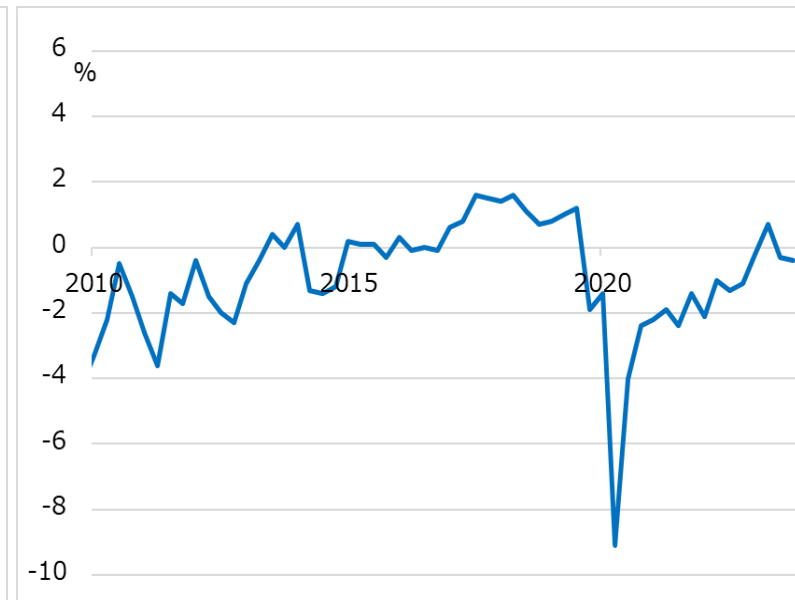
- 欧州では、インフレ鈍化で、景気配慮の利下げ志向  
⇒フランス政局から経済へのショックはいったん回避

# マクロ (15) 日本

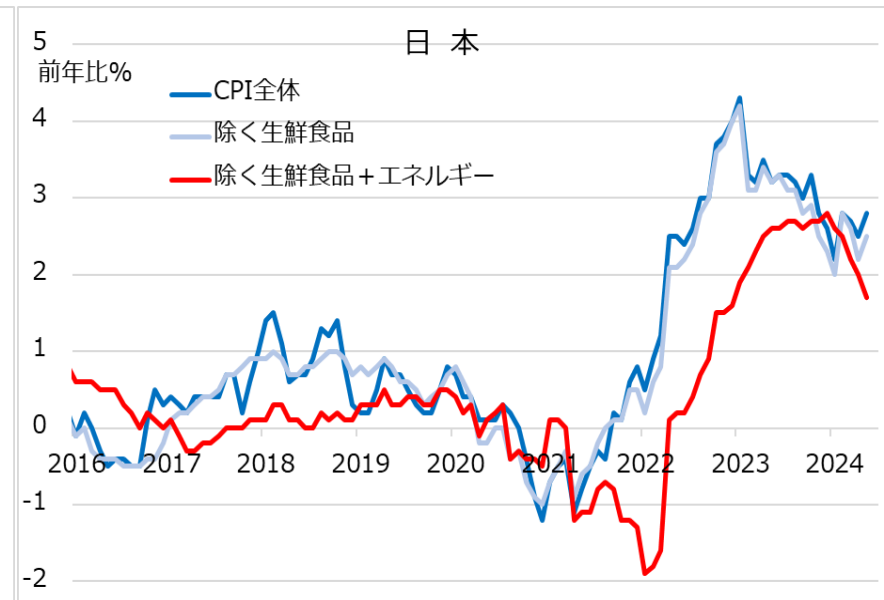
## 実質賃金



## GDPギャップ



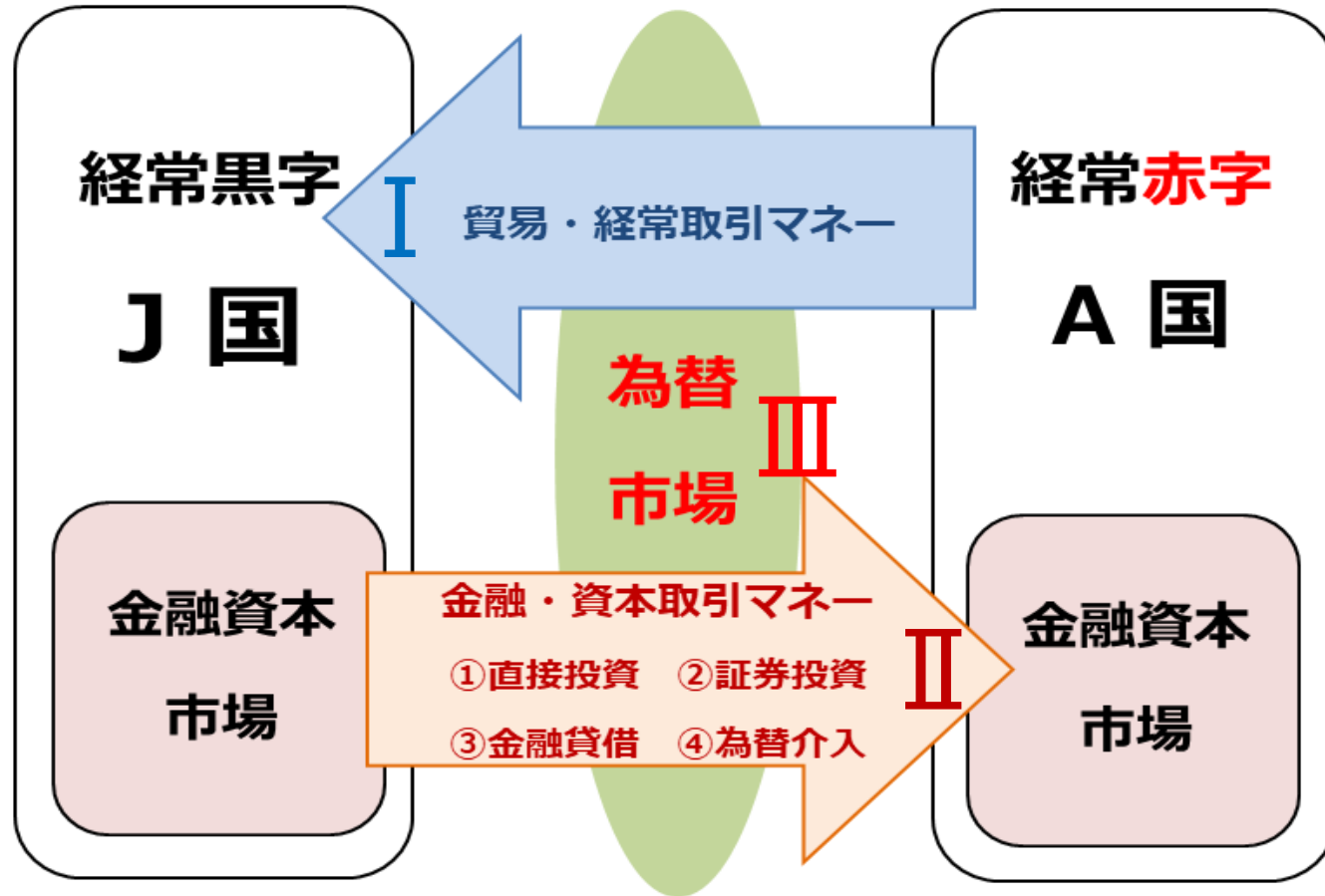
## CPI



- 日銀は「普通の金融政策」化を急ぐ
  - ⇒7月に国債購入削減額決定。利上げも排除せず
  - ⇒ただし経済は十分強いとは言えない段階

# 為替需給 (1)

## 国際収支と為替フロー



### I 貿易・經常取引マネー

超長期：購買力平価  
中長期：貿易・經常収支

### II 金融・資本取引マネー

長期：直接投資  
中期：証券投資  
短期：一部金融貸借、介入

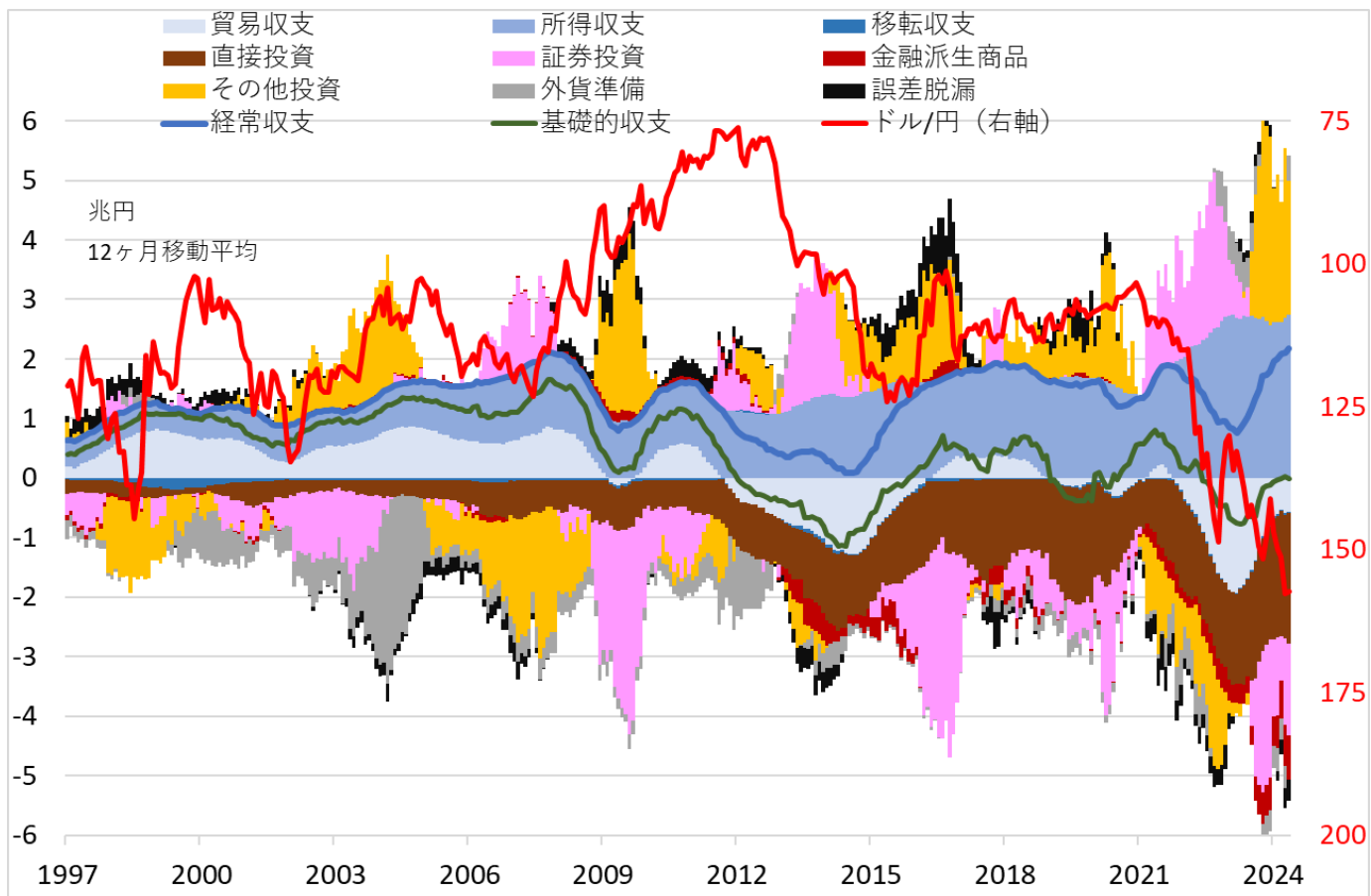
### III 為替市場内取引

投機のポジション、思惑、テーマ、チャート

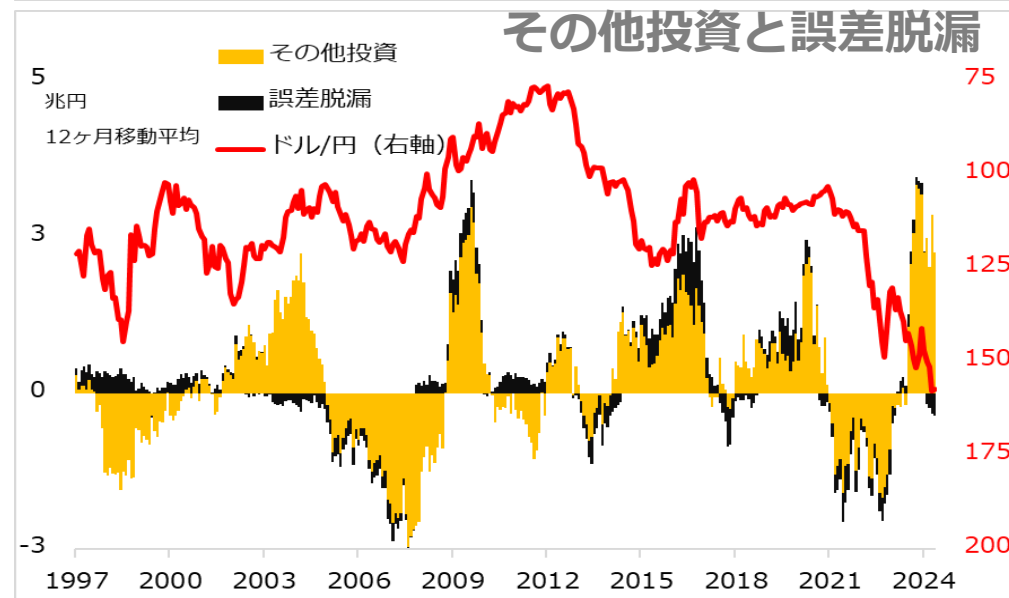
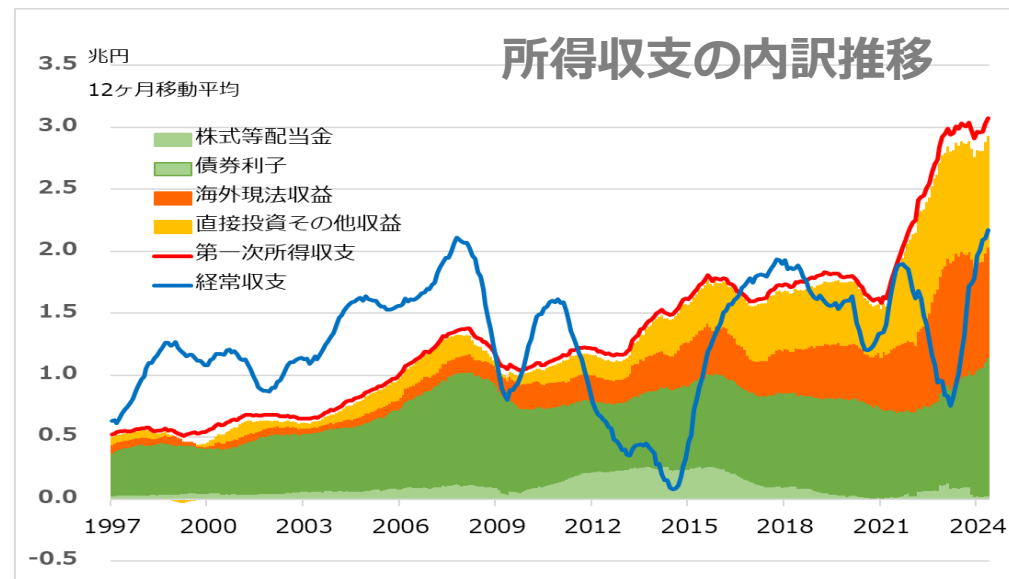


# 為替需給 (2) 国際収支

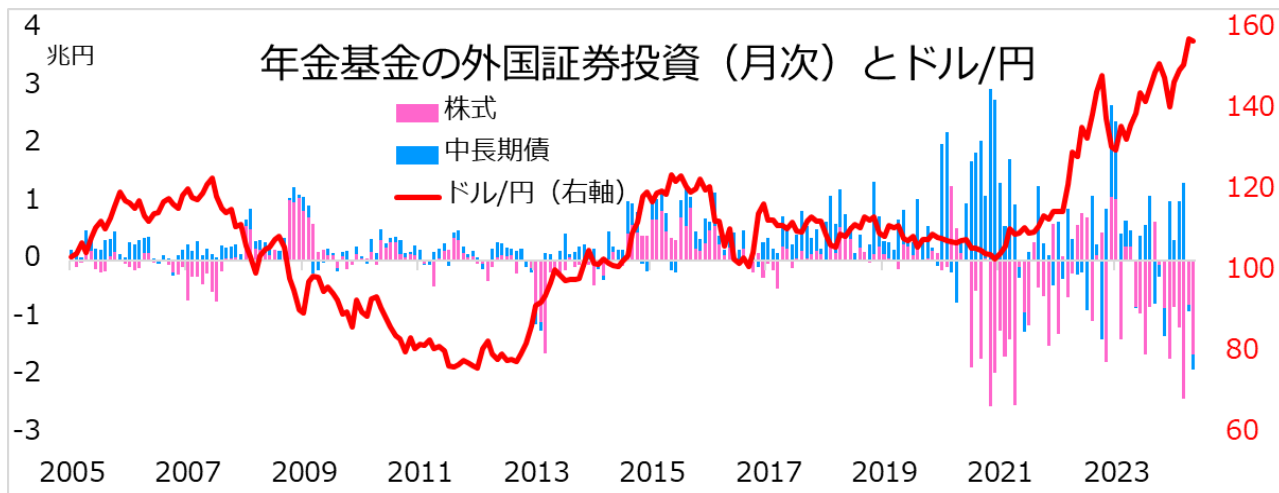
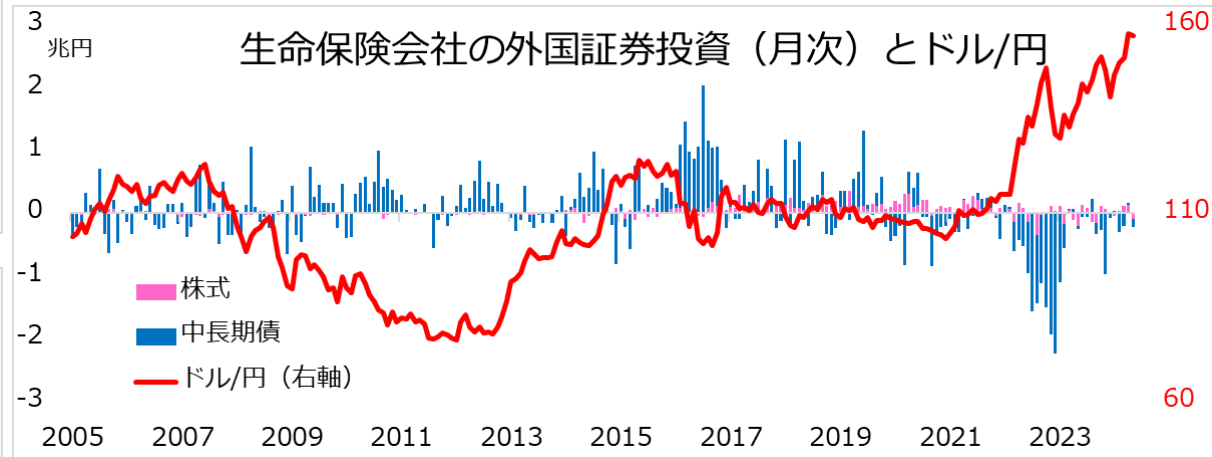
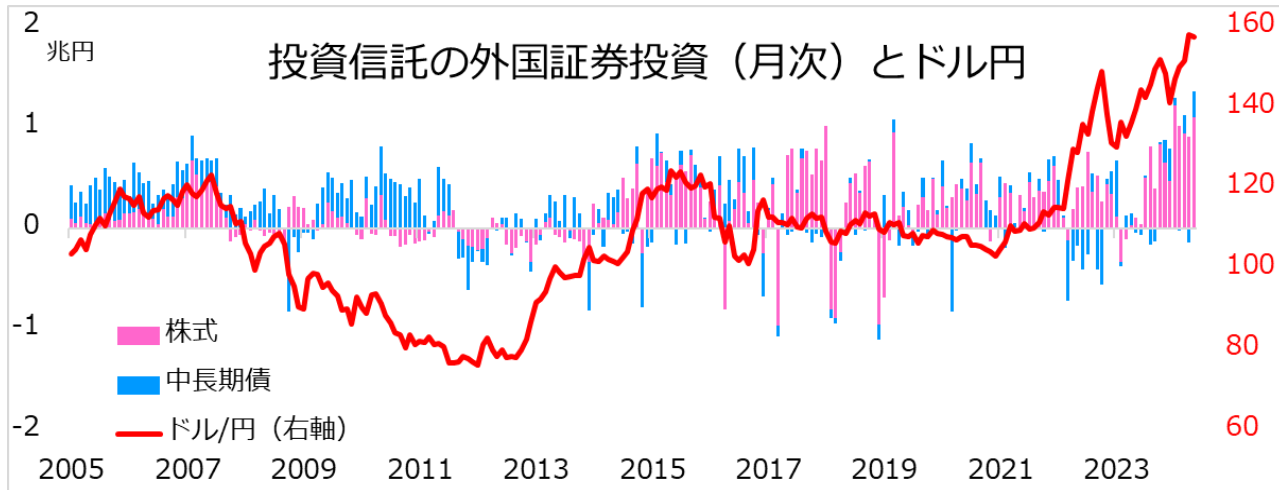
## 国際収支から見る為替需給



● 日本の経常黒字は還流（円買い）されない分が大  
⇒1990年代から指摘されてきたこと



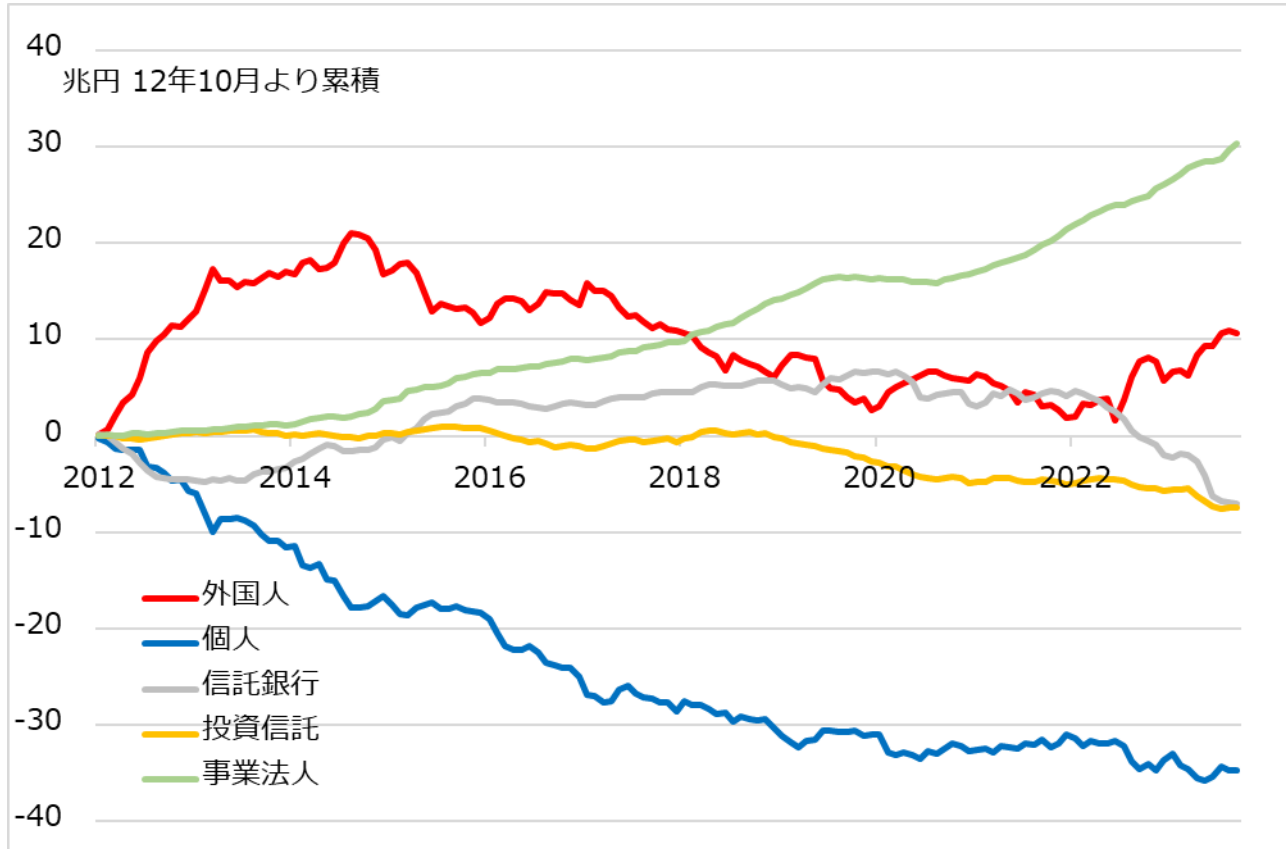
# 為替需給 (3) 日本投資家



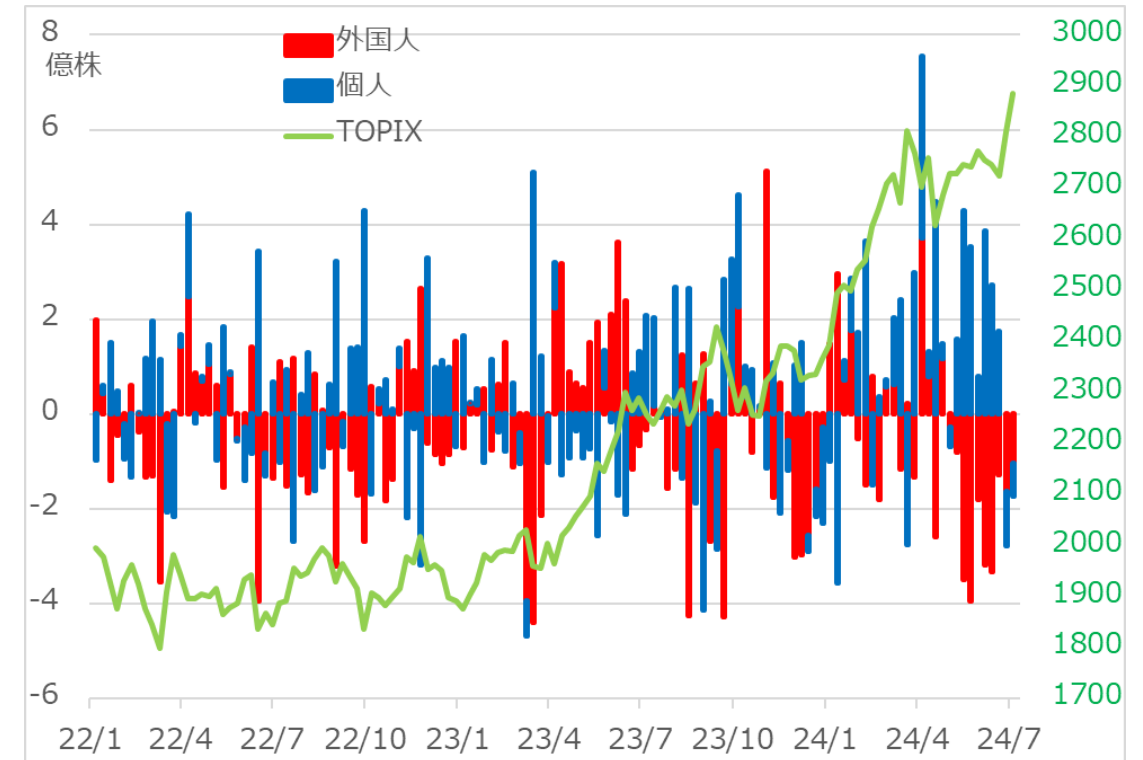
● 新NISAはオルカンとS&P500が主流 ⇒ 円安進行時は年金が外国証券売りで圧力相殺

# 為替需給 (4) 海外投資家

## 外国人の日本株評価が重要



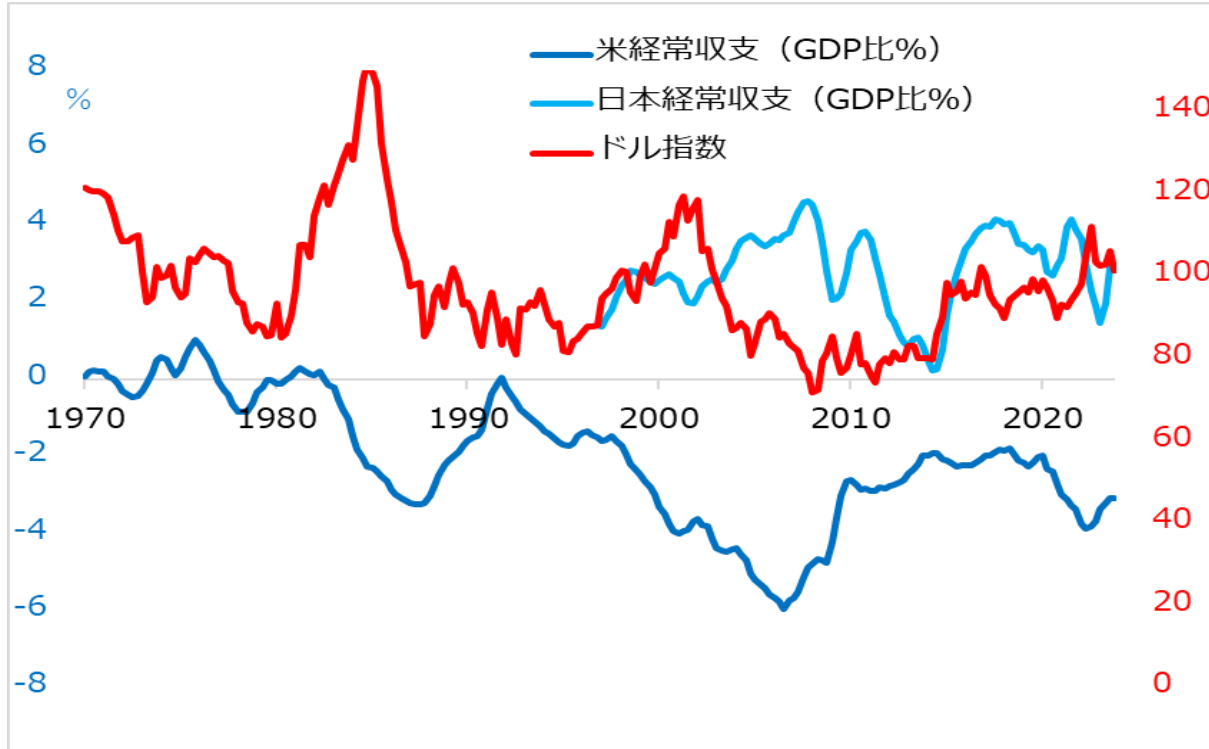
## 日本株のネット売買：外国人 vs 日本個人



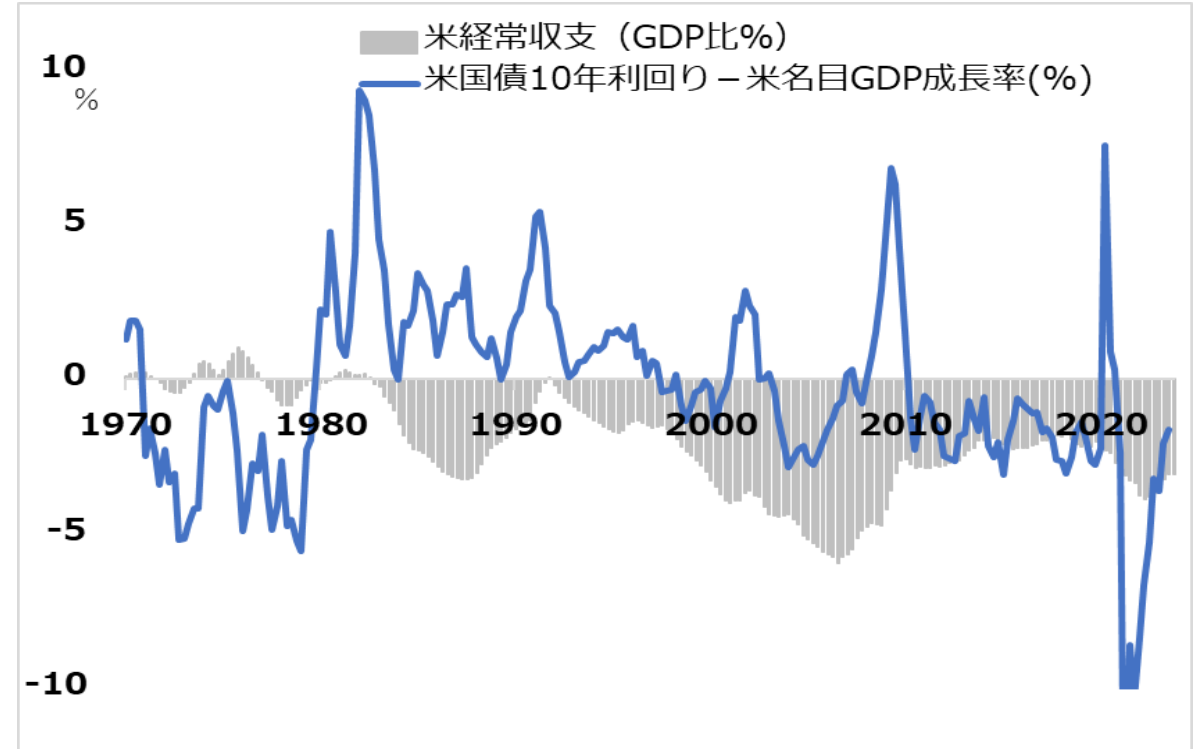
- 日本の名目GDP拡大 ⇒ 賃金上昇と脱デフレ ⇒ 企業の自主決定力・改革機運
- 脱中国の日本シフト、グローバル化見直しで日本回帰 ⇒ 個人の投資行動は変わるか

# 為替需給 (5) 米經常収支

## ドル相場は米經常収支とは逆相関



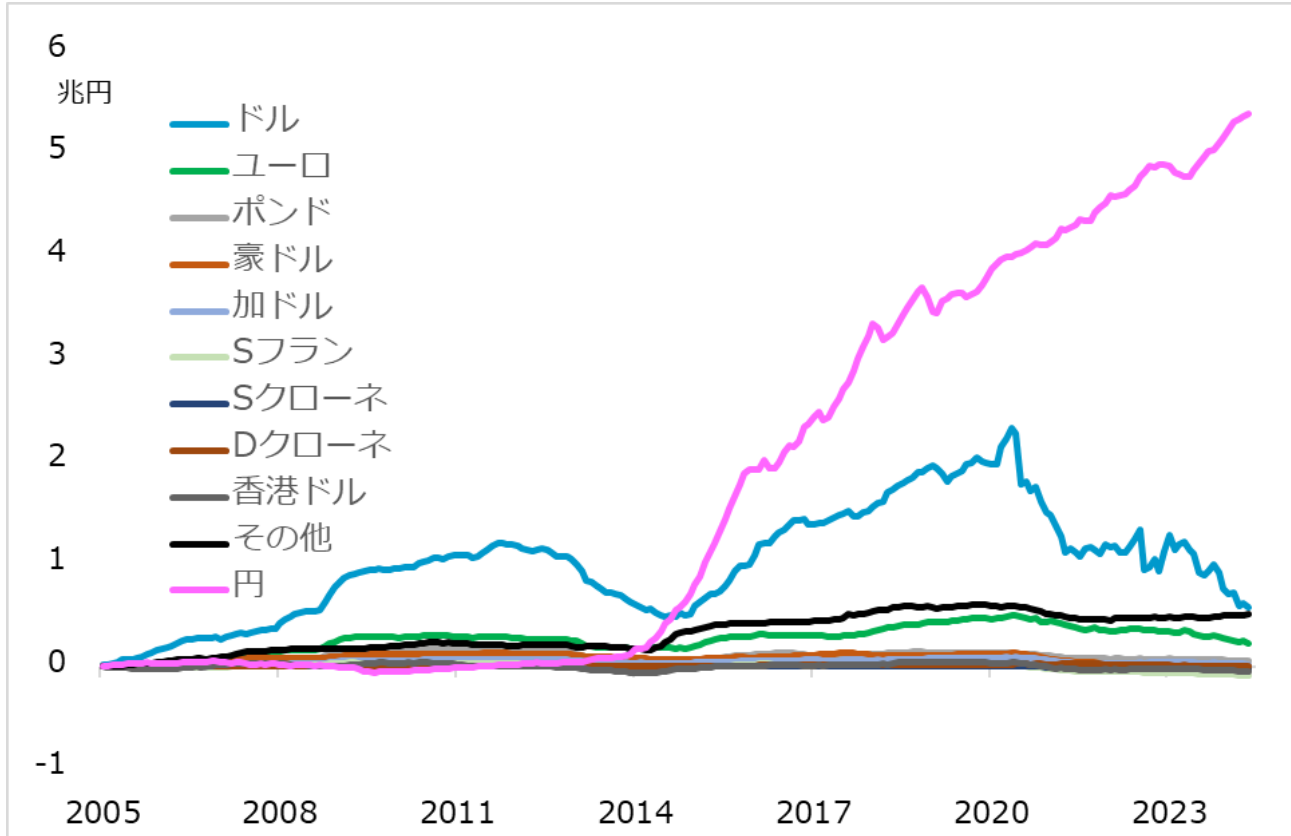
## 米国は經常赤字を賄えるか



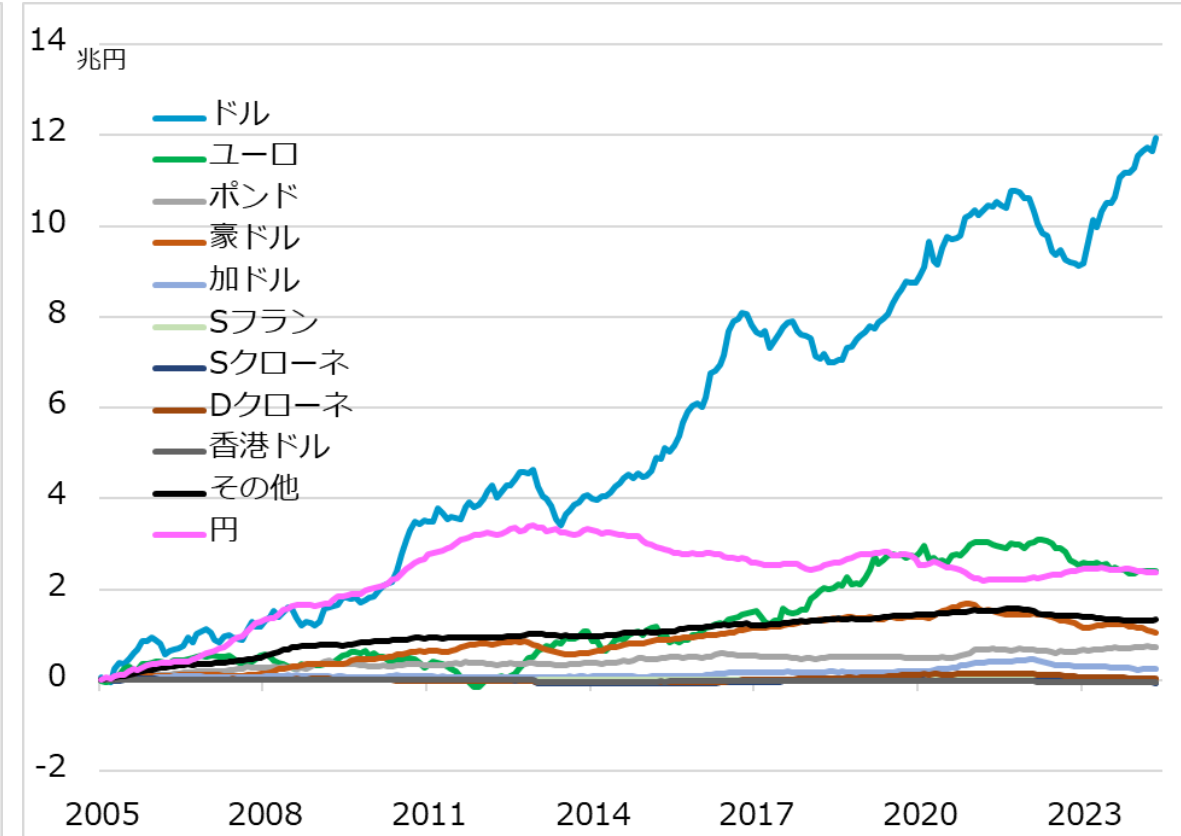
- 米好況時は輸入増で經常赤字増加 ⇒しかし米金利上昇でドル高
- 米不況時は輸入減で經常赤字縮小 ⇒しかし米金利低下でドル安
- かつて日本の經常収支、ドル円は米国の主な受け皿 ⇒現在は…

# 為替需給 (6) 通貨別の対外証券投資

日本の通貨別の対外株式投資 (累積)

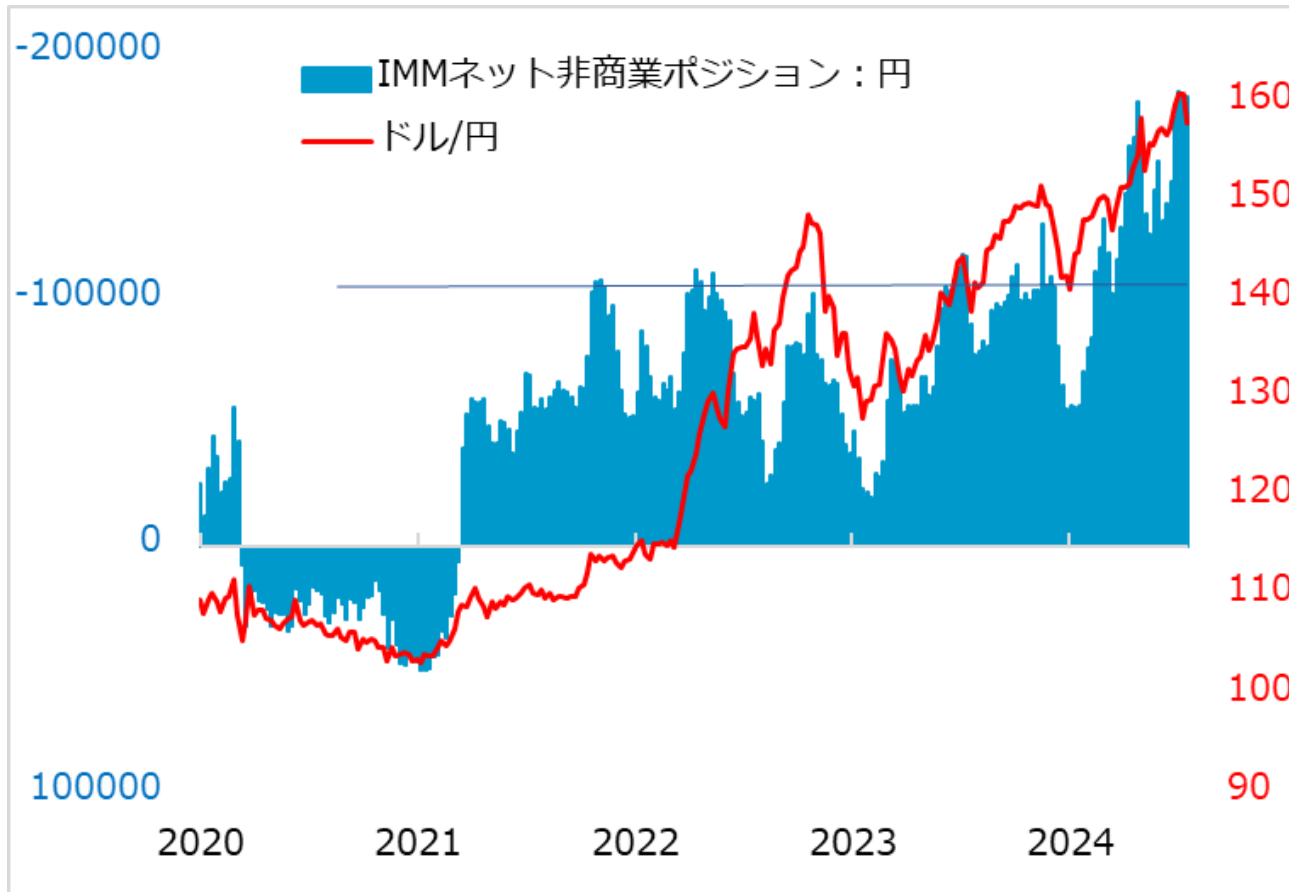


日本の通貨別の対外債券投資 (累積)

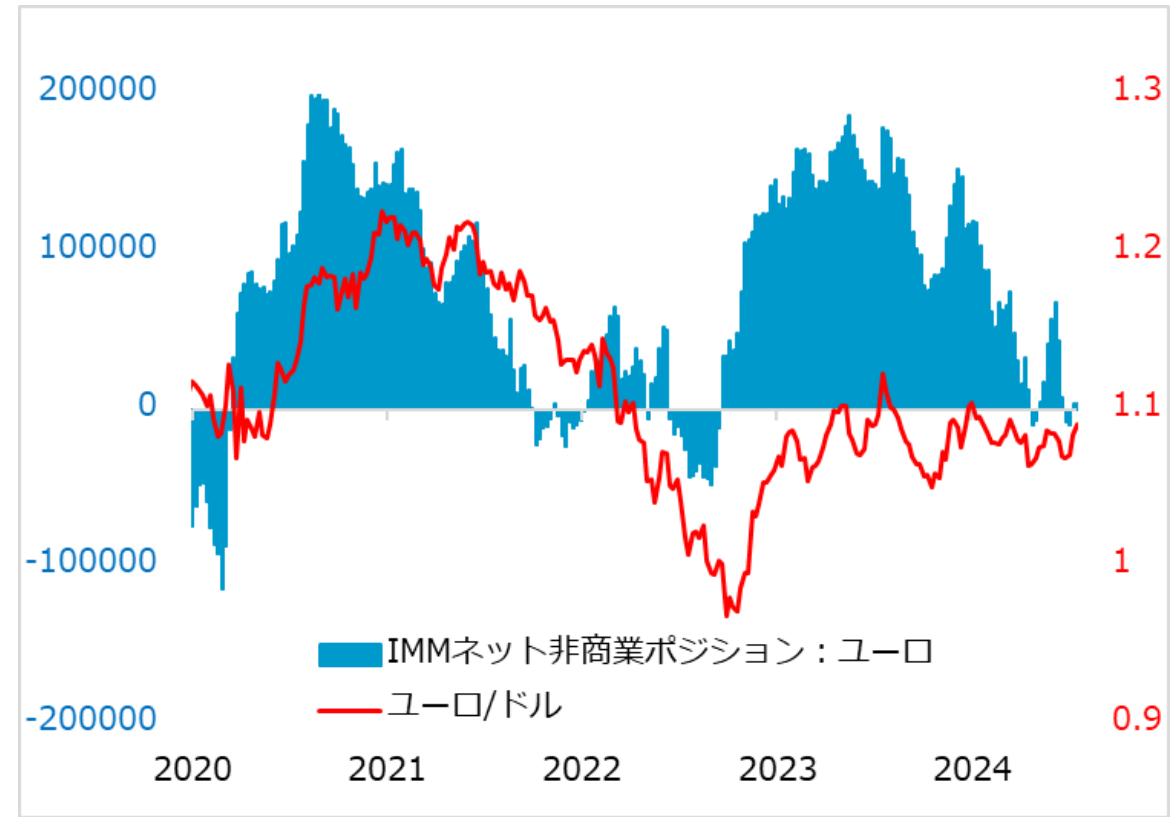


# 為替需給 (7) 投機

## IMM 円の投机ポジションとドル円



## IMM ユーロの投机ポジションとユーロドル



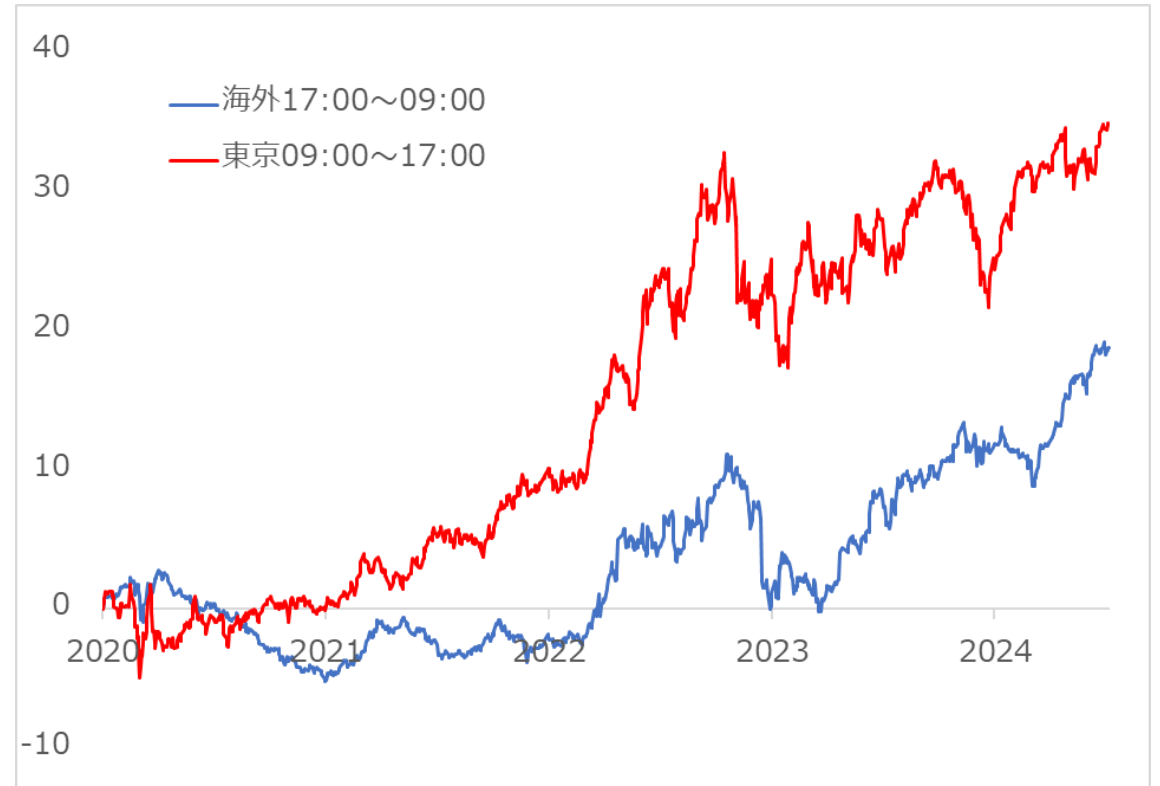
● 円売り投机が活性化 ⇒ 米金利高止まり、日銀異次元緩和見直し一過、為替需給…

# 為替需給 (8) 日中値動き

ドル円の日中値動き：東京時間 vs 欧米時間



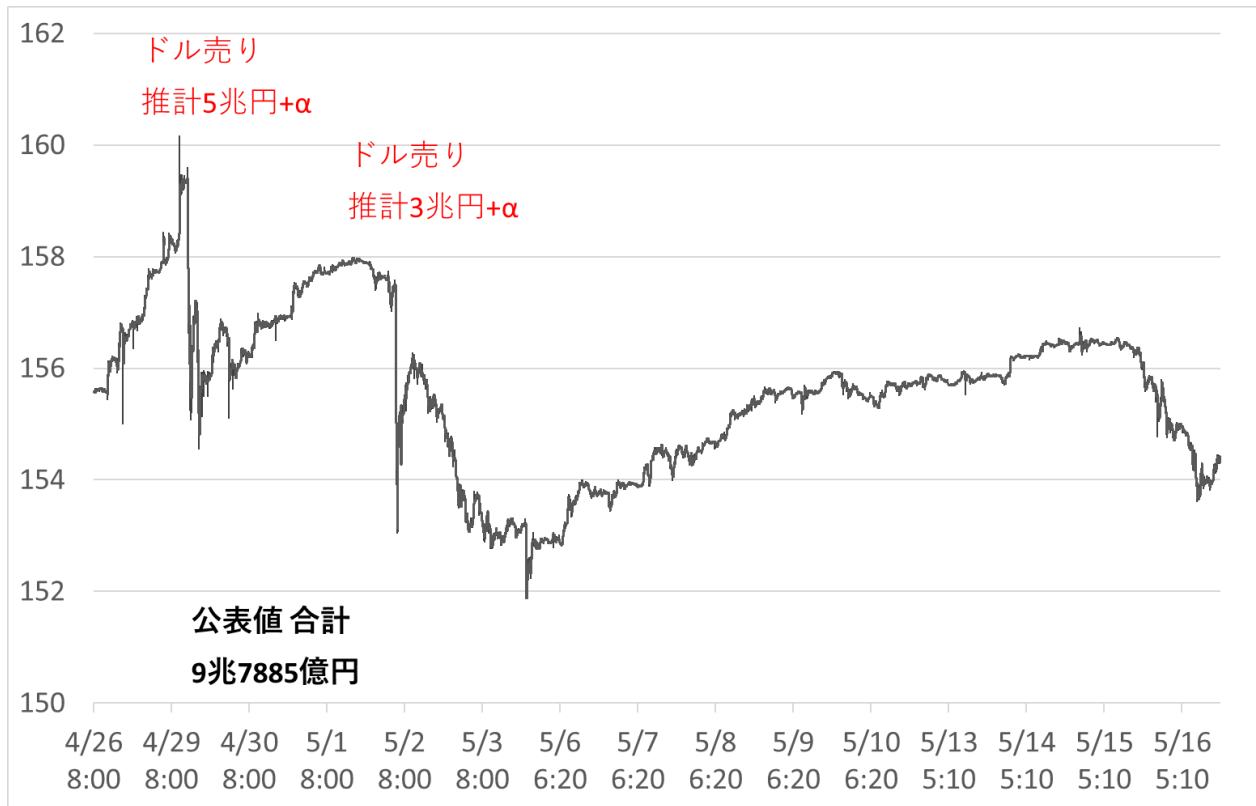
ドル円の日中値動き：東京時間 vs 欧米時間



- 過去、円安局面でも東京時間は円高 ⇒ 2022年から変容  
⇒ 東京の個人行動に変化、アジアなど海外勢のドル円参入

# 為替需給 (9) 介入 2024年

## 2024年4月29日、5月1日のドル売り介入



## 2024年7月11日 12日のドル売り介入



- 為替介入の円安抑止効果は、投機ポジションをくじく一時インパクトまで
- 為替に持続的インパクトを持つのは金融政策 ⇒しかし日銀の対応余地は僅か
- 当局は戦術的に勝てる、意味のある介入を企図

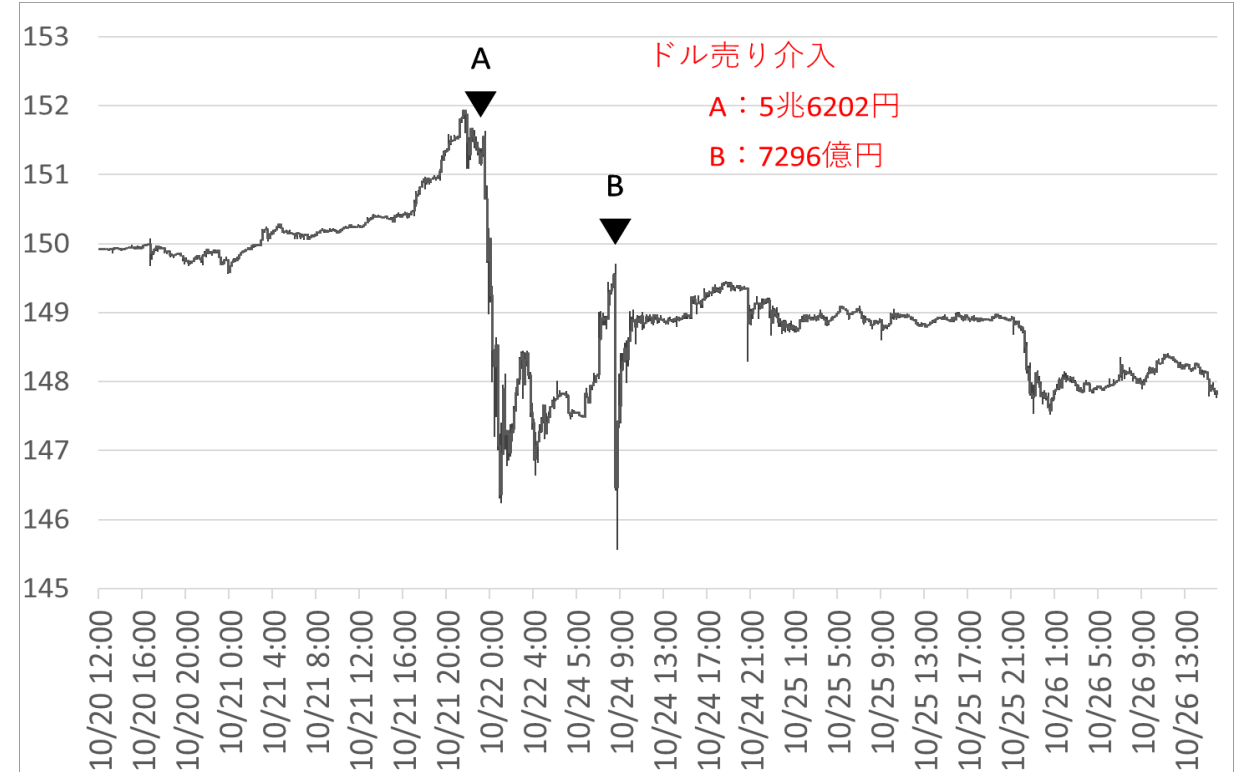


# 為替需給 (10) 介入 2022年

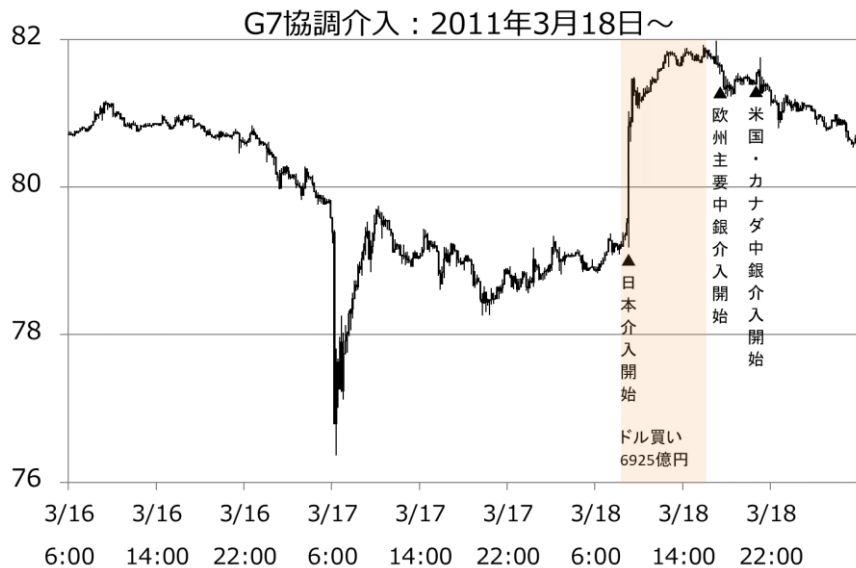
## 2022年9月22日のドル売り介入



## 2022年10月21日 24日のドル売り介入

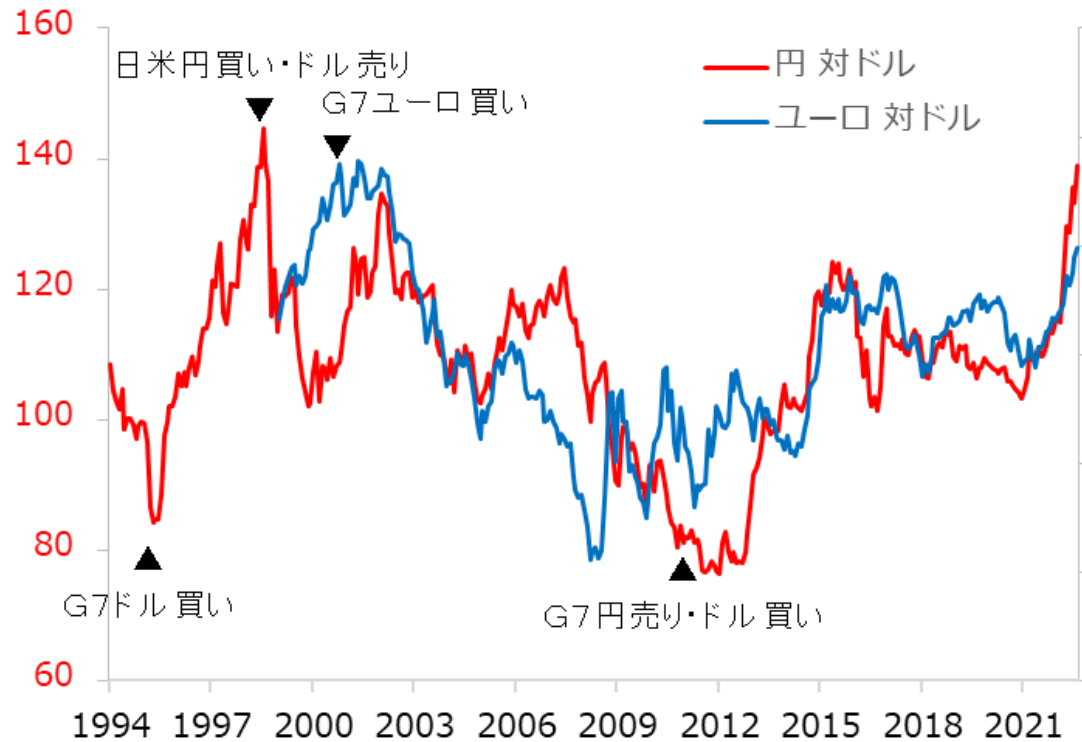


# 為替需給 (11) 介入 2010~2011年

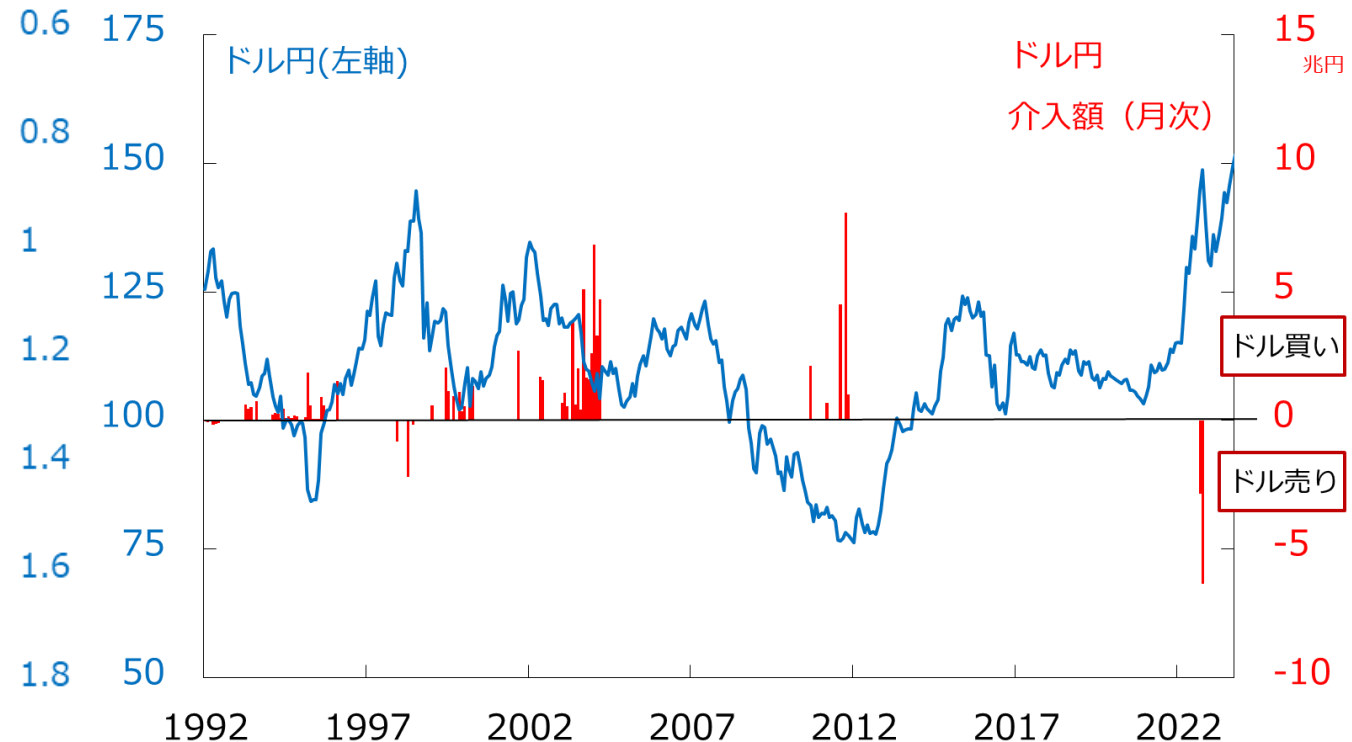


# 為替需給 (12) 協調介入

## 協調介入は効くが…



## 日本単独介入は効かない…の真贋

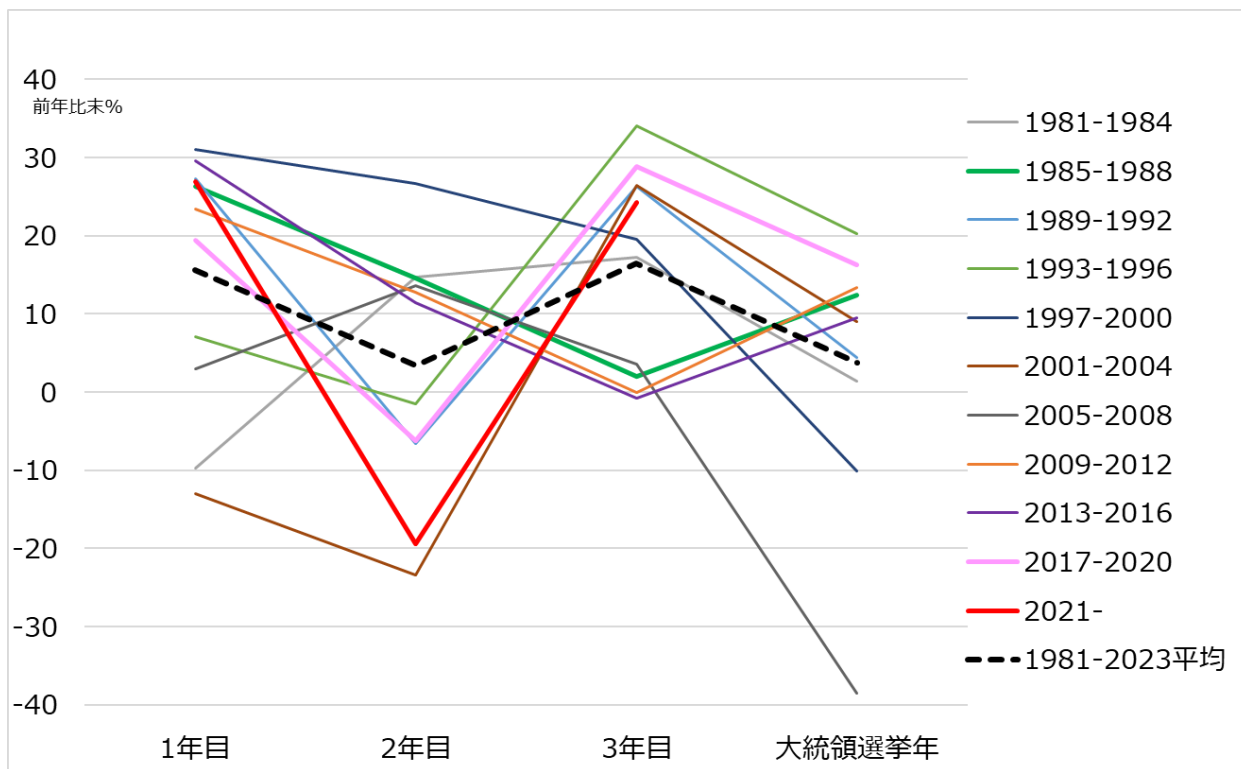


### ●原則介入しない方針の欧米

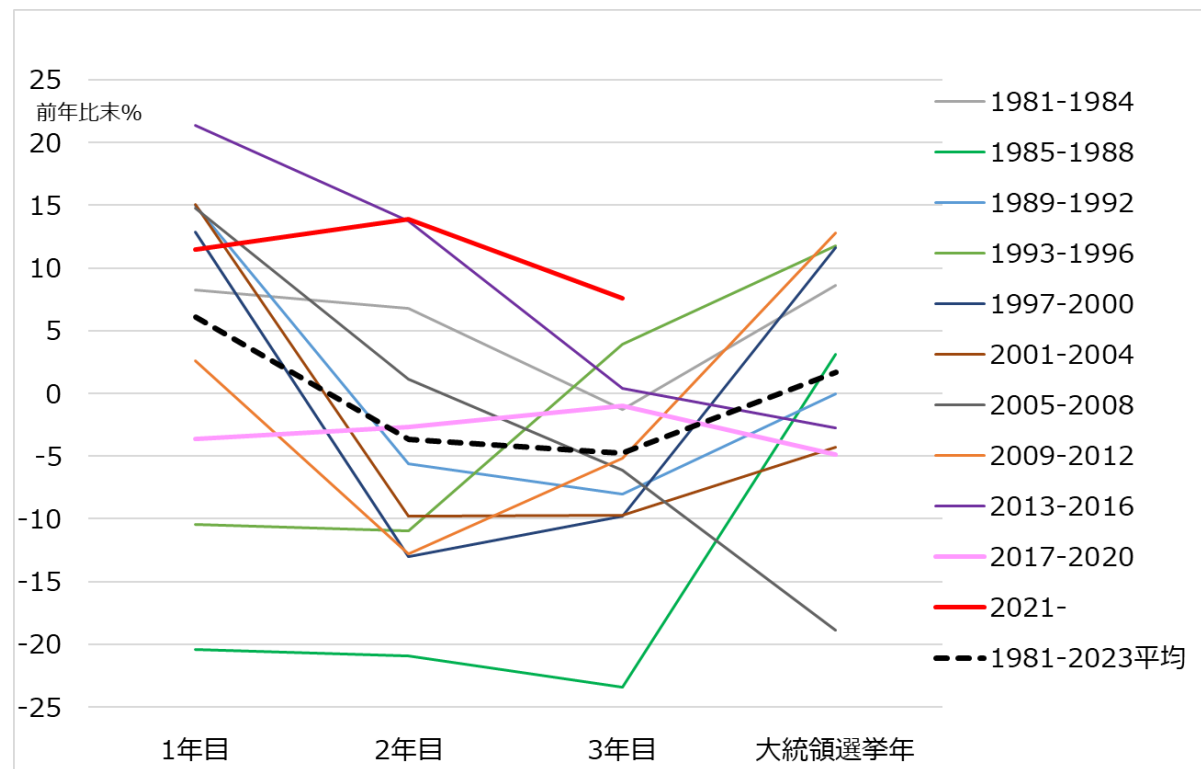
協調介入は、ファンダメンタルズと整合しない為替相場の行き過ぎに対して行われる

# トピック (1) 米大統領選挙

## S&P500相場の米大統領選挙年サイクル



## ドル円相場の米大統領選挙年サイクル



- 米大統領は4年後の選挙時を好景気にするマクロ政策配分  
⇒株は景気に先行、ドル円は遅行 ⇒チェックすべきは、選挙でなく、マクロ状況
- 銃撃事件後のトランプ候補優勢観測 ⇒株式のトランプ・トレードは賞味期限を留意

# トピック (2) 日本銀行

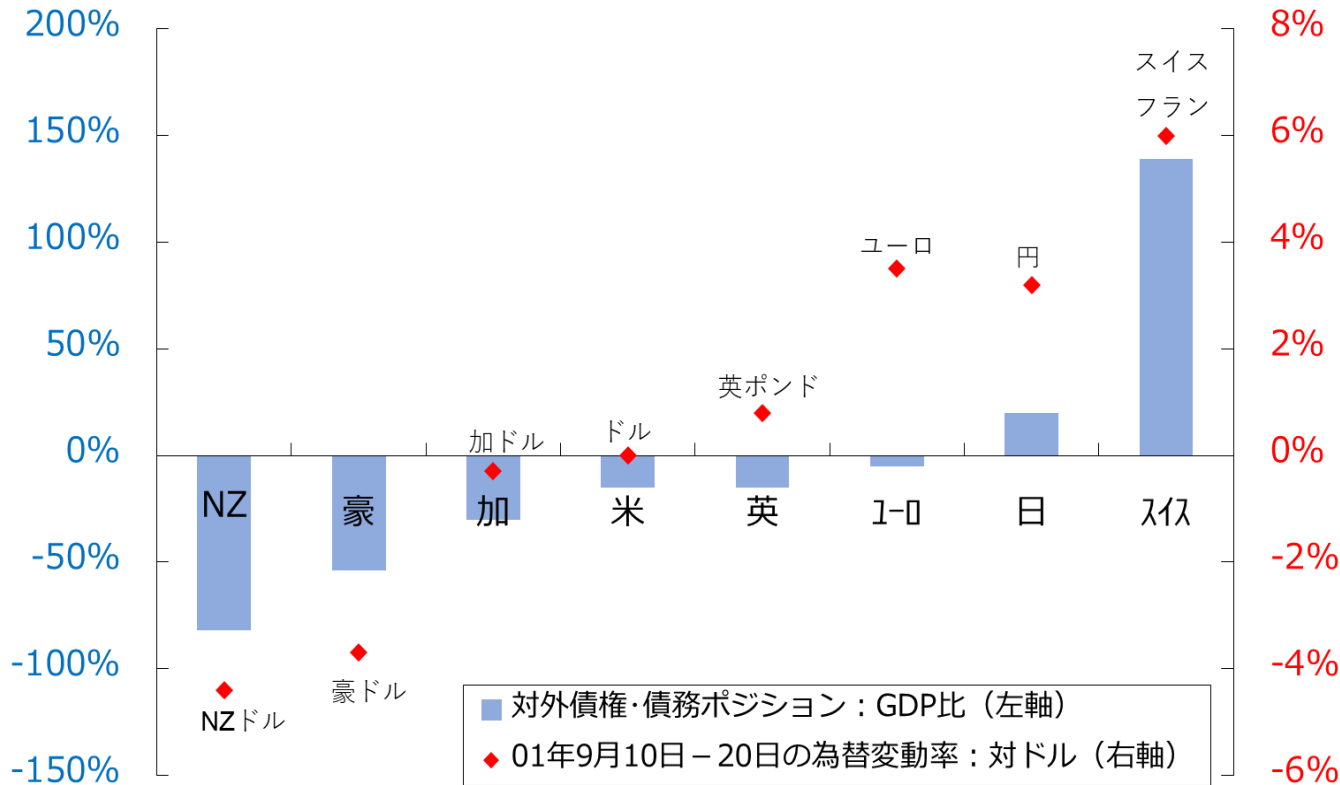
## ドル円と日銀の異次元緩和の見直し時期 (▲)



- 日銀政策の変更余地は小さい  
⇒金利差の為替インパクト限定  
⇒投機ポジションの動揺を促す  
⇒ドル円の方法は米金利次第  
しかし、  
米利下げと介入と日銀の  
巡り合わせ次第で為替インパクト

# トピック (3) 有事

## 2001年9月11日米同時多発テロ時の為替相場



### 第1段階 逃げる (避難する)

- ・リスク投資の削減
- ・安全資産へ避難：現金、国債、金
- ・**平常性バイアス**：致命的かチャンスか

### 第2段階 止まる (動けない)

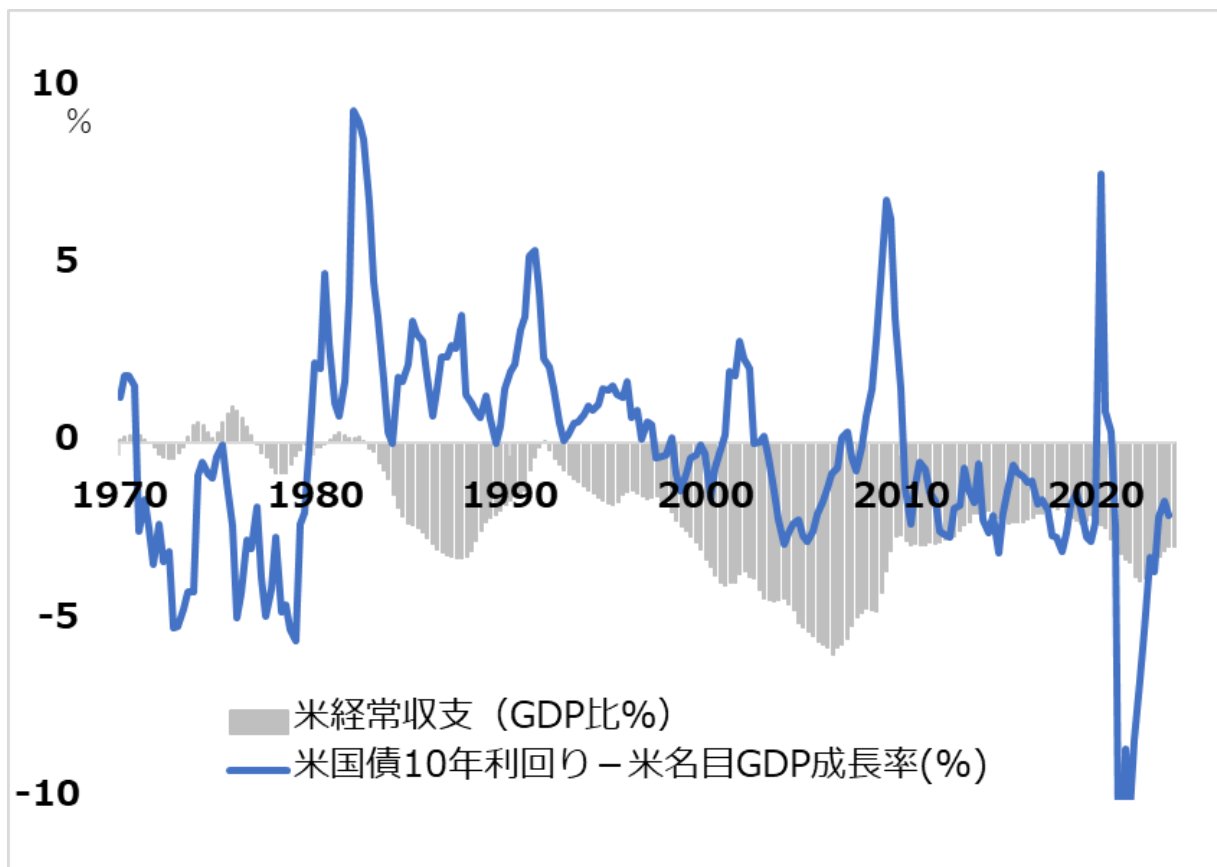
- ・債権ポジション vs 債務ポジション

### 第3段階 ファンダメンタルズ次第

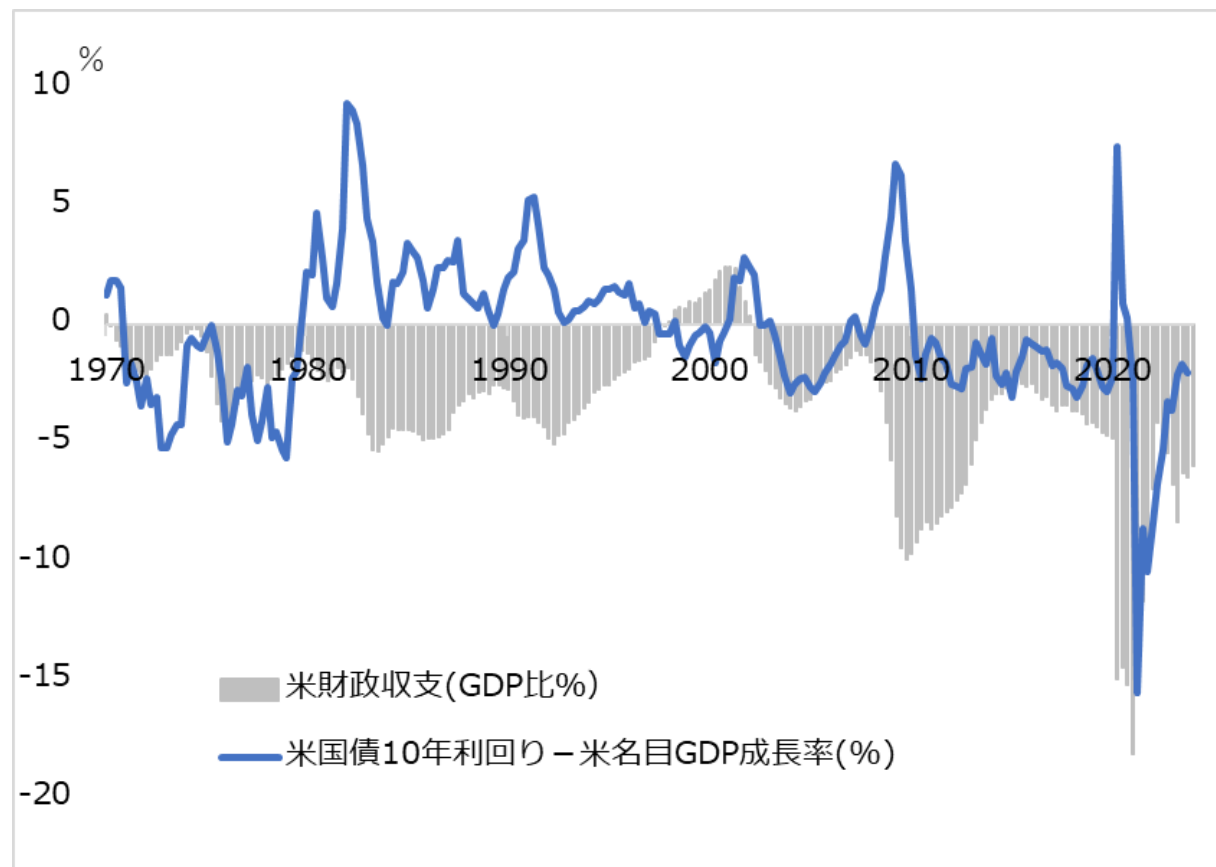
- 円は、債権国通貨として、かつてのような「有事買い」は限定的  
⇒「有事のドル」との見合いで膠着後、米金利低下に沿って軟化を想定するが…

# トピック (4) ドルの信認

## 米国は経常赤字を賄えるか

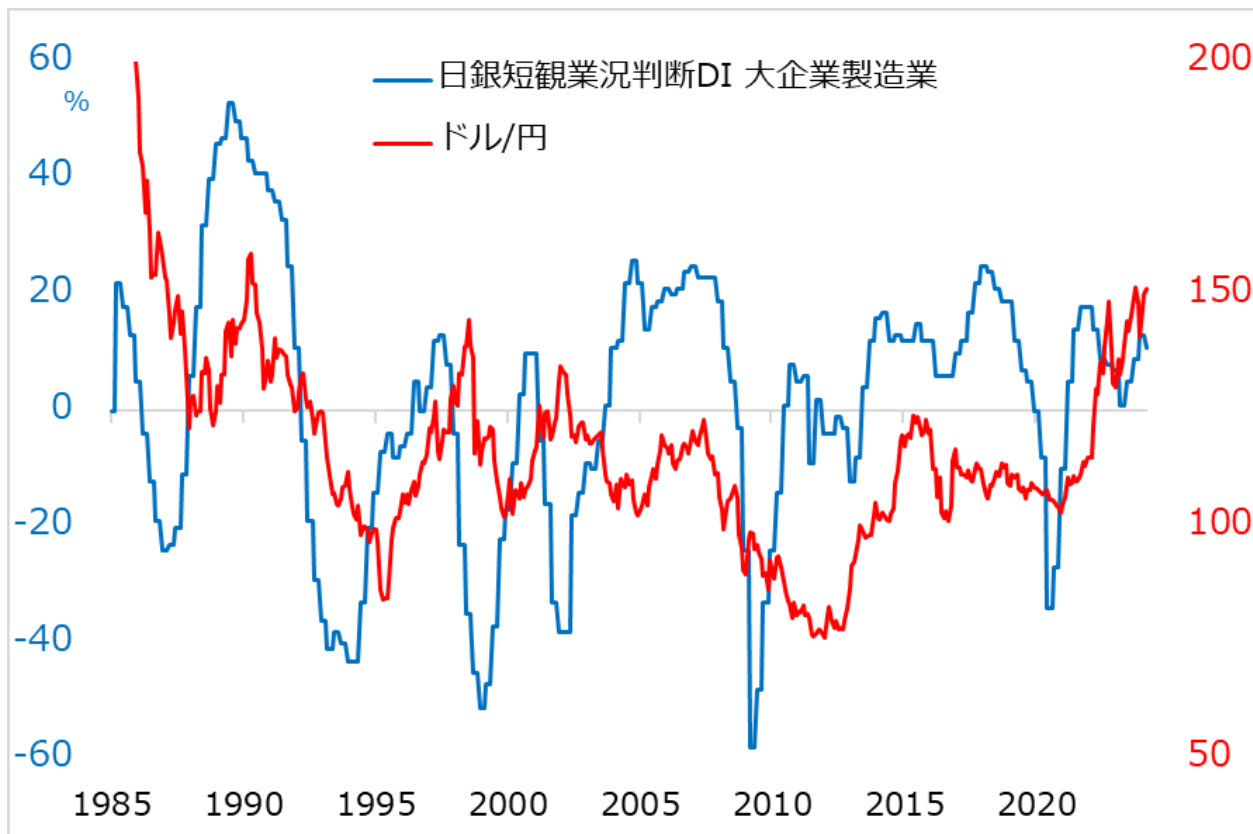


## 米国は財政赤字を賄えるか

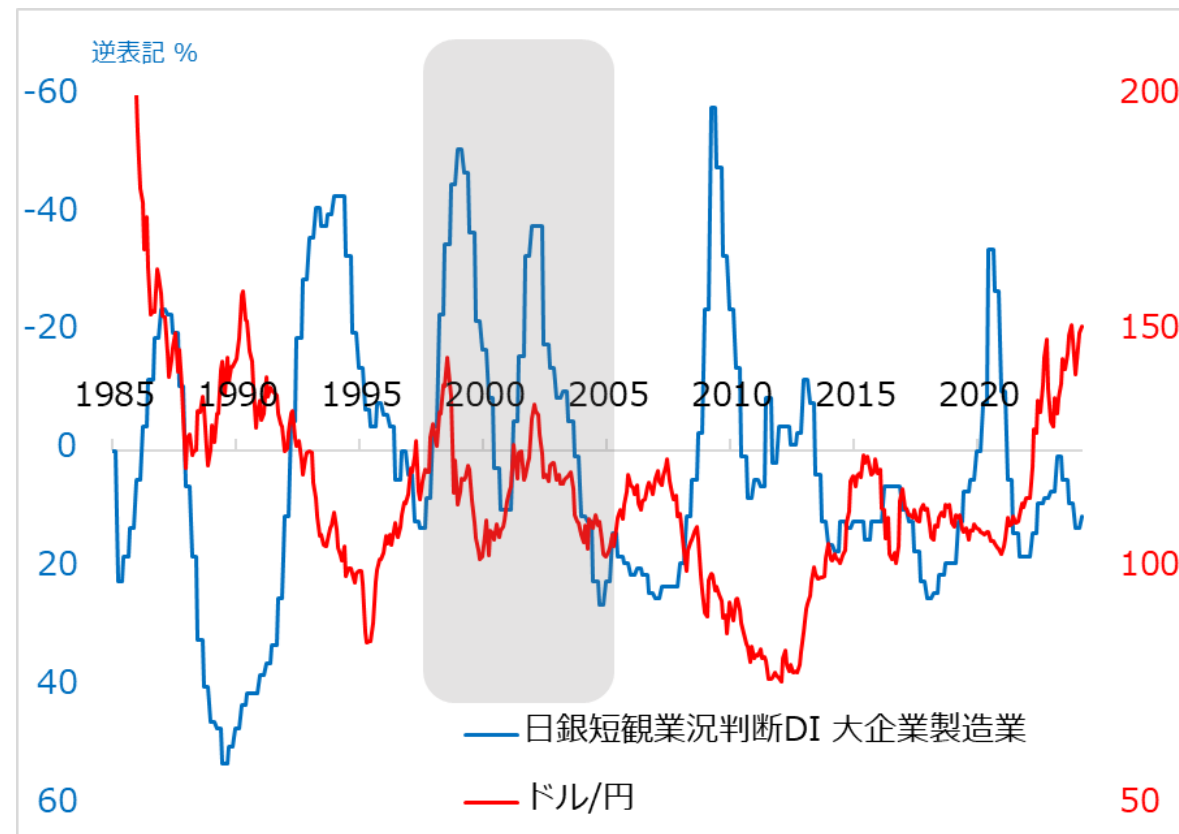


# トピック (5) ドル円サイクル

## 日本の景気サイクルとドル円



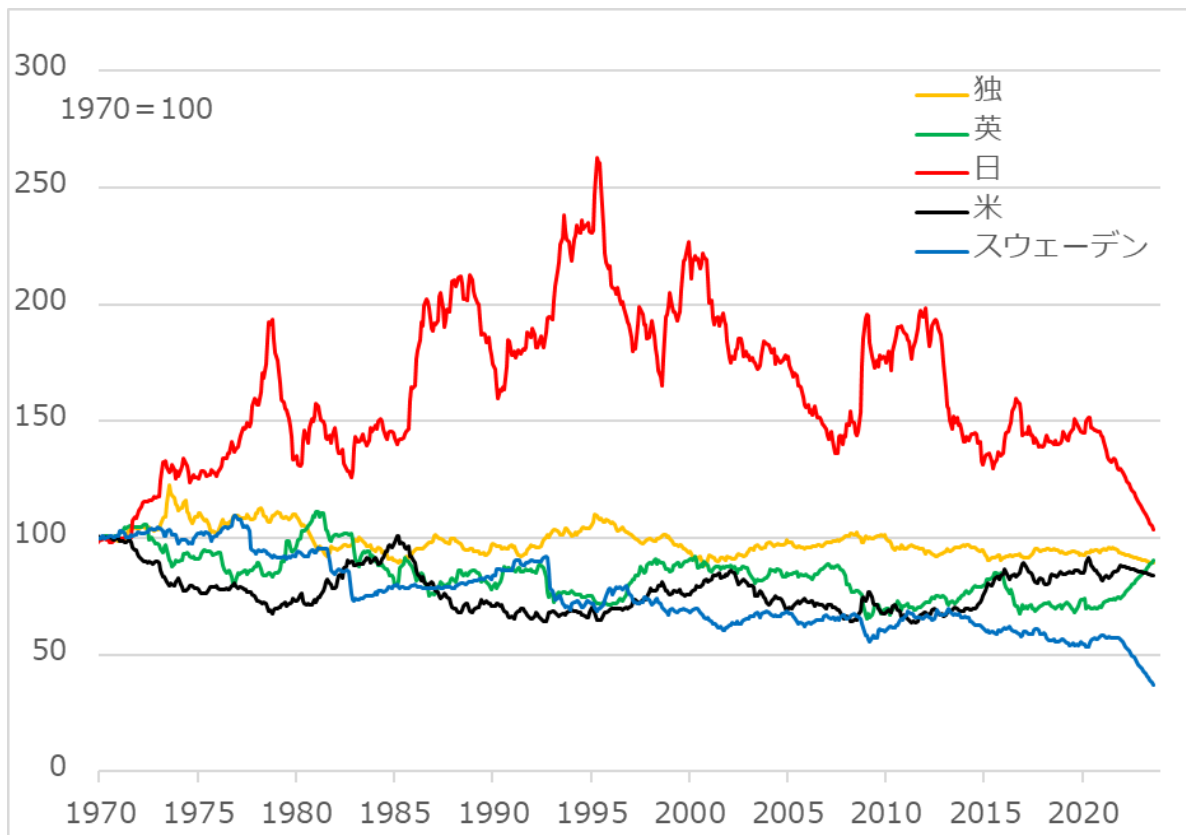
## 日本の景気サイクル（逆表記）とドル円



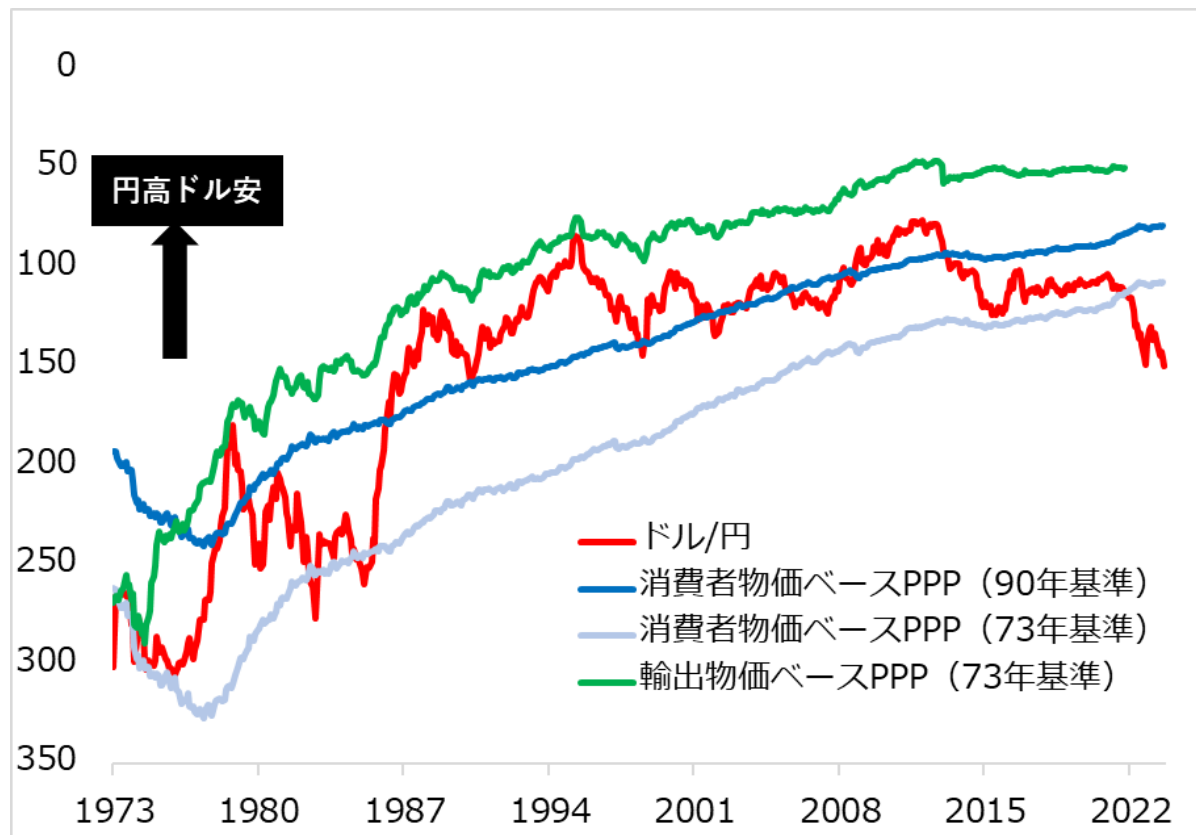


# トピック (6) 日本衰退論

## 主要国の実質実効為替レート



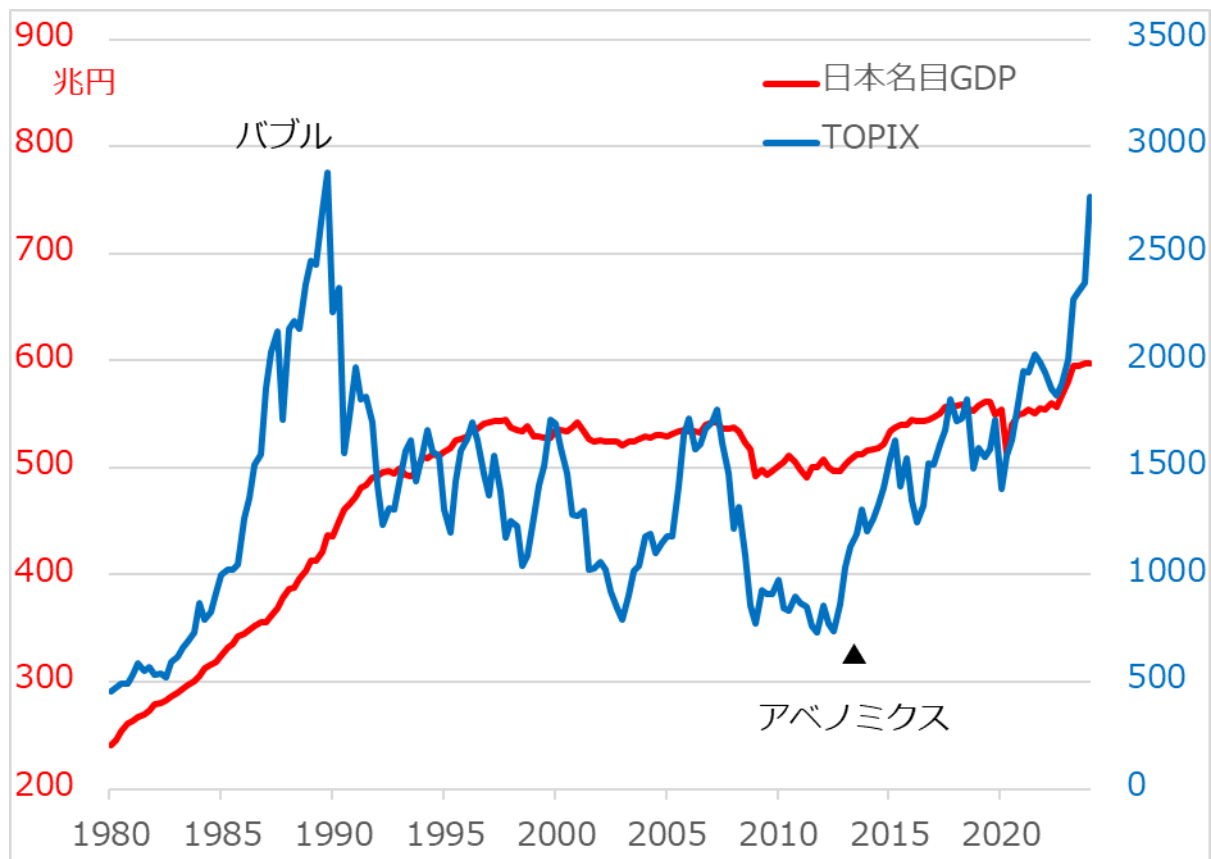
## 購買力平価で見るドル円



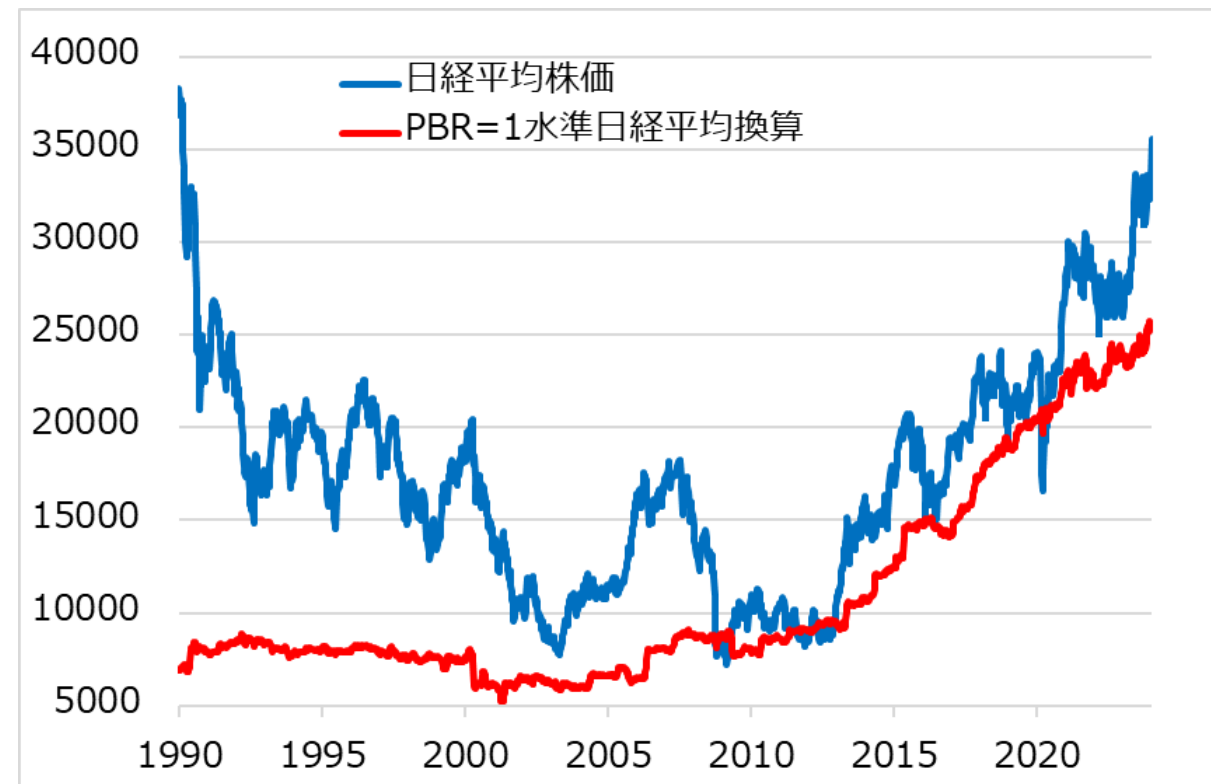
- 構造要因による円安と、米金利でほぼ説明できる中期の循環的な円安を混同しない
- 今回の「棚ぼた」的円安なしに、日本はデフレ脱却できたのか

# 他市場 (1) 日本株

## 超長期：日本の名目GDPとTOPIX



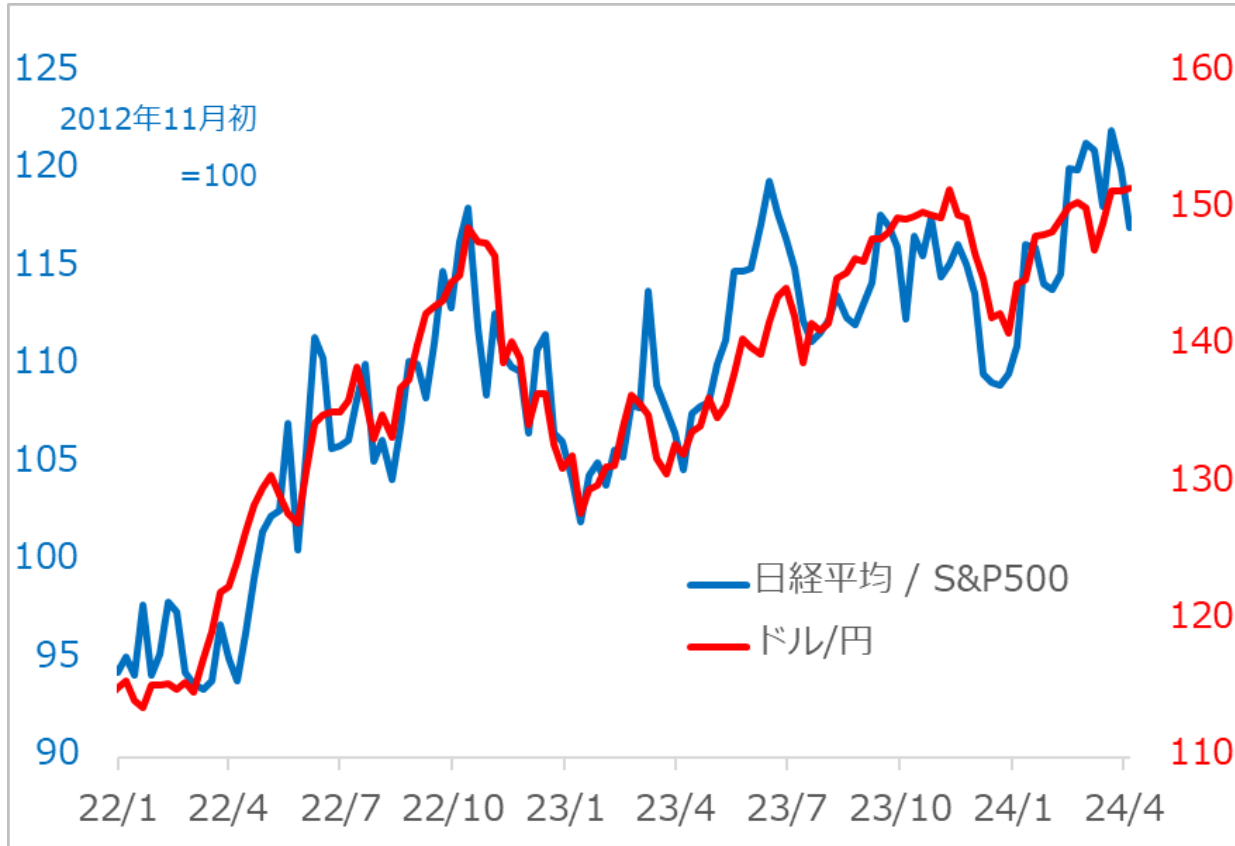
## 日経平均株価とPBR1倍水準



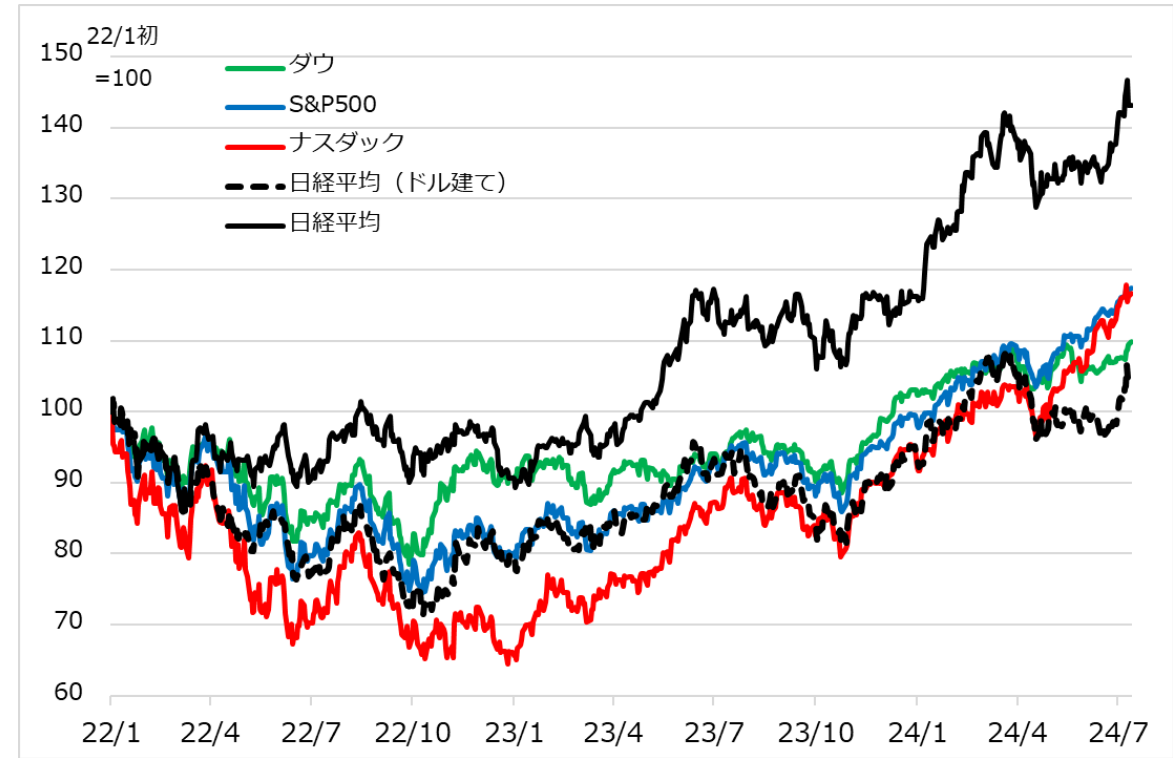
- 失われた20年：円高 ⇒ デフレ ⇒ 名目成長ゼロ ⇒ 株低迷 ⇒ 企業守勢 ⇒ デフレ…の悪循環
- アベノミクス + コロナ禍：円安とインフレ ⇒ 名目GDPアップ ⇒ 賃上げ、株高、改革機運

# 他市場 (2) 米株とドル円

## 日本株相場は米株相場と円相場次第



## 日本株 (円建てとドル建て) vs 米株

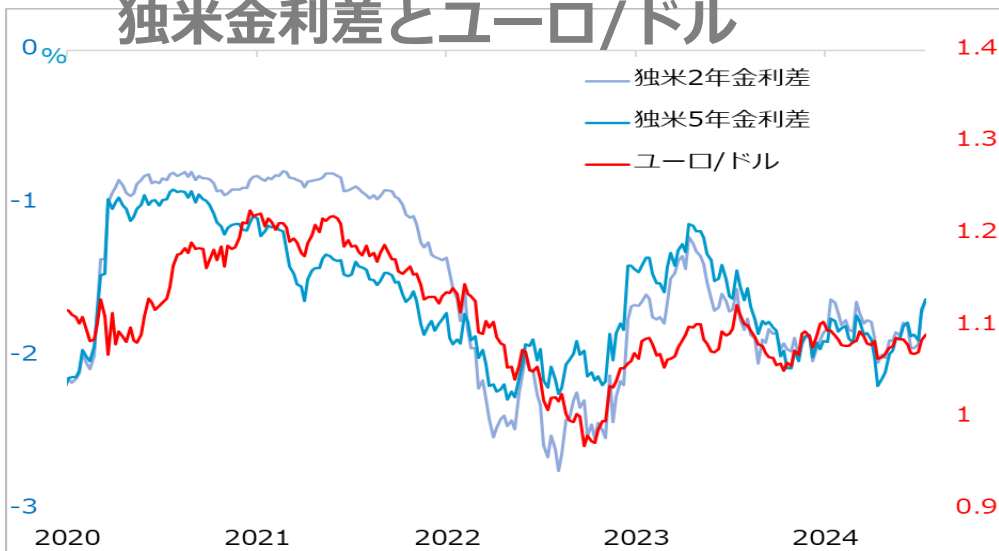


● 日本株上昇は米株高と円安で大半説明可能

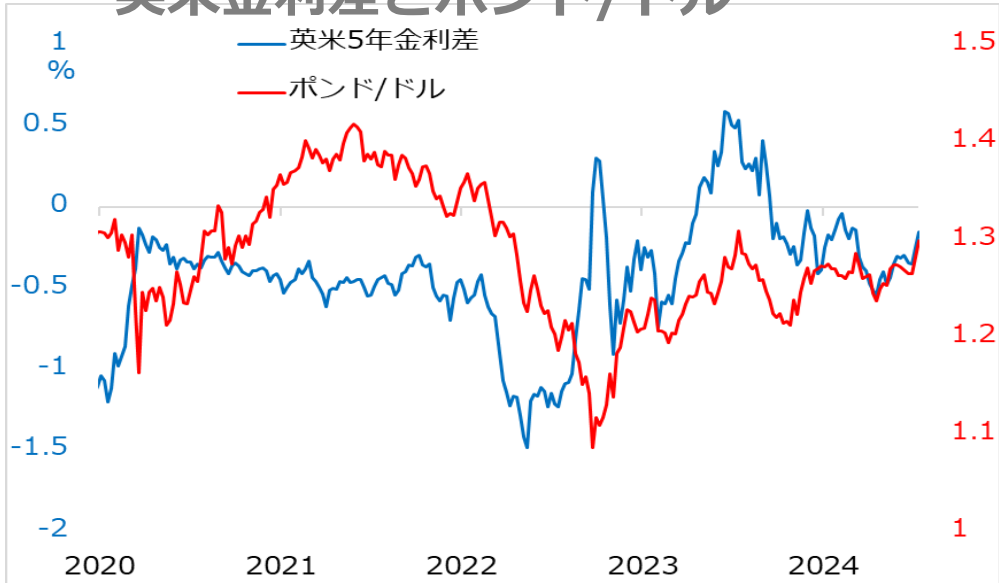
⇒米金利低下で「米株安×円高」なら日本株圧迫 ⇒この条件の発現前では日本株に妙味

# 他市場 (3) 主要通貨

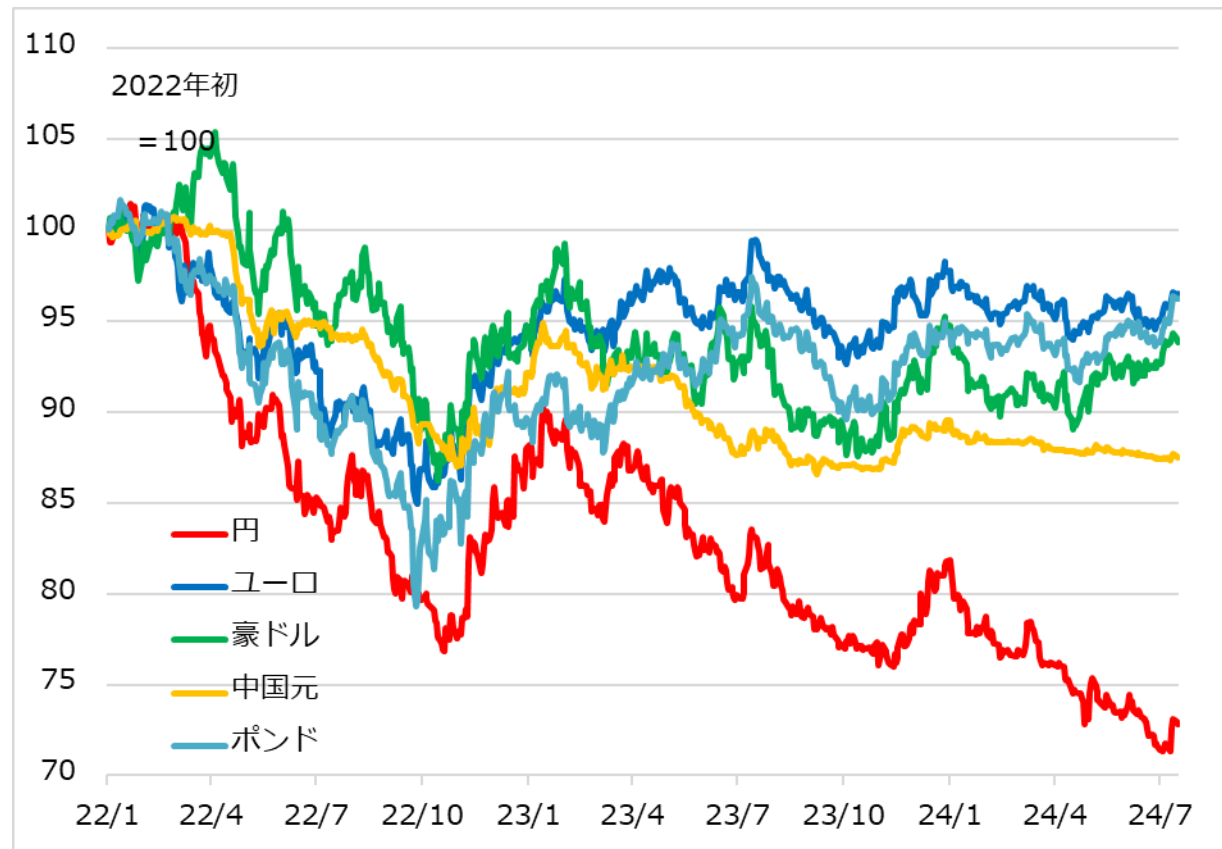
## 独米金利差とユーロ/ドル



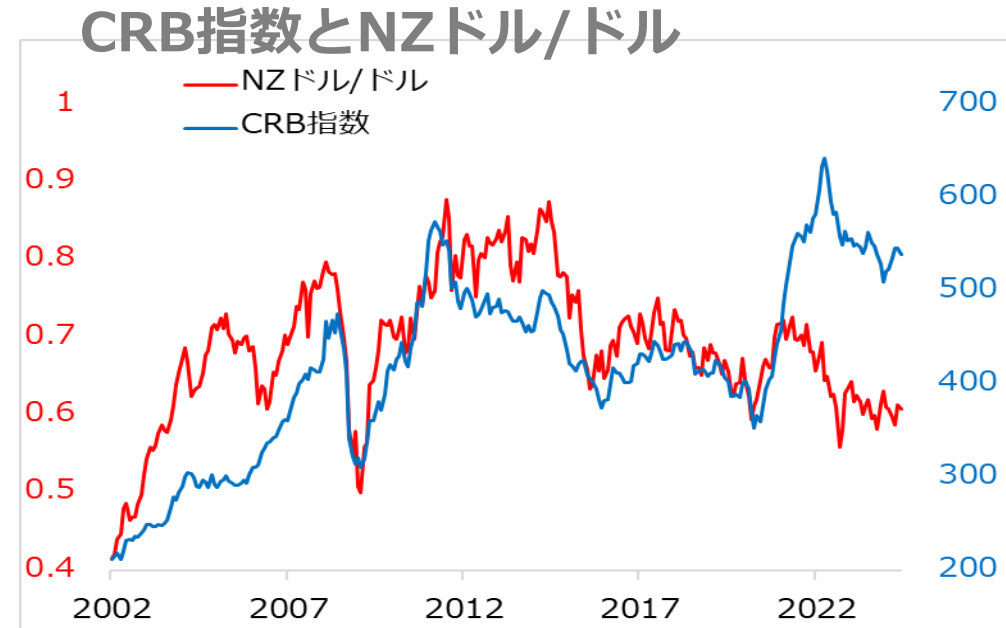
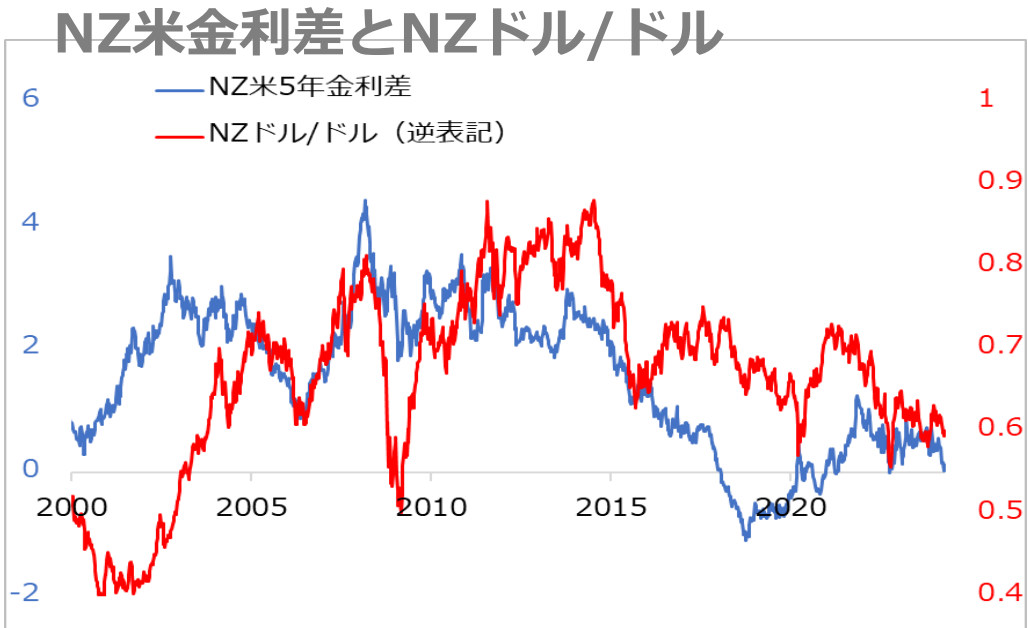
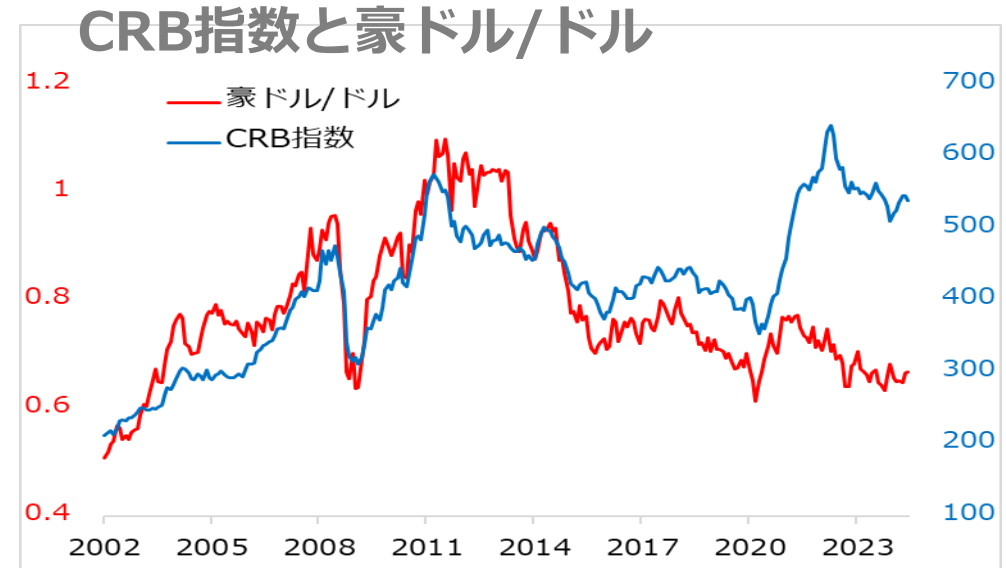
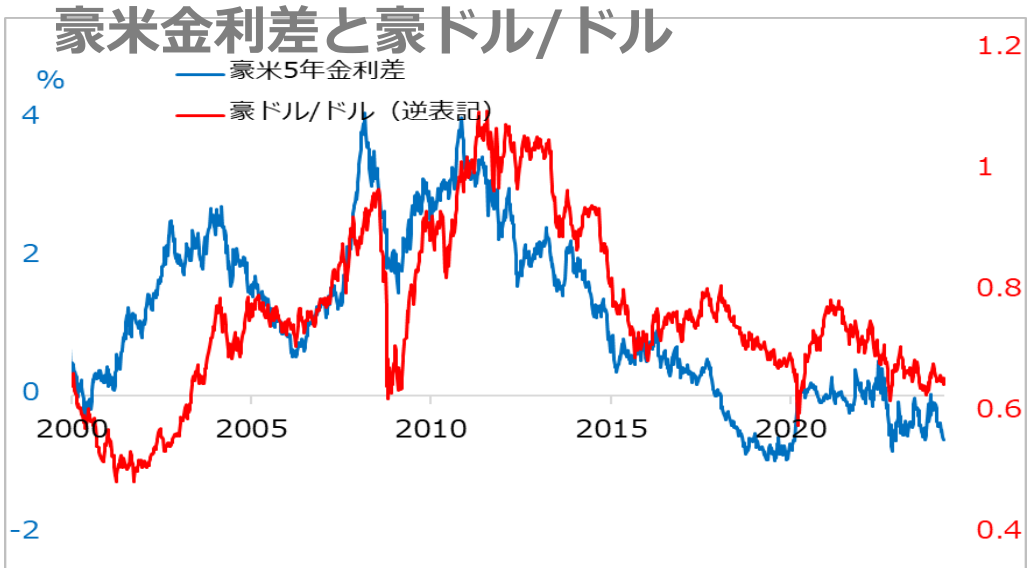
## 英米金利差とポンド/ドル



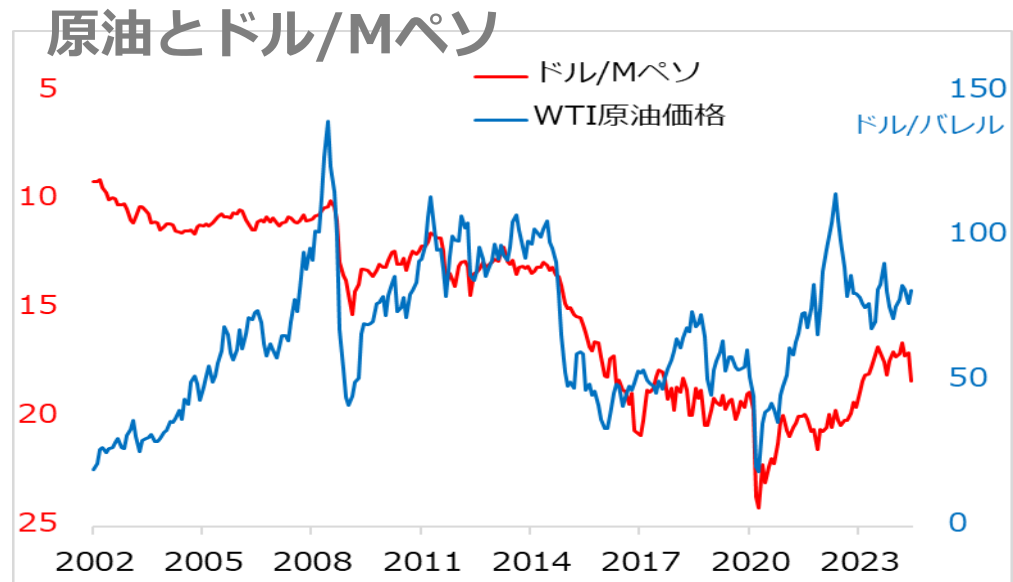
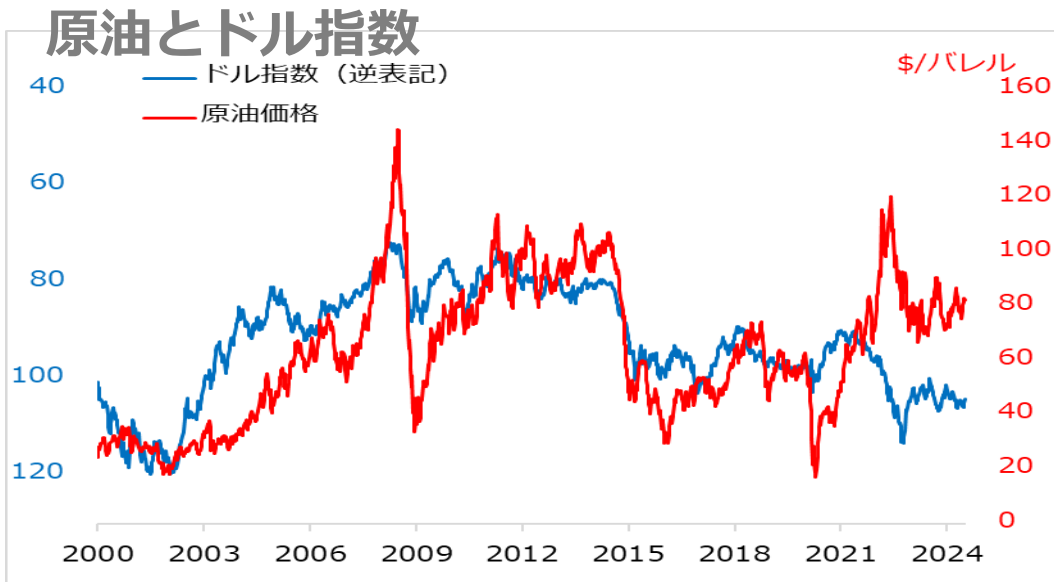
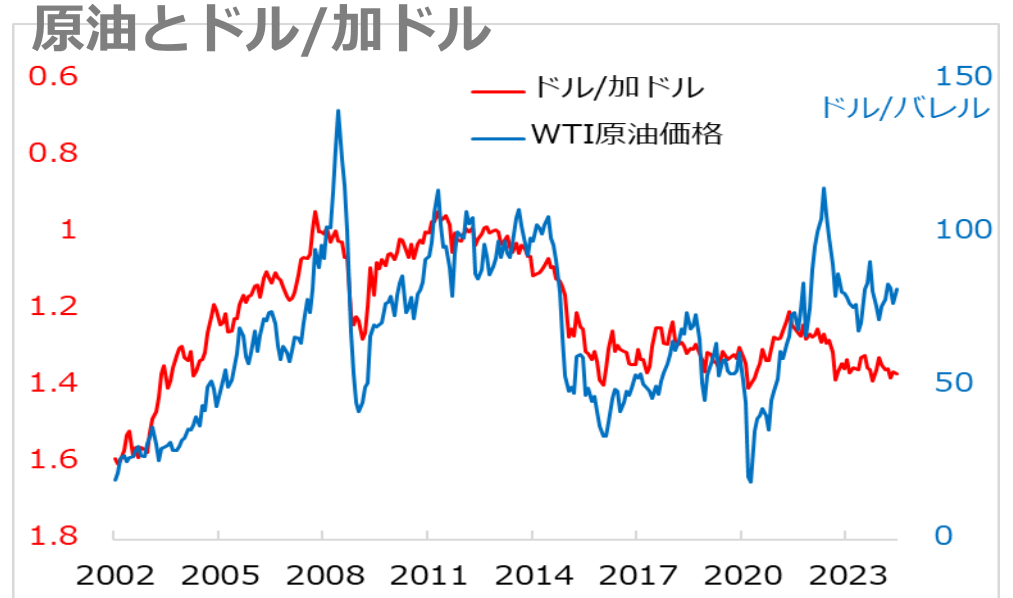
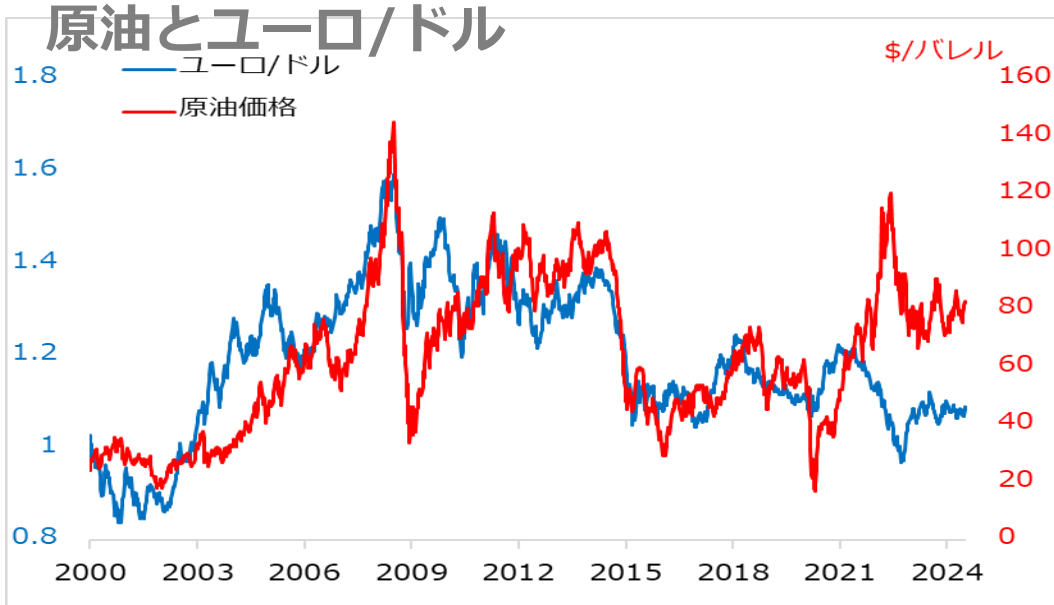
## 主要通貨の対ドル推移



# 他市場 (4) 商品通貨と金利

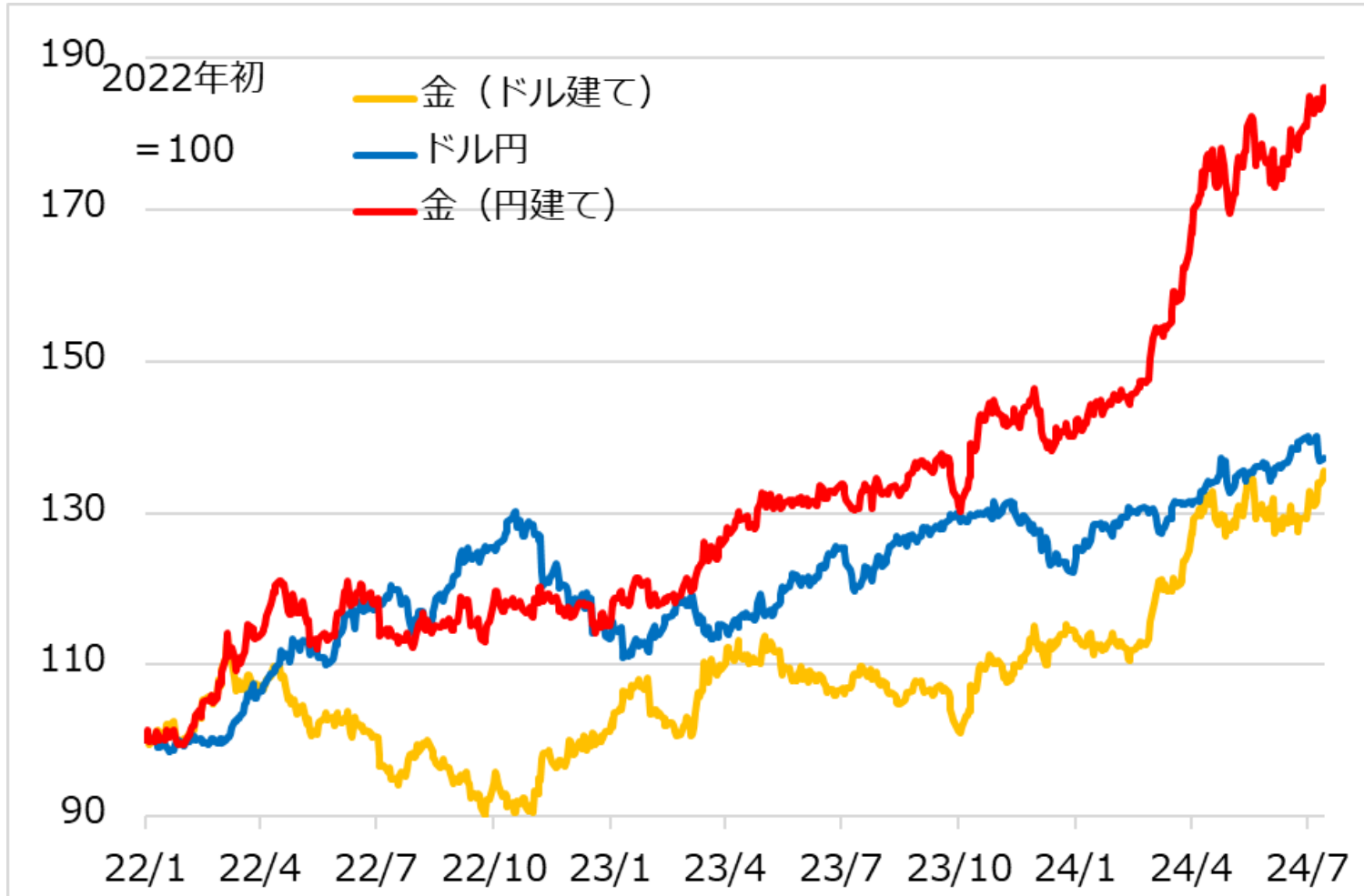


# 他市場 (5) 原油と通貨



# 他市場 (6) 金

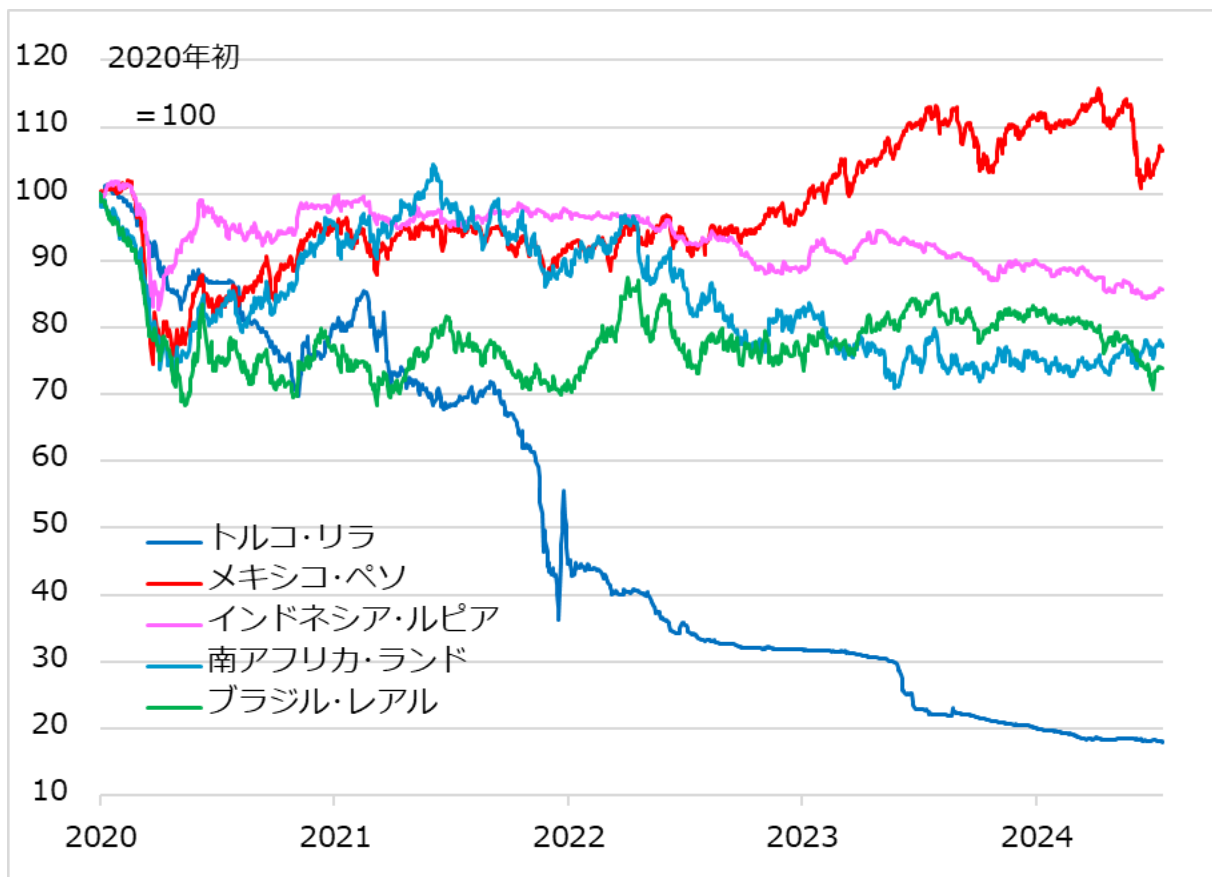
## 金のドル建てと円建ての評価



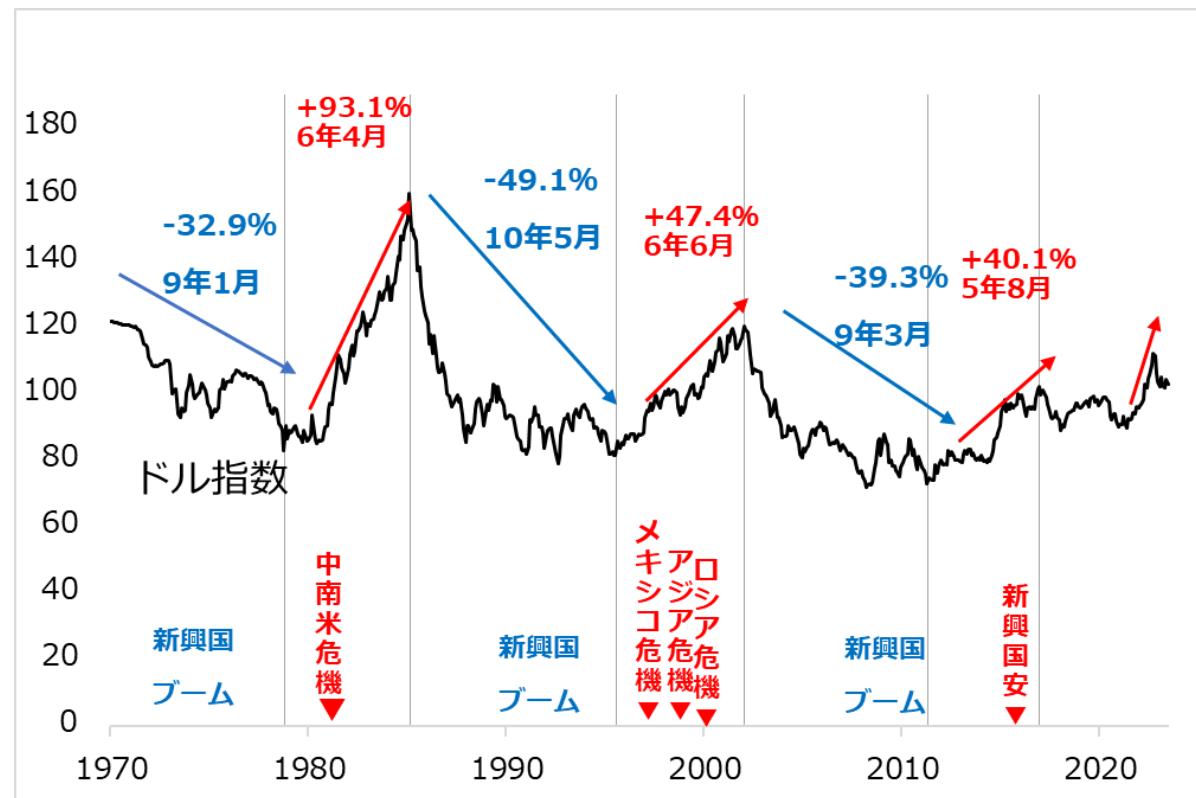
- 分散投資の資産として妙味
  - 金価格の上昇要因は
    - ・米金利低下
    - ・ドル安
    - ・リスクオフ
- ⇒ 円の上昇リスク判断  
⇒ 金の円建て評価に注意

# 他市場 (7) 新興国通貨

## 主要新興国通貨 コロナ禍からの推移



## ドル・サイクルと新興国市場

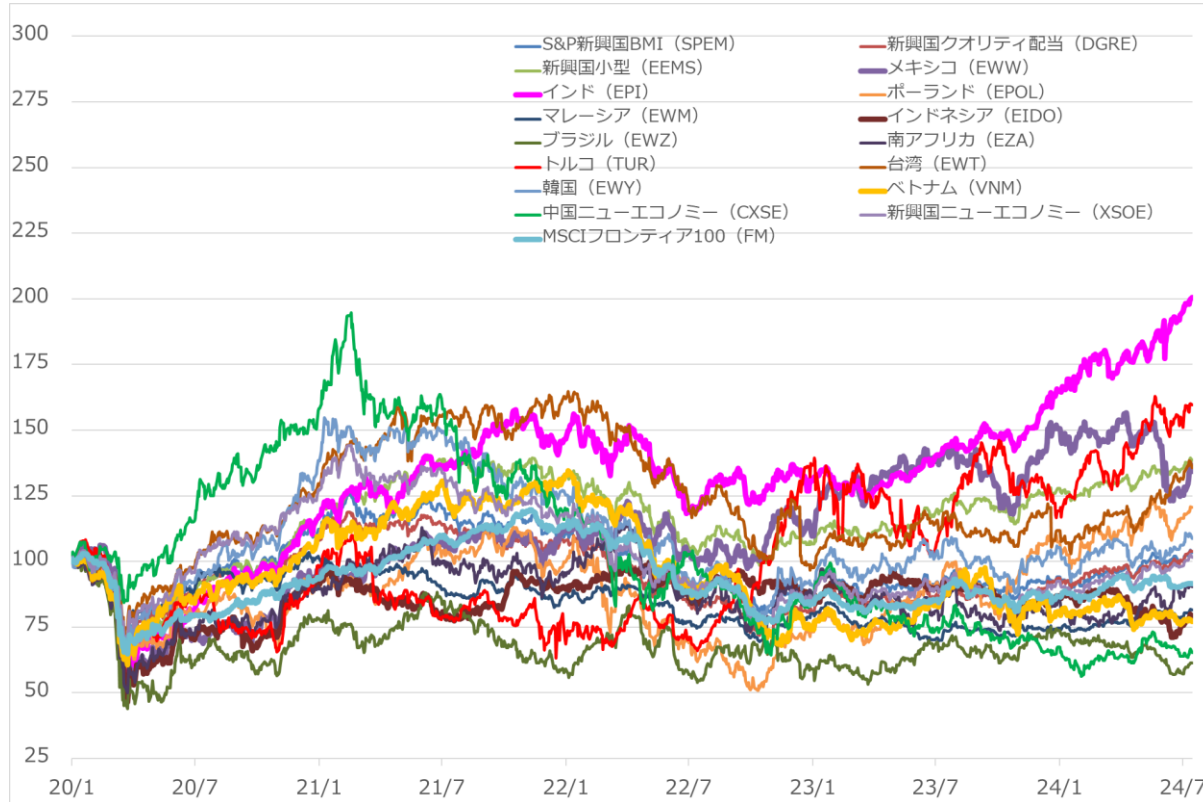


- 新興国通貨：ドル安は新興国の債務負担を軽減する支持要因 ⇒ 世界景況悪化なら脆弱化
- ：ドル高は新興国の圧迫要因

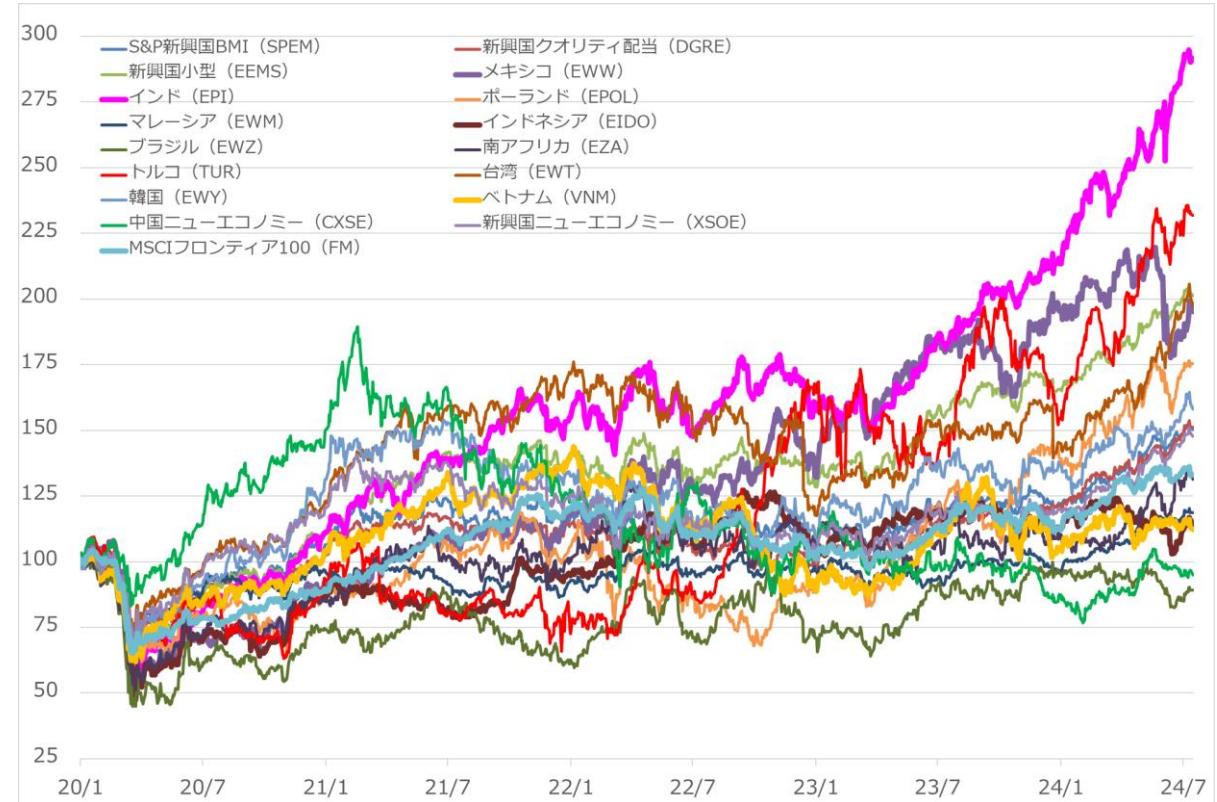


# 他市場 (8) 新興国株

## 新興国株式ETF (ドル建て評価)



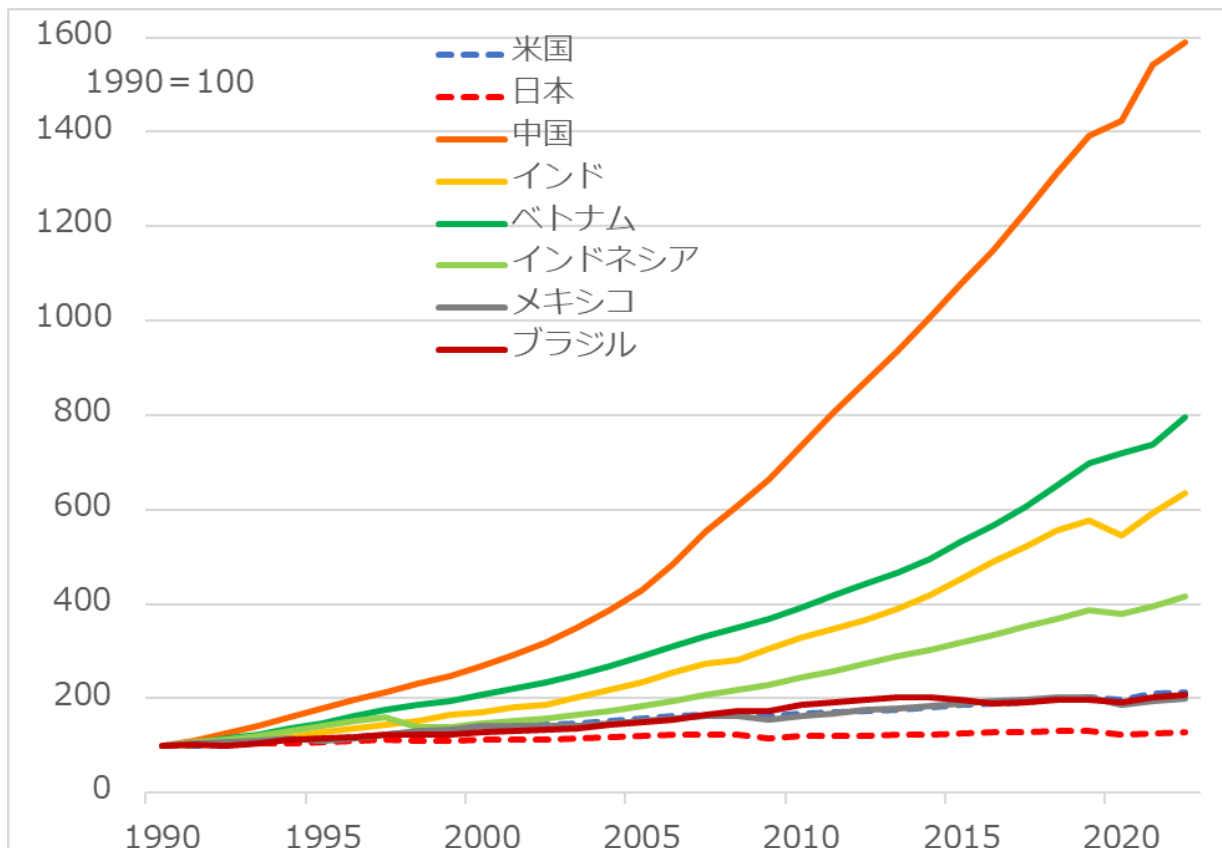
## 新興国株式ETF (円建て評価)



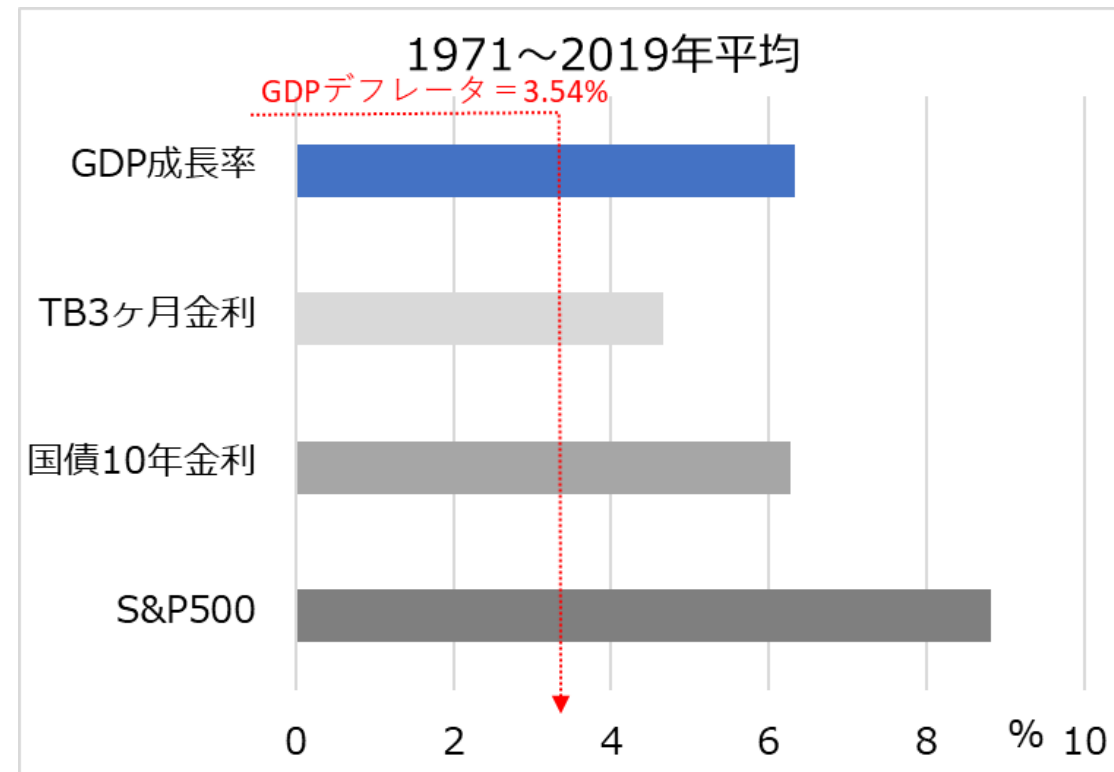
- **新興国株** 自国通貨建て? ドル建て? 円建て?
- 2000~2008年の債券投資一辺倒でなく、株式投資が活況

# 他市場 (9) 経済成長と長期投資

## 主要新興国と米日の実質GDP推移



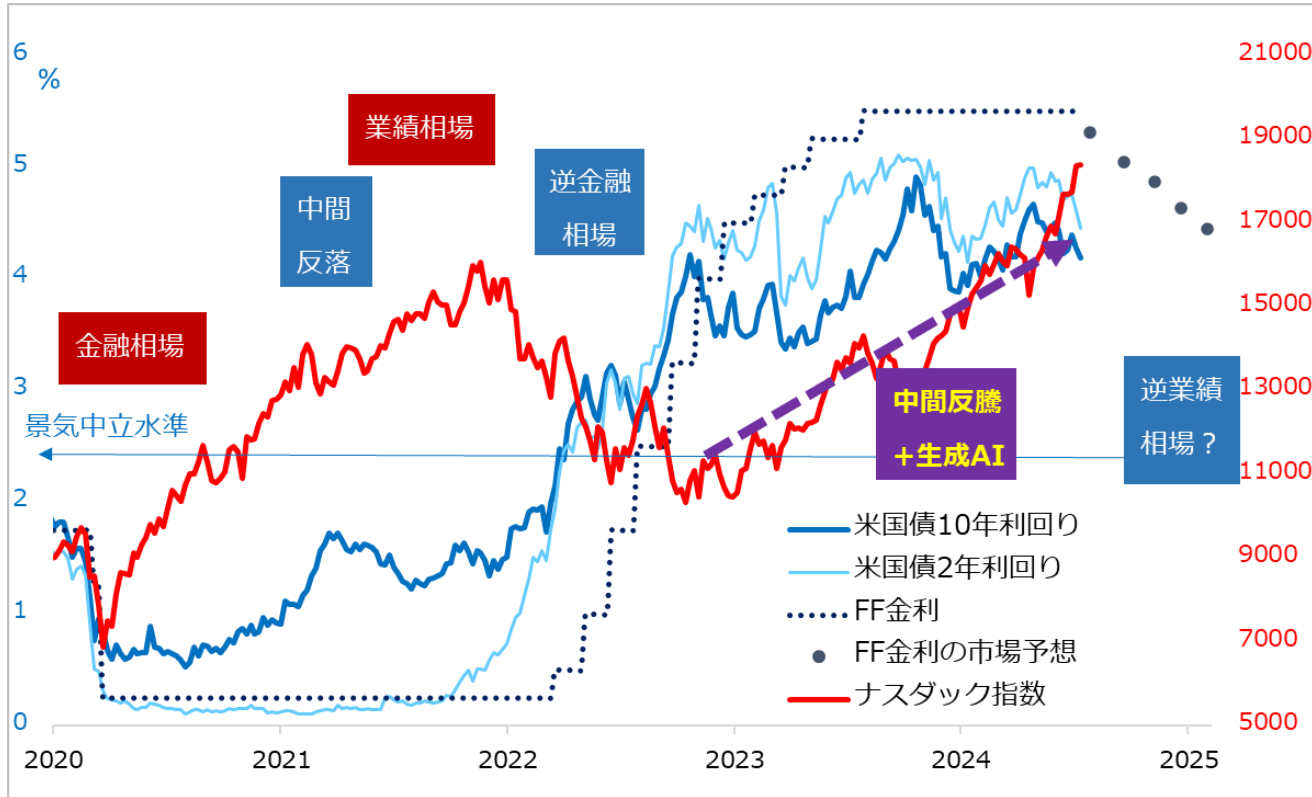
## 米国50年のGDP成長率と金融収益率 (年平均)



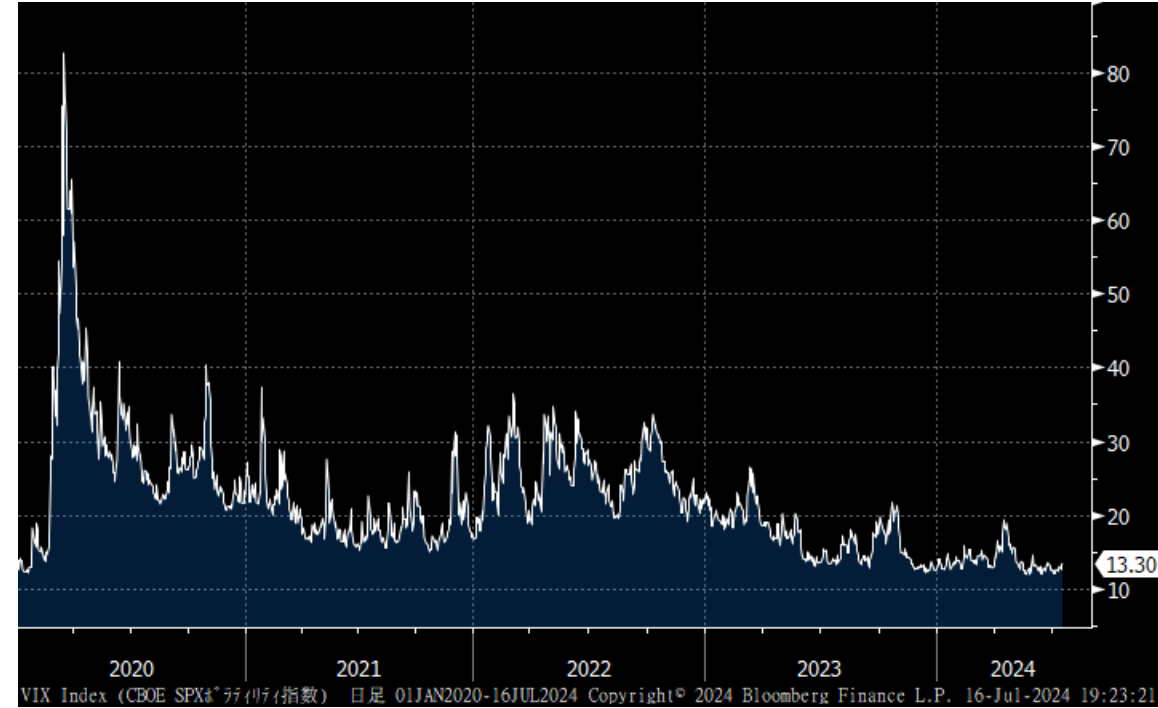
- 新興国の長期投資：期待される**実質**成長率の高さを見て、ドル評価が基本
- 新NISAでオルカンの意義とリスク：「 $r > g$ 」、複利、長期趨勢と資産のリスクを混同しない

# 他市場 (10) 米株式

## ナスダック指数と米金利のサイクル対応



## VIX指数



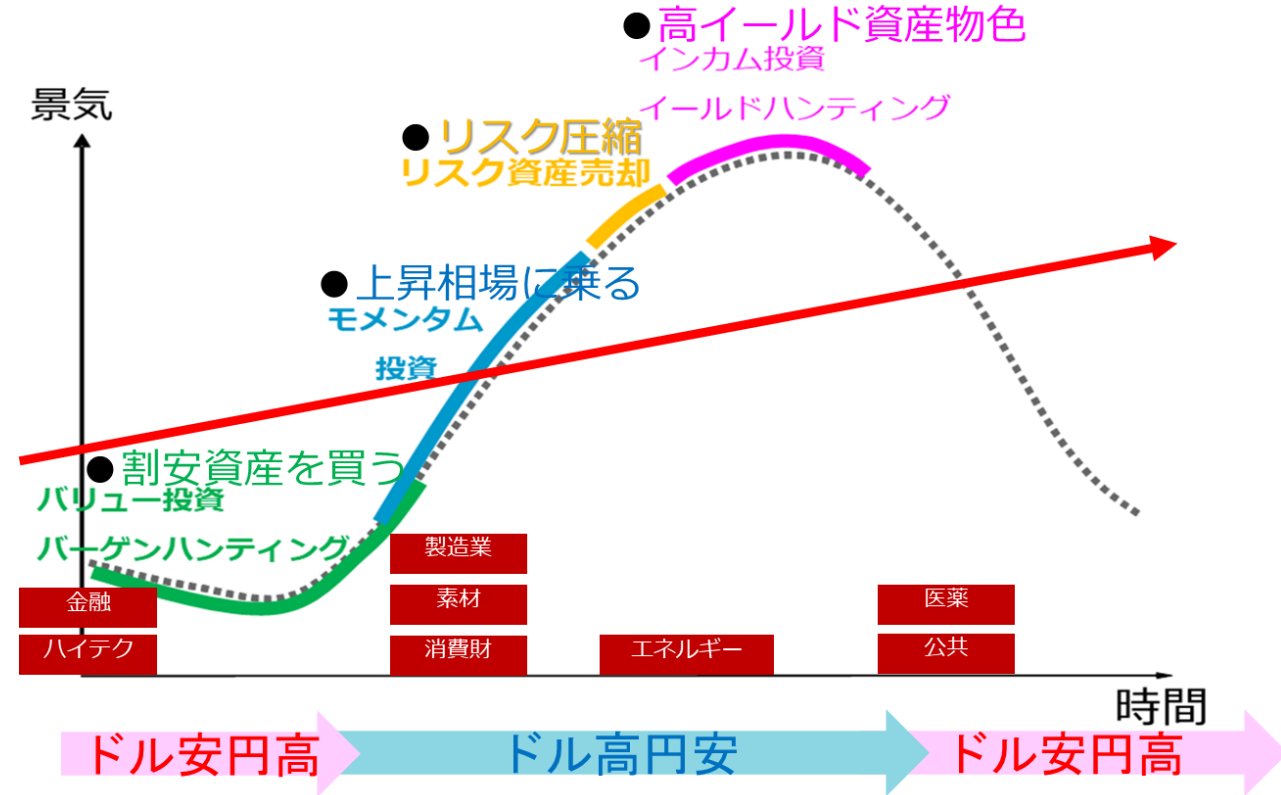
● 米高金利下では、単純には株式投資を推奨しがたい ⇒ 景気持続 + 生成AI・半導体トレンド

# 他市場 (11) 米債券・金利

## 米国債と社債の利回り



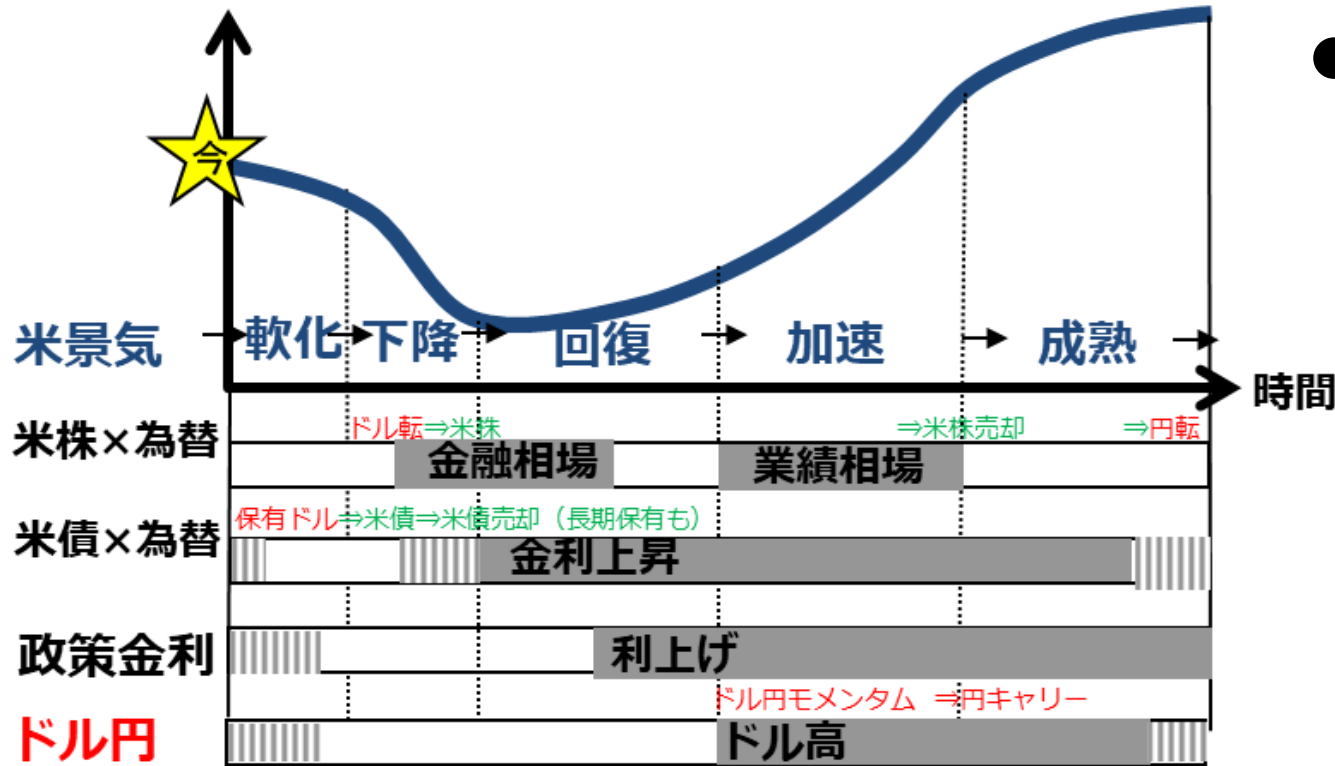
## 米株式・債券・金利のサイクル投資



● 米高金利長期化 ⇒ イールドハンティング期間の長期化 ⇒ 長中期債、MMFなど

# 他市場 (12) 円転・円投

## 円ベース投資サイクル



### ● 円資金のドル転投資

⇒ ケース分けして時間分散、時間軸で評価  
ケース

**A** : 米金利低下 : 円高 vs 米債高  
米株高、日本株?

**B** : 米金利低下 : 円高 vs 米債高  
米株安、日本株安

**C** : 米金利上昇 : 円安 vs 米債安  
(でも高金利享受)  
米株?、日本株底堅い?

# まとめ

1 ドル円：下降サイクルは米利下げ次第

2 円相場の全動因チェック  
・米景気→インフレ→金利→ドル円  
・地政学、中国、日銀、為替介入

3 円相場を軸に見る2024年の投資に妙味  
・米日株トレンド ・米債イールド ・金、新興国

## 【ポイント】

- A 相場要因の軽重を意識する ⇒使えない正論あり
  - B 別の時間軸で考える ⇒短視眼注意
  - C 円だけで考えない ⇒国際比較する
  - D 情報は偏向が常態 ⇒逆手に取る
- ⇒予想より、予想のロジックで対応する

## 田中泰輔プロフィール

株式会社田中泰輔リサーチ代表 米欧日メガ金融機関9社\* にて35年、トレーダーからマクロ・ストラテジストを歴任  
内外主要アナリスト調査で20年以上トップ・ランカー、日経ヴェリタス金利・為替部門5年連続1位  
著書「逃げて勝つ 投資の鉄則」「相場は知的格闘技である」「マーケットはなぜ間違えるのか」など  
楽天証券経済研究所グローバルマクロ・アドバイザー、ピクテ・ジャパン客員フェローなど  
投資の教育プログラム・情報発信で複数企業と提携  
投資助言業 関東財務局長（金商）第3367号、一般社団法人 日本投資顧問業協会会員  
1983年 慶応義塾大学（経済）卒 日本金融学会会員

## 発信中

- ・ダイヤモンド・オンライン「マーケットフォーカス」（毎月）
- ・日経ヴェリタス「田中泰輔の通貨儀礼」（隔月）
- ・楽天証券情報サイトのトウシル「マネーは語る」（レポート：隔週、動画：毎週）
- ・ピクテ・ジャパン「Pictet Market Flash」（毎週）
- ・IncomeUp 田中泰輔マーケットゼミ（レポート）、YouTube など
- ・田中泰輔リサーチ HP <https://www.tt-research.com> X @tanaka\_taisuke



\* 日本長期信用銀行、バークレイズ銀行、ABNアムロ銀行、クレディスイス銀行、クレディスイスファーストボストン銀行/証券、モルガン・スタンレー証券、リーマン・ブラザーズ証券、野村証券、ドイツ証券

# ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なる場合がございます。

また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいようをお願いいたします。



# 外国為替証拠金取引（FX）のリスクと費用等について

## 外国為替証拠金取引(FX)の取引にかかるリスク

外国為替証拠金取引（FX）は、取引通貨の価格変動や、スワップポイントの支払いにより、損失が生じるおそれがあります。

また、外国為替証拠金取引（FX）は少額の証拠金で、その差し入れた証拠金を上回る金額の取引をおこなうことができるため、大きな損失が発生する可能性があります。また、その損失額は差し入れた証拠金を上回るおそれがあります。

## 外国為替証拠金取引（FX）の取引にかかる費用等

外国為替証拠金取引（FX）の取引手数料は無料です。なお、取引にあたっては各通貨の売付価格と買付価格には差（スプレッド）があります。

スプレッドは通貨ペアごとに異なります。

## 証拠金について

〔楽天FX口座〕レバレッジコースに応じて取引金額の4%～100%(最大レバレッジ25倍)の証拠金が必要となります。

(法人のお客様の場合は、取引金額に当社が定める証拠金率(\*)を乗じた金額以上の証拠金が必要となります。)

〔楽天MT4口座〕想定元本の4%以上の証拠金が必要となります。(法人のお客様の場合は、想定元本に当社が定める証拠金率(\*)を乗じた金額以上の証拠金が必要となります。)

\*当社は、金融先物取引業協会が算出した「為替リスク想定比率」以上となる証拠金率を通貨ペアごとに定めております。

「為替リスク想定比率」とは、金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第27項第1号に規定される定量的計算モデルを使い算出されるものです。

## スプレッドについて【（例外あり）について】

通常時は広告表示のスプレッドでお取引いただいておりますが、為替市場における取引高の低下又は売買が一方向に集中しているなどの状況においてはスプレッドが広がる場合があります。

また、広告表示の値は実際の取引時のスプレッドを保証するものではなく、お客様の約定結果による実質的なスプレッドが広告表示の値と合致しない場合がありますのでご注意ください。

なお、スプレッドの拡大は、以下のような状況において発生する場合があります。

- 平日早朝時（概ね6時30分～7時30分※サマータイム期間中は一時間繰り上がります）
- 国内外の金融市場休場日（海外のクリスマス休暇や年末年始など）
- 主要経済指標の発表前後
- 震災などの天変地異や政変又は金融・経済関連の重大な出来事などの突発事象の発生時

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

## 店頭CFD取引にかかるリスクと費用等について

### CFD取引にかかるリスク

CFD取引は、お取引の対象となる銘柄の価格変動、金利相当額、配当相当額、価格調整額の支払い、各国の経済、社会情勢、金融政策、金融指標等の変動により損失が生じるおそれがあり、投資元本が保証されたものではありません。

また、CFD取引は差し入れた証拠金を上回る金額の取引をおこなうことができるため大きな損失が発生する可能性があり、その損失額は差し入れた証拠金を上回るおそれがあります。

### CFD取引にかかる費用等

CFD取引の取引手数料は無料です。なお、取引にあたっては各銘柄の売付価格と買付価格には差（スプレッド）があります。スプレッドは銘柄ごとに異なります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

### 証拠金について

株価指数CFDは個人口座、法人口座とも取引の額に対して10%以上、商品CFDは個人口座、法人口座とも取引の額に対して5%以上の証拠金が必要となります。

## 店頭通貨バイナリーオプション取引にかかるリスクと費用等について

### 店頭通貨バイナリーオプション取引にかかるリスク

当社の取扱う店頭通貨バイナリーオプションは満期時（判定時刻）に権利が自動行使されるヨーロピアンタイプのオプション取引です。取引対象である通貨の価格変動が予測通りとなった場合には利益が得られることもある反面、予想が外れ権利が消滅した場合、支払ったオプションの購入金額を全額失うこととなります。

また、オプションの購入価格と売却価格には差（スプレッド）があり売却時に損失を被る可能性があります。

### 店頭通貨バイナリーオプション取引にかかる費用等

店頭通貨バイナリーオプション取引の取引手数料は無料です。

### オプションの購入価格について

1枚あたりの最大購入価格は999円です。

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会